

このたびは スズキ ジムニー シエラ を お買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
お車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。この取扱説明書
をよくお読みいただいて、いつまでも快適なカーライフをお楽しみく
ださい。

- この取扱説明書には、お車の各部の取扱い、装備の説明、万一の
ときの処置方法などについて説明してあります。
- 「必読 安全で快適なカーライフのために」は、とくに重要な項
目ですのでしっかりお読みください。
- この取扱説明書の中で使用されている記号は、次のようになって
います。⚠警告、⚠注意、💡アドバイス のところは、とく
にしっかりお読みください。

⚠警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じ る可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある内 容、または物的損害の発生が予想される内容を示し ています。
💡アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、および知っ ておくと便利なことを示しています。

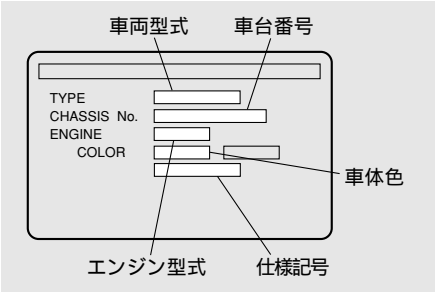
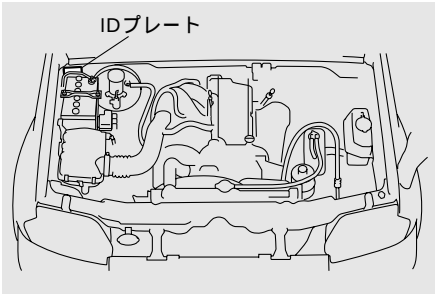
- イラストの中で使用されている ✕ の記号は、図示されている行
為の禁止を示しています。
- 保証に関することや点検整備については、別添のメンテナンスノートに記載し
ていますのであわせてお読みください。
- この取扱説明書とメンテナンスノートは、常にお車の中に保管しておいてくだ
さい。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、この取扱説明書
とメンテナンスノートをお車につけてお渡しください。
- ご不明な点は担当セールススタッフにおたずねください。
- 限定車の装備品や、スズキ販売店またはスズキ代理店で取り付けられた装備品
などについては、装備品に添付されている取扱説明書をお読みください。
- 車の仕様などの変更により、この本の内容やイラストとお車が一致しない場合
があります。あらかじめご了承ください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、IDプレートをごらんください。

ご 愛 車 の メ モ	
車名および	車名：
車両型式	型式：
車台番号	
エンジン型式	M13A型
車体色(番号)	
仕様記号	
トランス ミッション	☐ マニュアルミッション ☐ オートマチックミッション
ナンバープレート (自動車登録番号)	
ご購入年月日	年 月 日

IDプレート
エンジンルームに貼付してあります。



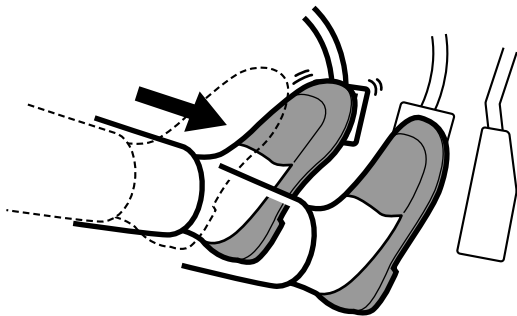
アドバイス

マニュアル車は誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターモーターがまわらず、エンジンを始動できないようになっています。

→ 114ページ (クラッチスタートシステム)

■ クラッチスタートシステム

- クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。



目 次

イラスト目次	2
1. 必読	7
• 安全で快適なカーライフのために	8
2. 安全装備	39
• シートベルト	40
• SRSエアバッグシステム （前席シートベルト補助装置）	53
• ABS（アンチロックブレーキシステム）	65
3. 運転する前に	67
• 各部の開閉	68
• 各部の調節	81
4. 運転するときは	95
• メーター、表示灯、警告灯の見かた	96
• 運転装置の使いかた	111
• スイッチの使いかた	106
5. 装備品	135
• エアコン、ヒーター	136
• オーディオ	143
• 室内装備	145
6. お車との上手なつきあいかた	153
• お手入れ	154
• 寒冷時の取扱い	161
7. 万一のとき	171
• 工具、ジャッキ、スペアタイヤ	172
• パンクしたとき	175
• 故障したとき	181
• けん引してもらうとき	184
• バッテリーがあがったとき	187
• ヒューズを交換するとき	190
• ランプの電球を交換するとき	193
• オーバーヒートしたとき	194
• 事故が起きたとき	196
サービスデータ	197
さくいん	201
お車についてのご相談、ご意見は	209

イラスト目次

タイプにより異なる装備も含んでいます。

ルーフレール 12

ワイパー / ウォッシャー 108

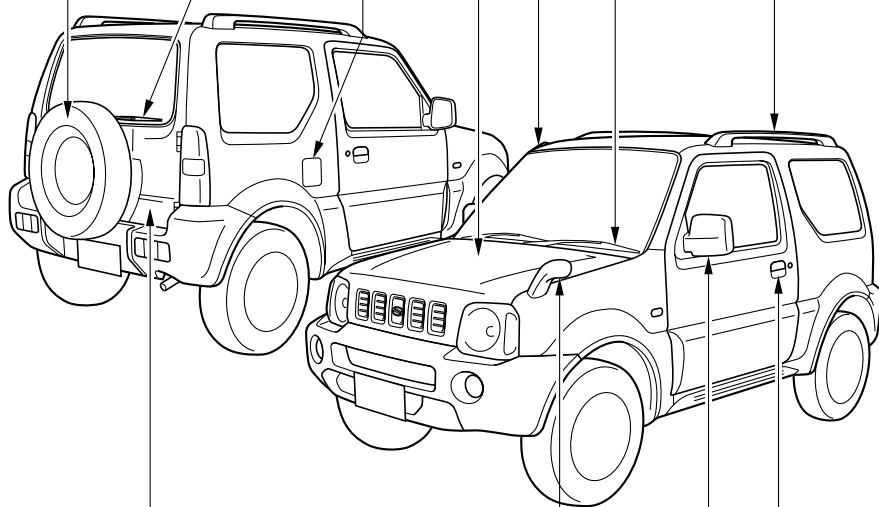
アンテナ 144

ボンネット 78

燃料補給口 (フューエルリッド) 80

リヤワイパー / ウォッシャー 109

スペアタイヤ 173

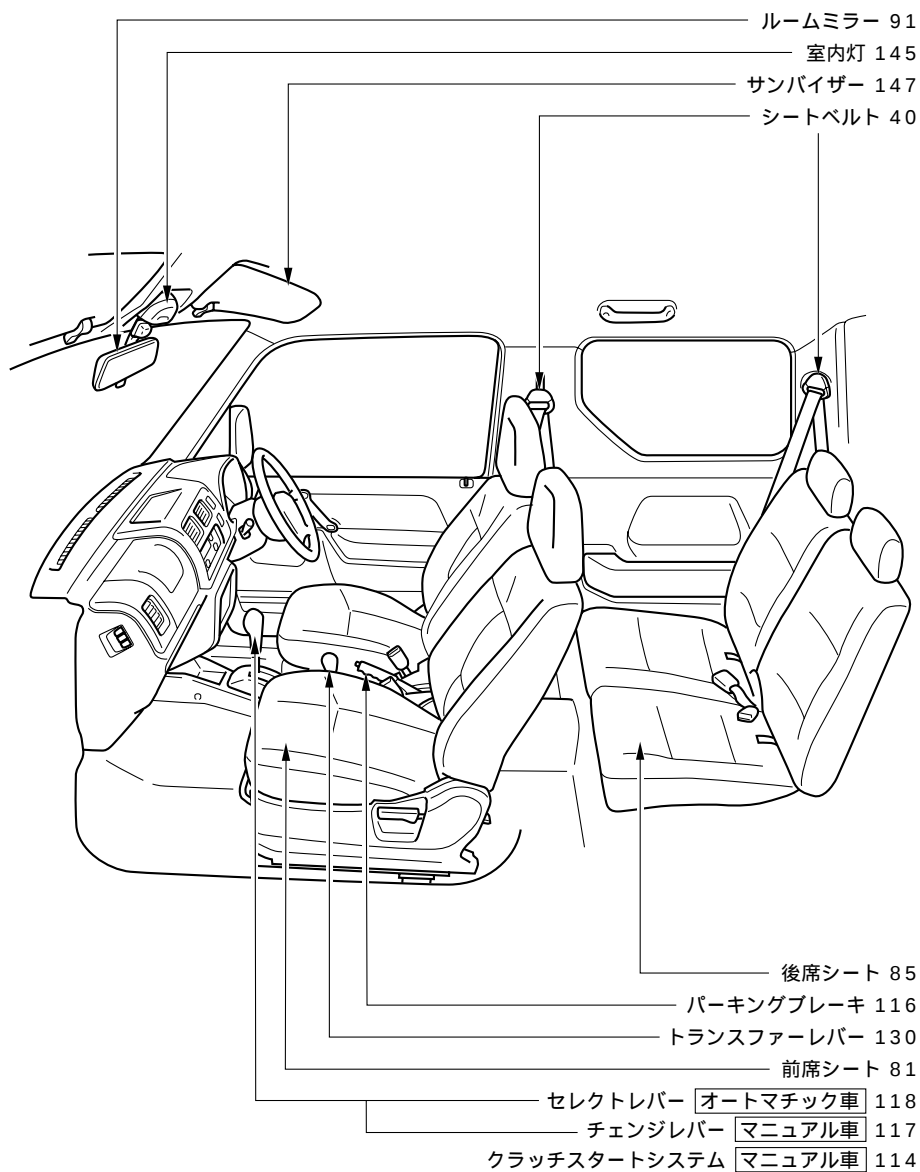


バックドア 70

サイドアンダーミラー 94

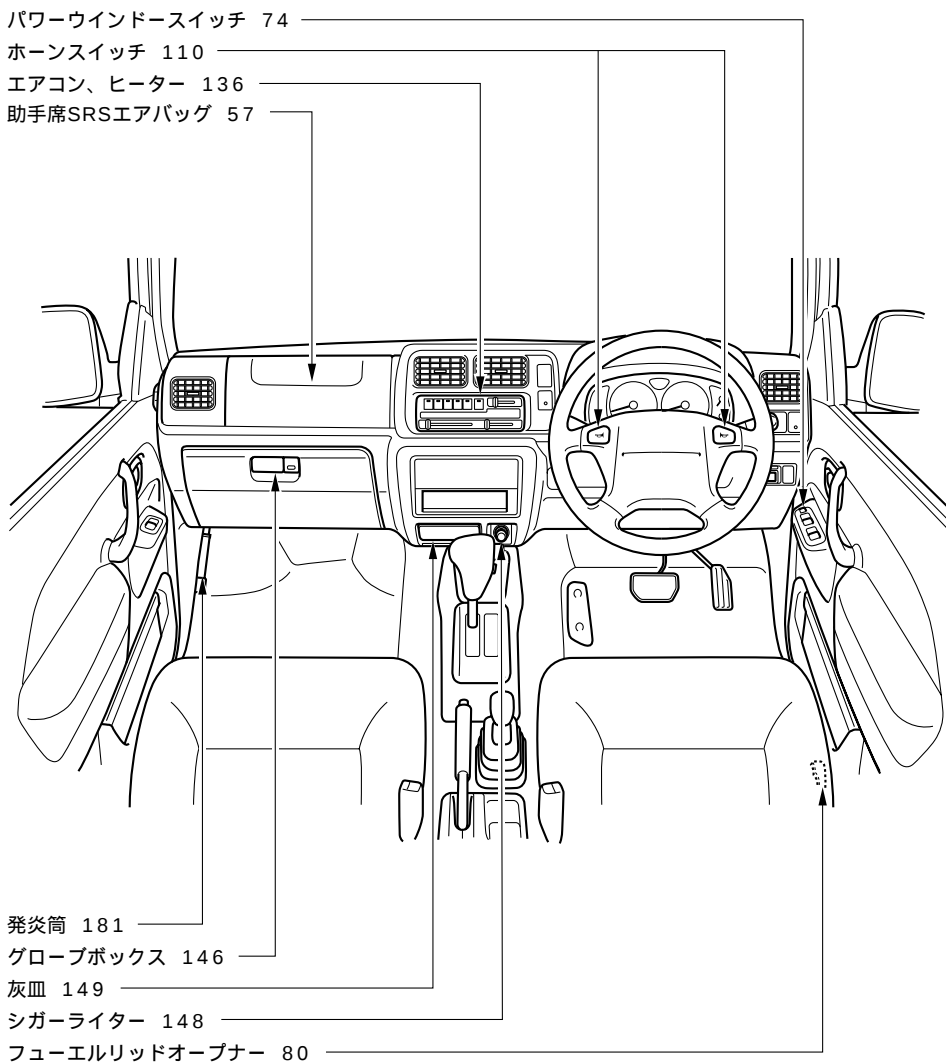
ドアミラー 92

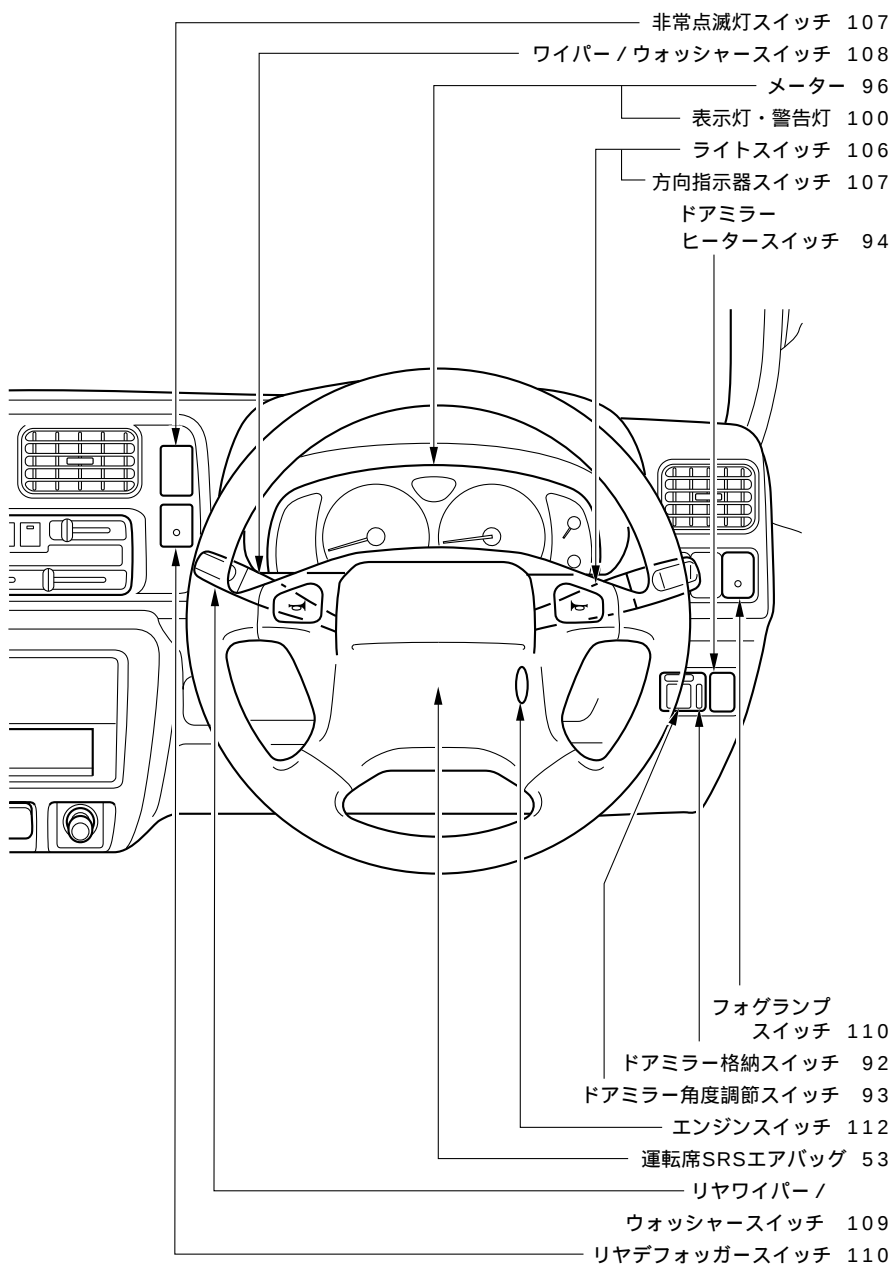
ドア 69



イラスト目次

タイプにより異なる装備も含んでいます。





[illegible]

1. 必読

安全運転が第一

お車に装備されているシートベルト、SRSエアバッグシステム、ABS（アンチロックブレーキシステム）などの安全装備も、乗員の安全確保には限界があります。法定速度を厳守するとともに、スピードを控えめにして安全運転に心がけてください。

安全で快適なカーライフのために

出発の前に	8
お子さまを乗せるときは	13
走行中は	17
スタック（立ち往生）したときは	21
駐車するときは	22
オートマチック車を運転するときは	24
4WD車を運転するときは	27
SRSエアバッグ車を運転するときは	31
こんなことにも注意して	33

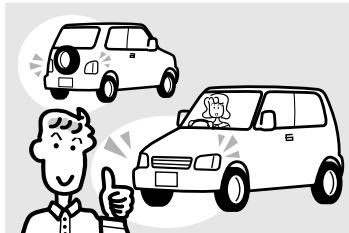
安全で快適なカーライフのために

出発の前に

■ 日常点検を確実に

- 事故や故障を未然に防ぐために、お車の走行距離、使用時の状態などから判断して適切な時期に日常点検をしてください。

→ メンテナンスノート（日常点検）



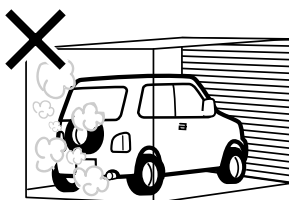
■ いつもと違うときは

- 次のようなときはお車に異常があることが考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - 地面に油や液の漏れたあとが残っているとき
 - ブレーキ液が不足しているとき
 - 走行中に、いつもと違うにおい、音、振動がするとき
 - ハンドルやブレーキなどを操作するときの感じがいつもと違うとき

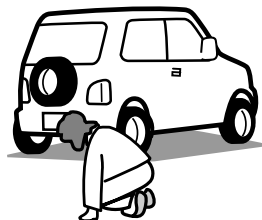


■ 空気の流れの悪いところではエンジンをかけたままにしない

- 換気の悪い車庫や空気の流れの悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
- 排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、排気ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



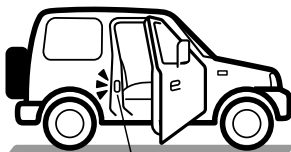
- 排気管はときどき点検してください。排気管に穴あきやひび割れがあったり、排気音がいつもと違うときは、必ずスズキサービス工場で点検を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



- エンジンがかかっているときは、バックドアを開けたままにしないでください。バックドアが開いていると、排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。
- 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、エアコン、ヒーターの内外気切替えを外気導入に切り替え、ファンを強にして新鮮な空気を車内に入れてください。そのまま放置すると、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。
空気を入れ替えても排気ガスが侵入してきたと感じる場合は、すみやかにスズキサービス工場で点検整備を受けてください。

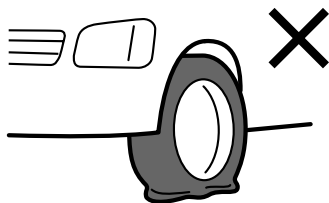
■ タイヤの空気圧を点検して

- タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
- メンテナンスノート（日常点検）



空気圧ラベル

- タイヤ空気圧が極端に低い状態のまま走行しないでください。バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 指定空気圧と異なると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。
例えば、ABS（アンチロックブレーキシステム）の場合、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、パートタイム4WD車のシステムでは、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

安全で快適なカーライフのために

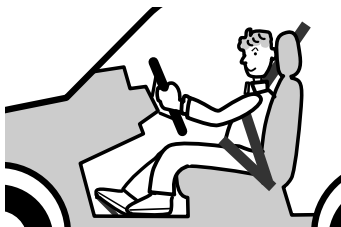
出発の前に

■ 正しい運転姿勢となるようにシートを調節

- シートの前後位置や背もたれの角度の調節は走行前に行なってください。走行中の調節は思わぬ位置に調節されたり、固定が不十分になったりするおそれがあります。

→ 82ページ（調節のしかた）

- シートの背もたれは必要以上に倒さないでください。衝突のときなどに、シートベルトが本来の効果を発揮できなくなります。



■ シートベルトを正しく着用

- シートベルトは走行前に着用し、正しく調節してください。

走行中に着用したり調節をすると、事故を起こすおそれがあります。

→ 40ページ（着用のしかた）

- 運転する人だけでなく、同乗する人にも着用させてください。



■ バッテリーの液面を点検して

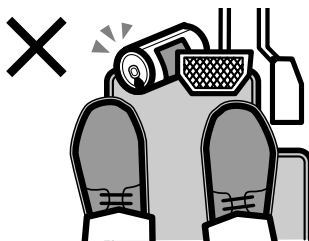
- バッテリー液面が下限（LOWER LEVEL）以下のときは、バッテリー補充液を上限（UPPER LEVEL）まで補給してください。

バッテリー液面が下限（LOWER LEVEL）以下で使用するとバッテリーの劣化を早めたり発熱や爆発のおそれがあります。

→ メンテナンスノート（日常点検）

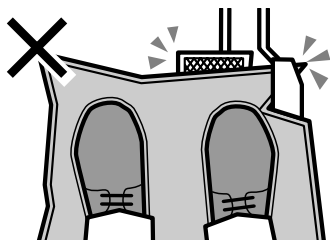
■ 運転席の足元付近に物を置かない

- 足元のまわりにあき缶などの物を置くとブレーキペダル操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなどのおそれがあります。



■ 車に合わないフロアマットは使用しない

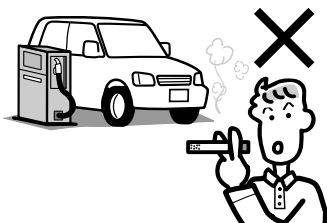
- フロアマットはペダルに引っかからないよう、車に合ったものを正しく敷いてください。ペダルをおおったり、重ねて敷くとペダル操作のさまたげになり思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ 燃料を補給するときは

燃料を補給するときは、必ず次のことをお守りください。

- エンジンは必ず止めてください。
- ガソリンは引火性が高いため、タバコの火などの火気は厳禁です。



- 燃料補給作業は必ず一人で行なってください。また、給油口に他の人を近づけないでください。

- フューエルキャップを開ける前に、車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気を除去してください。身体に静電気を帯びていると放電による火花で燃料に引火する場合があります。また、再び帯電するのを防ぐため、燃料の補給中は車内のシートにもどらないでください。
- 燃料補給時は、車のドアや窓は閉めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくりとゆめ、空気の抜ける音が止まってから取り外してください。急激に開けると、燃料タンク内の圧力が急激に抜け、燃料が吹き出すおそれがあります。
- 走行中に燃料がこぼれ出ないように、フューエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合わないフューエルキャップは使用しないでください。燃料漏れを起こすおそれがあります。必ず車に合ったスズキ純正フューエルキャップを使用してください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料の成分には有害物質を含んでいるものもありますので、気化した燃料を吸わないようにしてください。

■ 指定以外の燃料を補給しないでください

- 無鉛ガソリン以外は使用できません。
- 有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他の燃料（アルコール系、軽油など）を補給すると、エンジンや燃料配管系などに悪影響をおよぼします。

安全で快適なカーライフのために

出発の前に

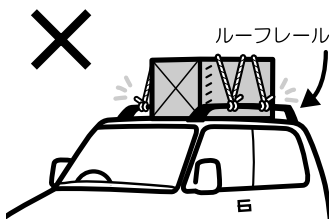
- 燃料が入った容器やスプレー缶などを車内に持ち込まない
- 引火や爆発のおそれがあります。



- 荷物を積み過ぎない
- 助手席や後席に手荷物を積み重ねないでください。
視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物が飛び出して身体にあたり、思いがけないけがをするおそれがあります。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。
車体や走行に悪い影響をおよぼします。



- ルーフの上に荷物を積まない
- ルーフレールなどにロープをかけて、ルーフの上に荷物を積まないでください。

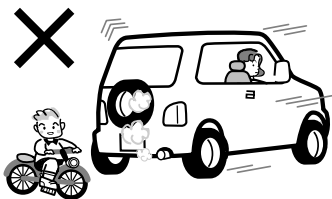


- 窓越しのエンジン始動はしない
- 窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ず運転席にすわって行なってください。

→ 114ページ（エンジンのかけかた）



- 車を発進させるときは周囲をよく確認
- 車の周囲の安全確認を十分に行なってから車を発進させてください。
- バックミラーだけでは車の後方の状況を十分に確認できませんので、車を後退させるときは、車からおりて自分の目で車の後方の状況を確認してください。



お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときはとくに安全確保のため、スピードを控えめに
して安全運転に心がけましょう。

■ 大人と一緒に後席に

- お子さまは、必ずシートベルトを使用して後席に乗せ、大人が隣にすわってお子さまを見守るようにしてください。助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチやレバー類のいたずらなど、運転のさまたげになるおそれがあります。
- 後席でも必ずシートベルトを使用してください。



- やむをえず助手席に乗せるときは、必ずシートベルトを使用し、助手席シートをいちばん後ろの位置にしてください。助手席シートを前に出していると、SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃でお子さまがけがをするおそれがあります。
- お子さま用シートによっては、助手席にSRSエアバッグが付いていると取り付けできないものがあります。取り付けに関しては、必ずお子さま用シートに付属の取扱説明書でご確認ください。

安全で快適なカーライフのために

お子さまを乗せるときは

■ お子さまにもシートベルトを着用させて

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどにお子さまに強い力がかかり、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートをご使用ください。使用しない場合、衝突したときなどにシートベルトによりお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

また、首がすわっていないお子さま、およびひとりすわりのできないお子さまには、ベビーシートを使用してください。取付け方法などについては、使用するお子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。

選択の目安（スズキ純正用品の場合）

	体重(kg)	身長(cm)	参考年齢
ベビーシート	10未満	75以下	新生児～12か月
チャイルドシート	9～18未満	75～105以下	9か月～4才
ジュニアシート	15～32以下	100～135以下	4才～10才

- ベビーシートやチャイルドシートを取り付けたときは、確実に取り付けられていることを確認してください。

- お子さま用シートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに取り付けるか、または、使用しないときは荷室に収納してください。

シートから取り外したまま客室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物にあたるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

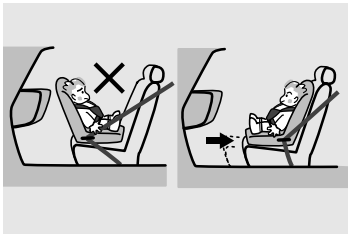
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けができないものもあります。

使用する前に、お子さま用シートに付属の取扱説明書でご確認ください。

- 助手席には、ベビーシートなど後ろ向き装着のお子さま用シートを取り付けしないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能なお子さま用シートでも、後ろ向きには取り付けしないでください。

助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。やむをえず、助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるときは、前向きに取り付け、助手席シートをいちばん後ろの位置にした上で、ジュニアシートはジュニアシートに付属の補助ベルトで固定し、チャイルドシートは車両のシートベルトで固定してください。

また、チャイルドシートによっては、助手席にSRSエアバッグが付いていると取り付けできないものがあります。



- チャイルドシートやジュニアシートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。

チャイルドシートやジュニアシートが適切に固定されなかったり、衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 衝突したときなどにお子さま用シートを使用しているもお子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。

また、万一事故にあって、お子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用せずに交換してください。

お子さまを守るシートとして性能を十分発揮できないおそれがあります。

■ お子さまをシートベルトで遊ばせないで

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付きシートベルトの場合、シートベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいるときに誤ってチャイルドシート固定機構を作動させると、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。

万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまいバックルも外せない場合は、ハサミなどでベルトを切断してください。



安全で快適なカーライフのために

お子さまを乗せるときは

■ ドア、ウインドーの開閉やシートの調節は大人が行なって

- お子さまの手、足、首などをはさまないように開閉や調節をしてください。
- お子さまが自分でパワーウインドーを操作しないように、ウインドーロックスイッチをご使用ください。

→ 76ページ (ウインドーロックスイッチ)



■ 窓から顔や手を出させない

- お子さまが手や顔などを出さないように注意してください。

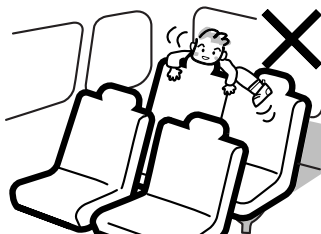
車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害を受けるおそれがあります。



■ お子さまを荷室に乗せないでください

- 荷室は、人が乗る構造になっていないため、お子さまを乗せないでください。急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、停車中であってもお子さまを荷室で遊ばせないでください。



■ 車から離れるときはお子さまだけを車内に残さない

- 炎天下の車内は高温になり、お子さまが熱射病にかかるおそれがあります。
- お子さまのいたずらで、車の発進や火災などの事故を起こすおそれがあります。
- お子さまは車内に残さないでください。
- エンジンをかけてエアコンをつけていたとしても、車内にはお子さまを残さないでください。

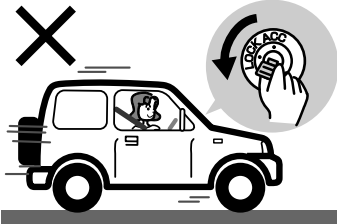


走行中は

■ 走行中はエンジンスイッチを切らない

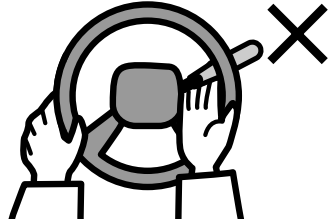
走行中はエンジンを止めないでください。

- ブレーキ倍力装置が働かないため、ブレーキペダルを踏むとき強い力が必要になります。
- パワーステアリングのパワー装置が働かないため、ハンドルが重くなります。
- マニュアル車の場合は、エンジンスイッチを **LOCK** にしてキーが万一本抜けると、ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなります。



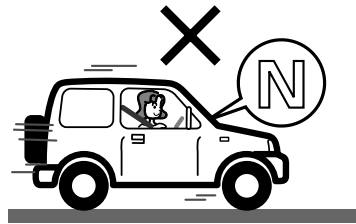
■ 走行中はハンドルの中に手を入れてスイッチなどを操作しない

- ハンドル操作のさまたげになり、思いがけない事故の原因となります。



■ 走行中はニュートラルにしない

- チェンジレバーまたはセレクトレバーを走行中にニュートラルにしないでください。エンジンブレーキがまったくきかないため、思いがけない事故の原因となります。



安全で快適なカーライフのために

走行中は

■ 長い下り坂ではエンジンブレーキを併用して

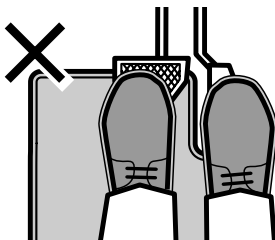
- 走行中にブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキがきかなくなるおそれがあります。
- 長い下り坂ではエンジンブレーキ（ ）を併用してください。走行速度に合わせて、**マニュアル車**の場合はギヤを1速ずつおとし、**オートマチック車**の場合はセレクトレバーを **2** または **L** にします。

→ 117、120ページ（速度範囲）エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足をのけたときにかかるブレーキのことです。エンジンブレーキは低速ギヤほどよくききます。



■ ブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

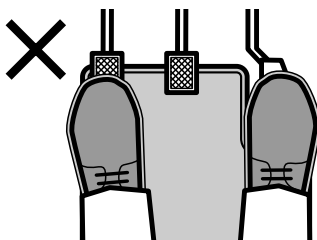
- ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、ききが悪くなるおそれがあります。



■ クラッチペダルに足をのせたまま走行しない

マニュアル車

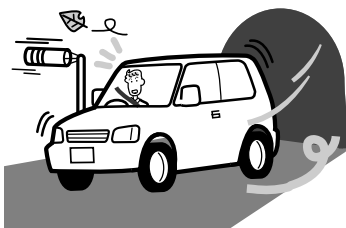
- クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱して思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ 横風が強いときは

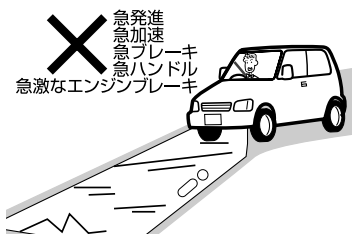
- トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックが通り抜けるときに、横風を受けて車が横に流されることがあります。

このようなときは、あわてずハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落として進路を立て直してください。



■ 滑りやすい路面を走行するときはゆっくり走行

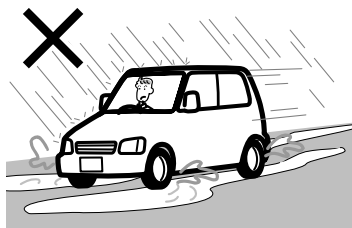
- 濡れた路面や凍結路、積雪路などでは、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。タイヤがスリップしやすく、思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ 水たまりを高速で通り抜けない

- 水たまりや路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることがあります。

この現象をハイドロプレーニング現象といい、ハンドルやブレーキがまったくきかなくなって事故を起こすおそれがあります。



安全で快適なカーライフのために

走行中は

■ 水たまり走行後や洗車後はブレーキのきき具合を確認

- 水たまりを走行したり洗車をしたあとは、ブレーキのききが悪くなることがありますので、きき具合を確かめてください。
- ブレーキのききが悪いときは低速で走行し、前後の車に十分注意しながら、ききが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキをかけたときの熱でブレーキ装置のしめりを乾かしてください。



■ 走行中こんなときどうする？

- 警告灯が点灯したら？
ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。

→ 100ページ（警告灯）

- 床下に強い衝撃を受けたら？
ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ液や燃料の漏れ、排気管など車体下部の損傷を点検してください。
漏れ、損傷が見つかったときはスズキサービス工場にご連絡ください。
- タイヤがパンクしたら？
ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してタイヤを交換してください。

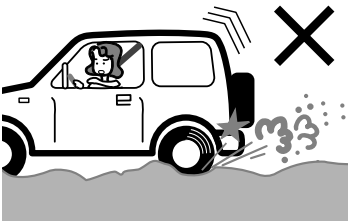
→ 175ページ（パンクしたとき）

- ブレーキペダルを踏んだとき堅く感じたら？

ブレーキ倍力装置は、エンジンからの負圧を利用してブレーキペダルの踏む力を軽減する装置です。ブレーキ倍力装置の負圧が低下している場合、ブレーキペダルを踏んだときに堅く感じる場合がありますが、異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

スタック(立ち往生)したときは

- ぬかるみや砂地などで駆動輪が空転して抜けだせなくなることをスタックといいます。
スタックから脱出しようとするときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで事故を起こすおそれがあります。
 - スタックしたときに、トランスファーレバーが〔2H〕になっているときは、トランスファーレバーを〔4H〕または〔4L〕に切り替えると脱出しやすくなります。
- 130ページ(トランスファーレバー)
- 脱出しようとするときに、タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが異常に過熱したり、破損するおそれがあります。



- 脱出のために、やむをえず前進・後退を繰り返すときは、駆動装置などの損傷のおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - オートマチック車**は、セレクトレバーを確実にに入れてからアクセルを軽く踏んでください。
 - 数回行なっても脱出できないときは、操作を中止してください。
- タイヤの下に石や木を入れたりすると脱出しやすくなります。

安全で快適なカーライフのために

駐車するときは

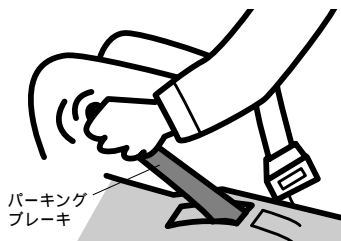
■ 駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけて

- **オートマチック車** はパーキングブレーキをしっかりかけ、セレクトレバーを **P** に入れておいてください。
- **マニュアル車** はパーキングブレーキをしっかりかけ、チェンジレバーを **R** または **1** 速に入れておいてください。
- 坂道で駐車するときは、必ず次のことをお守りください。

パーキングブレーキを確実にかけ、車が動き出さないことを確認してください。

マニュアル車 の場合は下り坂ではチェンジレバーを **R**、上り坂では **1** 速に入れておいてください。市販品の物や石などで輪止めをしてください。

- 急な坂道での駐車は避けてください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ 車の移動はエンジンをかけて

- エンジンをかけずに坂道を利用した車の移動をしないでください。ブレーキペダルを踏むとき強い力が必要となったり、ハンドルが重くなったりして、思いがけない事故を起こすおそれがあります。

■ 仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたまま車内で仮眠しないでください。

- 周囲の状況や風向きで排気ガスが車内に侵入し、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。
- 無意識にセレクトレバーやチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み、思わぬ発進をするおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けると、エンジンや排気管が異常過熱して火災が発生するおそれがあります。



■ 燃えやすい物の近くには止めない

- 枯れ草、紙くず、ベニヤ板などの燃えやすい物の近くに車を止めないでください。排気管や排気ガスは高温になるため、火災になるおそれがあります。



■ 排気管のまわりが雪などでおおわれたときは取り除く

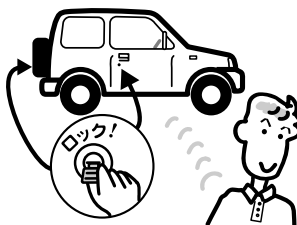
- 排気管のまわりが雪などでおおわれたまま、エンジンを回転させないでください。

排気ガスが車内に侵入し、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



■ 車から離れるときはエンジンを止めドアを施錠

- エンジンをかけたまま車から離れないでください。盗難や火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
- 車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。



■ ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けない

- 駐停車や車庫入れのときに、ハンドルをいっぱいにもわして力をかけた状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が損傷する原因となります。



安全で快適なカーライフのために

オートマチック車を運転するときは

- オートマチック車は、クラッチ操作とギヤチェンジから解放されて運転操作が楽になりますが、オートマチック車には特有の現象や操作上の注意があります。
- 118ページの「セレクトレバーの操作」、121ページの「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

■ クリープ現象とは

エンジンをかけて停車しているときは、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、アクセルペダルを踏まなくても車はゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

- 発進時や一時停止時にセレクトレバーを **P** **N** 以外に入れているときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでいてください。

■ キックダウンとは

D で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転が上がって力強い加速ができます。これをキックダウンといいます。

- 追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
キックダウンして力強い加速が得られます。
- 通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。
急激に踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

■ シフトロックとは

誤操作防止のため、エンジンスイッチが **ON** のときはブレーキペダルを踏んでいないと、セレクトレバーを **P** から他の位置へ動かすことができません。また、エンジンスイッチが **LOCK** のときは、ブレーキペダルを踏んでも、踏まなくてもセレクトレバーを **P** から他の位置へ動かすことができません。これをシフトロックといいます。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままセレクトレバー操作をしてください。
- セレクトレバーボタンを押してからブレーキペダルを踏まないでください。
シフトロックが解除されないため、セレクトレバーを **P** から他の位置へ操作できないことがあります。

■ キーインターロックとは

誤操作防止のため、セレクトレバーが **[P]** がないときはキーを抜くことができません。これをキーインターロックといいます。

- キーを抜くときは、セレクトレバーが **[P]** にあることを確認してください。

■ **[R]** (リバース) ポジション警告ブザー

セレクトレバーを **[R]** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが **[R]** に入っていることを知らせます。

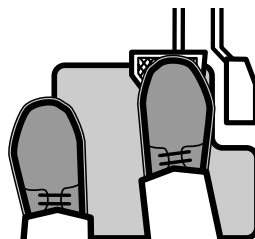
- この警告ブザーは、車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

■ ペダルを踏み間違えない

- アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えると、車が思わぬ動きをして事故を起こすおそれがあります。
- ペダルの踏み間違いを防ぐために、エンジンをかける前に、アクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで位置を確認してください。

■ ブレーキペダルは右足で踏む

- 左足では適切なブレーキ操作ができませんので、ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。



安全で快適なカーライフのために

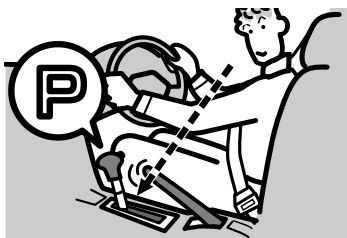
オートマチック車を運転するときは

■ セレクトレバーを操作するときは

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れていることを忘れてしまうことがあります。
車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入れる習慣をつけましょう。
- 切り返しなどで前進と後退を繰り返すときなどは、車を完全に止めてからセレクトレバーを操作してください。

■ セレクトレバーの位置を目で確認

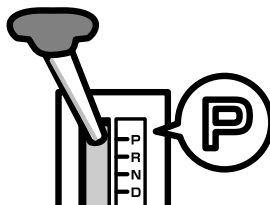
- セレクトレバーの位置が、始動時や降車時は **[P]**、前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にあることを自分の目で確認してください。



■ 車から離れるときは

- エンジンのかけたまま車から離れないでください。

万一、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていると、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み込み、思わぬ急発進をするおそれがあります。



4WD車を運転するときは

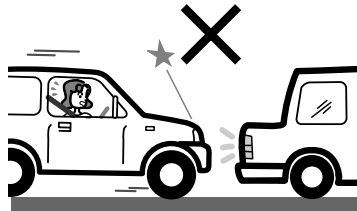
- 130ページの「2WD⇄4WDの切替え操作」もあわせてお読みいただき、4WD車の特性や操作上の注意を十分理解して正しい取扱いをしてください。

パートタイム4WD車は、切替えレバーを操作することで2WD（2輪駆動）と4WD（4輪駆動）を切り替えることができます。

- 4WDのときは、エンジンの動力が前輪と後輪に等分に伝わり力強い走行ができます。
- 2WDのときは、4WD走行に比べて燃費と静粛性のよい走行になります。

■ 路面の状況に注意して慎重に走行する

- 4WDのときは、雪道、急坂路、砂地、ぬかるみなどのタイヤがスリップしやすい路面で優れた走行性能を発揮しますが、万能ではありません。また、オフロード（不整地）、ラリー専用車ではありませんので、路面の状況に注意して走行してください。
- ブレーキ性能は2WDのときとあまり差はありません。車間距離は十分にとってください。また、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作も2WDのときと同様に慎重に行なってください。

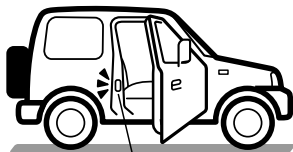


安全で快適なカーライフのために

4WD車を運転するときは

■ 4輪とも同一のタイヤを取り付ける

- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のものを装着してください。また、著しく摩耗程度の異なるタイヤを装着しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です。）例えば、ABS（アンチロックブレーキシステム）の場合、正確な車両速度が検出できなくなる場合があります、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、パートタイム4WD車のシステムでは、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。
- タイヤの空気圧は定期的に点検してください。この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルに記載してありますので、正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。



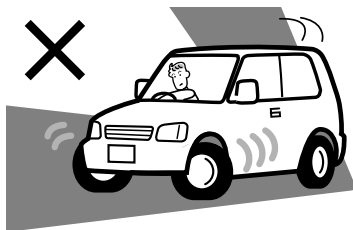
空気圧ラベル

■ 4WDのときは急旋回をしない

4WDのときに急カーブを走行したり、4WD走行で脇道や車庫に入るときに急角度の旋回をしないでください。

ハンドルをまわすときの力が大きくなるとともに、タイトコーナーブレーキング現象（ ）が起きて、ブレーキをかけたときと同じ状態になり、思いがけない事故を起こしたり、駆動装置が損傷するおそれがあります。

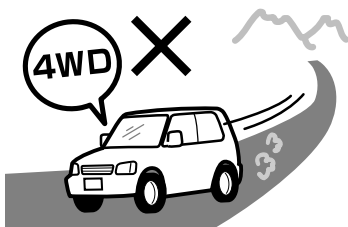
タイトコーナーブレーキング現象とは、4WD走行で急旋回をしたときに、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれない状態が生じ、ブレーキをかけたときと同じ状態になる現象のことをいいます。



■ 乾燥した舗装路は2WDで走行する

乾燥した舗装路を絶対に4WDで走行しないでください。タイヤがスリップしにくい路面の4WD走行は、前輪と後輪の回転の差を吸収しきれず次のような状態が生じます。

- 駆動装置に無理な力がかかり、駆動装置が損傷するおそれがあります。
- タイヤの摩耗が早まります。
- ハンドルが重くなります。
- カーブではブレーキがかかったような状態になります。



■ 雪のない舗装路はタイヤチェーンを外し2WDで走行する

- タイヤチェーンを装着したまま雪のない舗装路を走行すると、路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まります。

4WDで走行すると、駆動装置に無理な力がかかり損傷するおそれがあります。



安全で快適なカーライフのために

4WD車を運転するときは

■ 渡河走行はできるだけ避ける

渡河などの水中走行はできるだけ避けてください。電気系統が水に濡れたり、吸気系統や排気系統に水が入ると走行不能になります。

やむをえず渡河するときは、次のことをお守りください。

- 渡河する前に、あらかじめ水中走行する河川の深さ、地形を確かめておいてください。
- 渡河は水深30 cm以下のところを選び、河川に対して直角か川下方向に渡河してください。
- 渡河中は、波を立てないように最徐行（5 km/h以下）で走行し、セレクトレバー操作やチェンジレバー操作は避けて、一気に渡河してください。
- 渡河後は、ブレーキのきき具合を確かめてください。ブレーキのききが悪いときは低速で走行し、ききが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキをかけたときの熱でブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

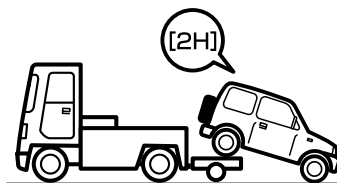


■ オフロード走行後は車を点検する

- 車体下部の損傷、各部のオイルやグリスの点検を行なってください。
- 損傷を受けていたり、オイル量の変化、オイルやグリスの白濁があるときは、ただちにスズキサービス工場にご連絡ください。

■ けん引されるときは

- 後輪だけを持ち上げてけん引するときは、トランスファーレバーを〔2H〕にしてください。
- 130ページ（トランスファーレバー）



- トランスファーレバーを〔4H〕または〔4L〕から〔2H〕に入れるときは、必ずエンジンをかけておき、オートマチック車はセレクトレバーを〔N〕または〔P〕に入れてから操作し、メーターパネル内の4WD表示灯の消灯を確認してください。
- 4WD車を移動させるときに、4WDのまま前輪だけまたは後輪だけを持ち上げてけん引すると、持ち上げられた車輪が回転して、思いがけない事故を起こすおそれがあります。

SRSエアバッグ車を運転するときは

- SRSエアバッグシステム（前席シートベルト補助装置）の効果を発揮させるために、53ページの「SRSエアバッグシステム（前席シートベルト補助装置）」もあわせてお読みいただき、正しい取扱いをしてください。

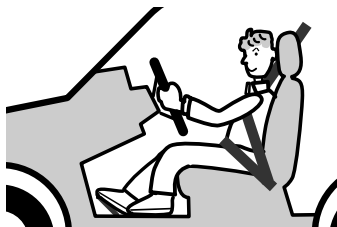
SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の正面方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していても、ハンドルや助手席側インストルメントパネルに顔面が当たるような強い衝突のときに、SRSエアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

SRSエアバッグシステムは、ふくらんだSRSエアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。

SRSエアバッグシステムは、シートベルトに代わるものではなくシートベルトと併用することにより、その効果を発揮するシートベルトの補助装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。

■ 着座姿勢

- 瞬時にふくらむSRSエアバックにより強い衝撃を受けるおそれがあるため、運転する人も助手席の同乗者も、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけ、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してすわってください。



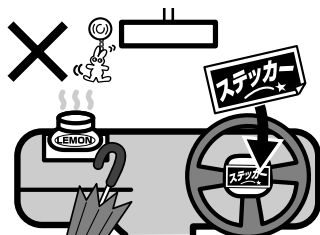
- ハンドルやインストルメントパネルに頭部や胸などを近づけたり寄りかかったりしないでください。

安全で快適なカーライフのために

SRSエアバッグ車を運転するときは

■ SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

- ハンドルを交換したり、ハンドルのパッド部にステッカーを貼ったり、カバーでおおったりしないでください。
- インストルメントパネル上面に、アクセサリーや芳香剤などの物を置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。
- フロントガラスにアクセサリーを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

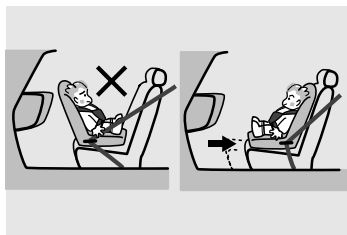


■ チャイルドシートなどの取付け

- 助手席には、ベビーシートなど後ろ向き装着のお子さま用シートを取り付けしないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能なお子さま用シートでも、後ろ向きには取り付けしないでください。

助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

やむをえず、助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるときは、シートの前後調節位置をいちばん後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。なお、ベビーシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは、必ず後席に取り付けてください。また、チャイルドシートによっては、助手席にSRSエアバッグが付いていると取り付けできないものがあります。



- ベビーシートは必ず後席に後ろ向きに取り付けてください。
- チャイルドシート、ジュニアシートも後席に取り付けるのがいちばん安全と言われています。
- 小さなお子さまを乗せるためチャイルドシートを後ろ向きに取り付ける場合は、必ず後席にシートベルトで固定してください。
- 取付け方法などについては、使用するお子さま用シートに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取り付けができないものもあります。
使用する前にお子さま用シートに付属の取扱説明書でご確認ください。

こんなことにも注意して

■ エンジンをかけた直後の空ぶかし、急加速をしない

- エンジンオイルが暖まっていないときは、空ぶかしや急加速をしないでください。



■ エンジンオイルは定期的に必ず交換

エンジンオイルやエンジンオイルフィルターは交換時期をお守りください。

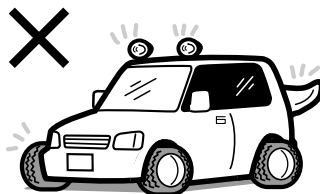
劣化したオイルや目詰まりしたフィルターは、異音や軸受け部の固着の原因となります。

- 指定グレード以上のエンジンオイルを使用してください。
 - 197ページ（サービスデータ）
 - メンテナンスノート

■ 違法改造はしない

- この車に適さない部品や装備品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線をしないでください。

思いがけない火災や事故を起こしたり、違法改造になることがあります。



- 次のような場合はスズキサービス工場にご相談ください。

- 無線機、電気製品などの取付け、取外し

この車の電子部品の働きをさまたげたり、火災、故障、バッテリーあがりなどを起こすおそれがあります。

安全で快適なカーライフのために

こんなことにも注意して

- タイヤ、ディスクホイール、ホイール取付けナットの交換
ディスクホイール、ホイール取付けナットはスズキ純正品以外を使用しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみ、ホイールが外れるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。また、故障の原因となります。

タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同トレッドパターン（溝模様）のものを装着してください。また、著しく摩耗程度の異なるタイヤを装着しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となります。

（冬用タイヤも同様です。）

例えば、ABS（アンチロックブレーキシステム）の場合、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、パートタイム4WD車のシステムでは、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

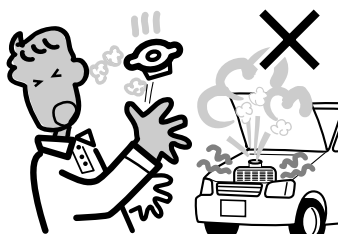
- SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーは正しく取り扱わないと、思いがけないときに作動したり、必要なときに正常に作動しないことがあります。

次のような場合は、SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーのシステムに影響をおよぼしますので、必ずスズキサービス工場にご相談ください。

- ハンドルの取外しやハンドルまわりなどの修理をするとき
- インストルメントパネルまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理をするとき
- オーディオ用品などの取付けをするとき
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理をするとき
- センターピラーまわりの修理をするとき

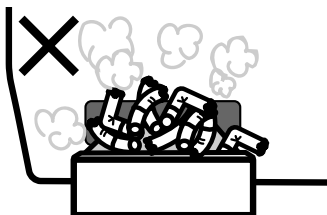
■ ラジエーターキャップを外すときはエンジンが十分に冷えてから外す

- ラジエーターキャップが熱いときに、キャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。



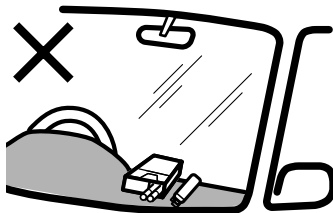
■ マッチ、タバコの火は確実に消す

- マッチ、タバコの火は確実に消し、吸い殻を入れたあとの灰皿は必ず閉めておいてください。
- 灰皿の中に吸い殻をため過ぎたり、紙などの燃えやすい物を入れないでください。



■ ライターやメガネなどを放置しない

- 炎天下で駐車するときは、車内にライターやメガネなどを放置しないでください。車内が大変高温になることがあるため、ライターなどが爆発したり、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすおそれがあります。
- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物などを押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して火災につながるおそれがあります。



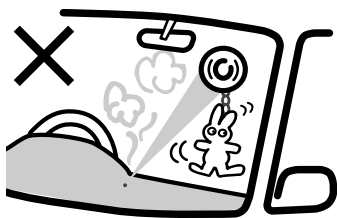
安全で快適なカーライフのために

こんなことにも注意して

■ アクセサリーの取付けに注意して

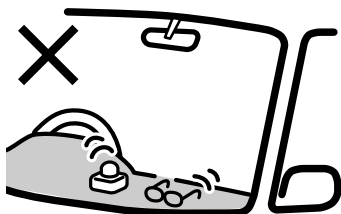
- 窓ガラスにアクセサリーを取り付けしないでください。

アクセサリーや吸盤が視界をさまたげたり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたりするおそれがあります。また、SRSエアバッグが作動したときに、アクセサリーがとんでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



■ インstrumentパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しない

- 運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになるおそれがあります。また、万一の事故のときに助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、助手席SRSエアバッグがふくらんだときにとばされて、けがをするおそれがあります。



■ 携帯電話やカーナビゲーションなどに気を取られないで

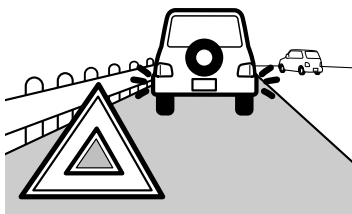
- 運転者は走行中に自動車電話や携帯電話などを使用しないでください。会話や電話の操作に気を取られ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



- 運転者は走行中にテレビを見たり、カーナビゲーション、オーディオなどの操作をしないでください。注意がおろそかになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にカーナビゲーションの画面を見るときは、必要最小限としてください。前方不注意などにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 停止表示板を備えておいて

- 万一のために停止表示板（別売り）を車に備えておいてください。
高速道路に入るときは、停止表示板の携行が法令で義務づけられています。



■ 自然環境の保護に注意して

- 道路以外の不整地を走行するときは、自然環境に配慮し自然を壊さないよう充分注意して走行してください。

■ 外装部品に力をかけすぎないで

- スポイラー、リヤバンパー、サイドスカートなどに強い力をかけないでください。破損するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジン停止したままライトをつけたり、長時間ラジオなどを聞かないようにしましょう。
- エンジンがかかっても渋滞などで長時間アイドリング状態で停車している場合は、電装品の使用を極力避けてください。
- バッテリー液が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。
ときどき点検してバッテリー液が減っているときは補充をしてください。
→ メンテナンスノート（日常点検）

■ 床にパソコンなどを置かないで

- 床にパソコンなどの精密機械を置くと、水分や湿気などにより故障するおそれがあります。

■ 動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して

- 運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

[illegible]

2. 安全装備

シートベルト	40
SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)...	53
ABS (アンチロックブレーキシステム)	65

シートベルト

シートベルトの着用について

正しい着座姿勢で正しくシートベルトを着用しないと、衝突のときなどに、シートベルトが本来の効果を発揮できません。シートベルトを着用するときは、次のことに注意して着用してください。

- シートを調節し、上体を起こして、奥深くすわります。
- ベルトのねじれを取って着用します。
- 腰部のベルトは腰のできるだけ低い位置にかけ、たるみがないようにします。
- 肩部のベルトは肩に十分にかけ、たるみがないようにします。



⚠ 警告

- シートベルトは走行前に着用し、正しく調節してください。走行中に着用したり調節をすると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行するときは、シートの背もたれを必要以上に倒さないでください。衝突のときなどに、シートベルトが本来の効果を発揮できなくなります。
- シートベルトを着用するときは洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。ベルトにたるみがあるとシートベルトが本来の効果を発揮できません。
- 運転する人だけでなく、同乗する人にも着用させてください。

⚠ 警告

- シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートをご使用ください。使用しない場合、衝突したときなどにシートベルトによりお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- また、首がすわっていないお子さま、およびひとりすわりのできないお子さまにはベビーシートを使用してください。取付け方法などについては、使用するお子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。

選択の目安(スズキ純正用品の場合)

	体重(kg)	身長(cm)	参考年齢
ベビーシート	10未満	75以下	新生児～12か月
チャイルドシート	9～18未満	75～105以下	9か月～4才
ジュニアシート	15～32以下	100～135以下	4才～10才

シートベルト

シートベルトの着用について

⚠ 警告

- 衝突したときなどにお子さま用シートを使用しているもお子さまの安全の確保には限界があります。スピードは控えめにして、安全運転に心がけてください。
また、万一事故にあって、お子さま用シートに強い衝撃を受けた場合は、外観に異常がなくても再使用せずに交換してください。
お子さまを守るシートとして性能を十分発揮できないおそれがあります。
- それぞれのシートベルトは一人用です。一本のシートベルトを二人以上で使用しないでください。

⚠ 警告

- 妊娠中や疾患のあるかたも、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、衝突のときなどに局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中のかたは、腰部のベルトを腹部を避けて腰部のできるだけ低い位置にかけ、たるみがないようにします。肩部のベルトは、肩に十分にかけてたるみがないようにし、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



シートベルトの長さ調節

シートベルトの長さを調節する必要はありません。

通常は身体の動きにあわせてベルトが伸縮し、強い衝撃を受けたときは自動的にベルトがロックされて身体を固定します。

シートベルトプリテンショナー (前席のみ)

シートベルトプリテンショナーは、エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の正面方向から強い衝撃を受けると、SRSエアバッグシステムと連動して瞬時にシートベルトを巻き取る構造になっています。

⚠️ アドバイス

- シートベルトプリテンショナーは一度作動するとシートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなりますので、必ずスズキサービス工場で交換してください。

シートベルト

シートベルトプリテンショナー（前席のみ）

■ 正常に機能させるために

シートベルトプリテンショナーの部品に手を加えるとシートベルトが思いがけないときに巻き取られたり、必要なときに正常に巻き取られないことがあります。

⚠ 警告

- 次のような作業をする場合は、シートベルトプリテンショナーに影響をおよぼすおそれがありますので、必ずスズキサービス工場にご相談ください。
- ハンドルの取外しやハンドルまわりなどの修理をするとき
- インストルメントパネルまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理をするとき
- オーディオ用品などの取付けをするとき
- ダッシュボード周辺の板金塗装および修理をするとき
- センタービラーまわりの修理をするとき

■ 作動するとき、作動しないとき

シートベルトプリテンショナーはSRSエアバッグシステムと連動しているため、61ページの「SRSエアバッグシステムが作動するとき、作動しないとき」をお読みください。

■ 廃棄や廃車

作動していないシートベルトプリテンショナーを廃棄するときは、決められた手順でシートベルトプリテンショナーを作動させてから廃棄する必要があります。

⚠ 注意

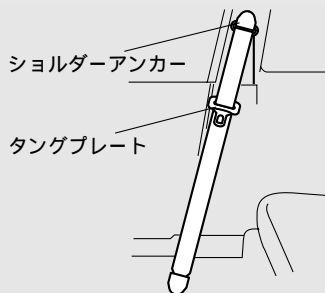
- シートベルトプリテンショナー部品を廃棄するときや、シートベルトプリテンショナー車を廃車するときは、スズキサービス工場にご相談ください。

シートベルトの衝撃低減機構（前席のみ）

■ シートベルトフォースリミッター
車の正面方向から強い衝撃を受けたとき、シートベルト巻取り装置の中に設けたシートベルトフォースリミッターが作動して、乗員におよぶ衝撃を低減します。

⚠ 警告

- 強い衝撃を受けたシートベルトは、ショルダーアンカー部およびタンゲプレート部の樹脂が強いままつで溶けてベルトに付着し、ベルトが滑りにくくなります。
このような場合、シートベルトが本来の機能を発揮できなくなるので、必ずスズキサービス工場で交換してください。



シートベルト

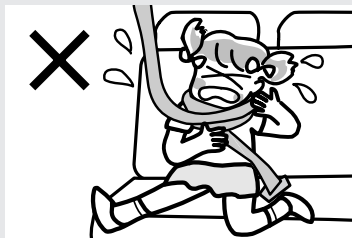
チャイルドシート固定機構付きシートベルト（後席のみ）

後席には、チャイルドシート固定機構付きシートベルトがついています。この機構を作動させるとベルトが引出し方向に動かないようにロックされるので、お子さま用シートを固定することができます。

⚠ 警告

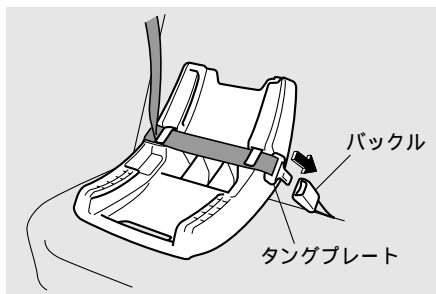
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付きシートベルトの場合、シートベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいるときに誤ってチャイルドシート固定機構を作動させると、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。

万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまいバックルも外せない場合は、ハサミなどでベルトを切断してください。



■ 固定のしかた

- 1 お子さま用シートのベース部を取り付けます。
 - 取付けかたは、お子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 2 タングプレートをバックルの中へ“カチッ”と音がするまで差し込みます。



図はスズキ純正チャイルドシート（PAO PAO）のベース部を使用して説明しています。

- 3 ベルトをゆっくりと全部引き出します。
(全部引き出すとチャイルドシート固定機構が作動します。)



- 4 ベルトを少し巻き取らせます。“カチッカチツ”と音がしますがこれはチャイルドシート固定機構の作動音です。このとき、ベルトが引出し方向に動かないことを確認します。動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠ 警告

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにお子さま用シートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

- 5 お子さま用シートのベース部に体重をかけて押しつけながら、ベルトのたるみがなくなるまでベルトを巻き取らせ、お子さま用シートのベース部をしっかりと固定し、ロックさせます。



- 6 お子さま用シートを取り付けます。
- 7 お子さま用シートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認します。

⚠ 警告

- お子さま用シートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さま用シートの種類によっては、チャイルドシート固定機構を使うと正しく固定できないものがあります。お子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。

シートベルト

チャイルドシート固定機構付きシートベルト（後席のみ）

■ 解除のしかた

バックルのボタンを押してベルトを外し、ベルトをいっぱいまで全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。

■ 身体に着用するとき

着用する前にシートベルトが完全に巻きもどされて、固定機構が解除されていることを確認してください。

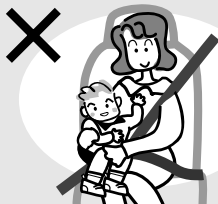
⚠ 注意

- シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かすなどしたときに、チャイルドシート固定機構に切り替わる場合があります。そのときは一度バックルを外し、ベルトをいっぱいまで巻き取らせて固定機構を解除してから、再度シートベルトを着用してください。

お子さまを乗せるときは

⚠ 警告

- お子さまは、必ずシートベルトを使用して後席に乗せ、大人が隣にすわってお子さまを見守るようにしてください。
- ひざの上にお子さまを抱かないでください。しっかり抱いていても、衝突のときなどにお子さまに強い力がかかり、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



⚠ 警告

- シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にかからないようなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートをご使用ください。使用しない場合、衝突したときなどにシートベルトによりお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- また、首がすわっていないお子さま、およびひとりすわりのできないお子さまにはベビーシートを使用してください。取付け方法などについては、使用するお子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。
- なお、選択の目安については41ページを参照ください。



シートベルト

取扱いとお手入れ

■ 取扱い

⚠ 警告

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、バックル部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。
- 衝突などでシートベルトに強い力がかかった場合は、機能が損なわれているおそれがありますので、外観に異常がなくてもシートベルトを交換してください。
- バックルや自動巻取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。十分な機能をはたさなくなるおそれがあります。
- シートベルトをドアにはさまないように、ドアを閉じるときは、シートベルトがたるみなく巻きもどされていることを確認してください。
- シートベルトの改造や取付け、取外しなどをしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せずに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ お手入れ

- 1 中性洗剤の水溶液を柔らかい布などに含ませ、軽くたたくようにして汚れを取ります。
- 2 真水を含ませた柔らかい布などで拭いて、残っている洗剤分を取ります。
- 3 残っている水分を拭き取り、直射日光を避けて乾燥させます。

⚠ 警告

- 汚れを取るときに漂白剤、有機溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下などの原因となります。

着用のしかた

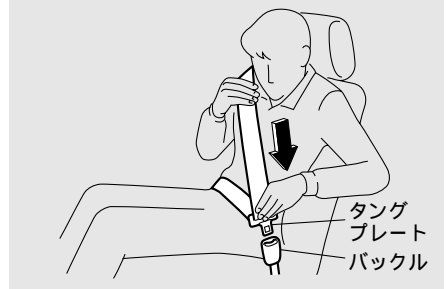
- 1 タングプレートとベルトをつかんで、ベルトをゆっくり引き出します。ベルトのねじれを取ります。



⚠️アドバイス

- 途中でベルトが引き出せなくなったときは、一度軽くもどしてください。

- 2 タングプレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



- 3 腰ベルトを腰のできるだけ低い位置にかけ、たるみがないようにします。
- 4 肩ベルトを肩に十分にかけ、たるみがないようにします。

シートベルト

着用のしかた

- 5 外すときは、バックルのボタンを押してください。ベルトは自動的に巻きもどされます。



⚠ 警告

衝突のときなどに

- ベルトにたるみがあったり、ねじれて幅が狭くなった部分があると、ベルトにより強い局所的な力を受けるおそれがあります。
- ベルトが腹部にかかっていると、やわらかい腹部がベルトにより強く圧迫されるおそれがあります。
- ベルトが肩に十分にかかっていないと、前に投げ出されるおそれがあります。

📌 アドバイス

- シートベルトを外したときに、ベルトにたるみがなく巻きもどされていることを確認してください。ベルトがねじれていると、巻きもどされないことがあります。

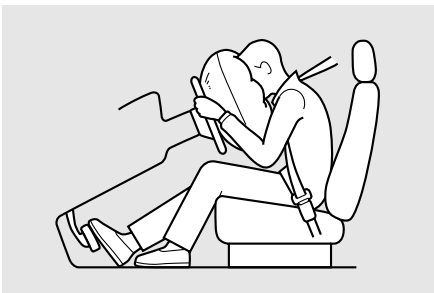
SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグ車を運転するときは

SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチが **ON** の場合に、車の正面方向から強い衝撃を受け、シートベルトを着用していても、ハンドルや助手席側インストルメントパネルに顔面が当たるような強い衝突のときに、SRSエアバッグが瞬時にふくらむ構造になっています。

SRSエアバッグシステムは、ふくらんだSRSエアバッグがクッションの役割をして、顔面への衝撃を軽減する効果があります。

SRSとはSupplemental Restraint System (サプリメンタル レストレイント システム) の略で補助拘束装置の意味です。



シートベルトは必ず着用してください。

→ 40ページ (着用のしかた)

⚠ 警告

- SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではなく、シートベルトと併用することによりその効果を発揮するシートベルトの補助拘束装置です。したがってSRSエアバッグシステムが装備されている車であっても、シートベルトを必ず着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用してください。
シートベルトが正しく着用されていないと、SRSエアバッグの効果が十分発揮できなくなるおそれがあります。



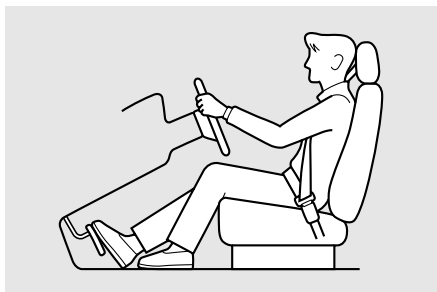
SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグ車を運転するときは

■ 着座姿勢

運転する人または助手席に乗る人は、シートに奥深くすわり、背もたれに背中を軽くつけ、シートを前方に出し過ぎないようにシートの位置を調節してすわってください。

とくに助手席に乗る人の場合、後席に乗る人のさまたげにならない位置までシートを後方に移動し、SRSエアバッグからできるだけはなれてすわってください。
(前席シートの正しい着座姿勢については81ページをお読みください。)

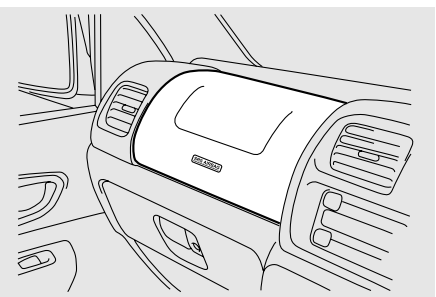
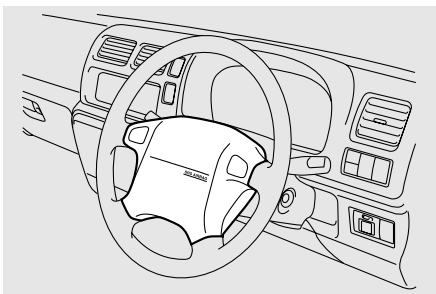


⚠ 警告

- ハンドルやインストルメントパネルに頭部や胸などを近づけたり寄りかかったりしないでください。また、インストルメントパネルには手を近づけたり足を置いたりしないでください。
SRSエアバッグの収納場所に近づき過ぎると、瞬時にふくらむSRSエアバッグにより強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 表示と収納場所

- SRSエアバッグは、“ SRS AIRBAG ”の表示があるパッドまたはインストルメントパネルの内側に収納されています。



⚠ 警告

- SRSエアバッグが収納されているパッドまたはインストルメントパネルに傷がついていたり、ひび割れがあるときは、スズキサービス工場で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動しないおそれがあります。

SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグシステムの取扱いについて

■ SRSエアバッグシステムを正常に機能させるために

- SRSエアバッグの部品に手を加えると、SRSエアバッグが思いがけないときにふくらんだり、必要なときに正常にふくらまないことがあります。
- SRSエアバッグがふくらむ範囲に物があると、物が飛ばされたりSRSエアバッグが正常にふくらまないおそれがあります。

⚠警告

- 次のことを必ずお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり誤作動につながるおそれがあります。
 - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
 - 車両前部にグリルガードなどを装備する場合は、スズキサービス工場にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときはスズキサービス工場にご相談ください。

⚠警告

- 次のような作業をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響をおよぼすおそれがありますので、必ずスズキサービス工場にご相談ください。
 - ハンドルの取り外しや、ハンドルまわりなどの修理をするとき
 - インストルメントパネルまわり、センターコンソール付近の修理および電気配線の修理をするとき
 - オーディオ用品などの取付けをするとき
 - ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
 - センターピラーまわりの修理をするとき
- SRSエアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故後は必ずスズキサービス工場で点検を受けてください。SRSエアバッグシステム本来の機能が損なわれている場合があるため、万一の場合、SRSエアバッグの効果が十分に発揮できないおそれがあります。

運転席SRSエアバッグ

⚠ 警告

- ハンドルにもたれかかるなどSRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。

SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。

- ハンドルを交換したり、ハンドルのパッド部にステッカーを貼ったりカバーでおおったりしないでください。

衝突したときなどにSRSエアバッグを正常にふくらませることができなくなるおそれがあります。



- ハンドルを外したり、ハンドルまわりなどを修理するときは、スズキサービス工場にご相談ください。思いがけずSRSエアバッグがふくらんでけがをすることがあります。

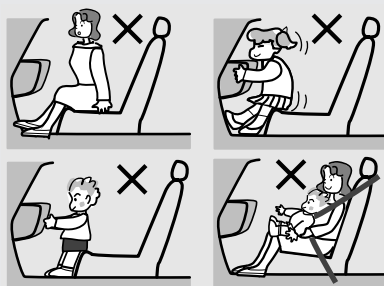
助手席SRSエアバッグ

⚠ 警告

助手席に乗車するとき、およびお子さまを乗せるときは、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが作動したときの強い衝撃で、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。

お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたり、ひざの上に抱いてすわらないでください。お子さまは助手席を避けて後席に乗せて、シートベルトを着用させてください。



- シートベルトを正しく着用できないお子さまには、ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートなどのお子さま用シートを後席に装着してご使用ください。

SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグシステムの取扱いについて

⚠ 警告

- 助手席には、ベビーシートなど後ろ向き装着のお子さま用シートを取り付けしないでください。また、チャイルドシートなど前後向きとも装着可能なお子さま用シートでも、後ろ向きには取り付けしないでください。

助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さま用シートの背面に強い衝撃が加わり、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

やむをえず、助手席にチャイルドシートやジュニアシートを取り付けるときは、シートの前後調節位置をいちばん後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。なお、ベビーシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは、必ず後席に取り付けてください。

また、チャイルドシートによっては、助手席にSRSエアバッグが付いていると取り付けできないものがあります。

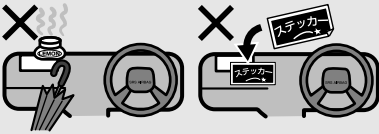


⚠ 警告

- 走行する前に、お子さま用シートが確実に固定（ガタつき・ゆるみなどがないように）されていることを確認してください。（お子さま用シートの取り扱いまたは、お子さま用シートに付属の取扱説明書に従ってください。）
- チャイルドシートやジュニアシートを取り付けたシートの背もたれを倒さないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さま用シートの種類によっては、この車に正しく取付けができないものがありますので、使用する前にお子さま用シートに付属の取扱説明書でよくご確認ください。

⚠ 警告

- インストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、アクセサリや芳香剤などの物を置いたり、傘などを立てかけたりしないでください。



- フロントガラスにアクセサリを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
- インストルメントパネルの取外し、インストルメントパネルまわりの修理、電気配線の修理などをするときは、スズキサービス工場にご相談ください。

📌 アドバイス

- 助手席用のSRSエアバッグは、助手席に同乗者が乗っていないなくても、運転席用のSRSエアバッグと同時にふくらみます。

SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグシステムの作動

■ SRSエアバッグが作動したとき

⚠ 警告

- SRSエアバッグが作動したあとは、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。
SRSエアバッグが作動したあとは、構成部品が大変熱くなっていますので、やけどなどをするおそれがあります。

⚠ 注意

- SRSエアバッグが作動すると大きな音がして白い煙のようなガスが出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物が目や皮膚などに付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

👉 アドバイス

- SRSエアバッグは、とっさの事故から乗員の生命を守るために、高温のガスにより非常に速いスピードでふくらみます。事故の形態および乗員の姿勢によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- ふくらんだSRSエアバッグはすぐにしぼむ構造になっています。
- SRSエアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ず、スズキサービス工場で交換してください。

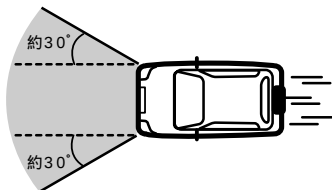
■ SRSエアバッグシステムが作動するとき、作動しないとき

こんなとき作動します

- 衝突時に変形または移動しない構造物（コンクリートの壁など）に約25km/h以上の速度で正面衝突したとき



- 車両の前方約30° 以内の方向から、上図と同等の強い衝撃を受けたとき



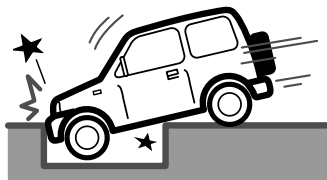
こんなとき作動することがあります

走行中車両下部に強い衝撃を受けたとき、多くの場合作動します。

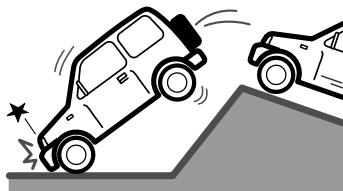
- 縁石や中央分離帯などに衝突したとき



- 深い穴や溝などに落ちたとき



- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



2. 安全装備

SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグシステムの作動

こんなとき作動しないことがあります

衝突した相手が移動したり車体が大きく変形したりして衝撃が吸収されたときや、衝撃の角度が前方約 30° を超えるとき、多くの場合作動しません。

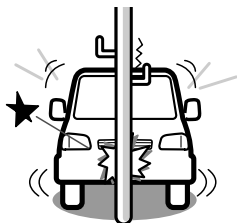
- 停車している同程度の重さの車に、約50km/h程度、若しくはそれ以下の速度で正面から衝突したとき



- トラックの荷台下などへもぐり込み衝突したとき



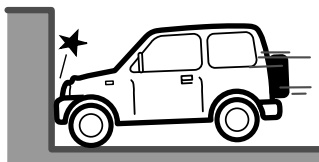
- 電柱や立木などへ衝突したとき



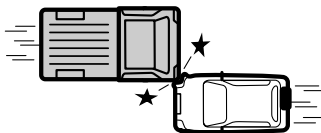
- 前方約 30° を超える角度で、コンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



- 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても衝突速度が約25km/h以下のとき



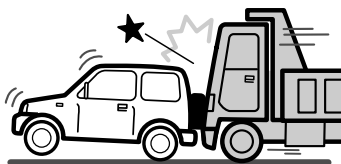
- 衝突の方向が車両の中心からずれたとき（オフセット衝突）



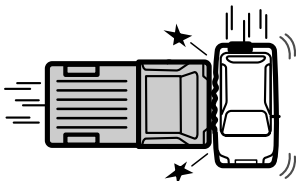
こんなとき衝撃が強いと作動する場合があります

追突されたり横方向から衝突されたときや横転などをしたとき、基本的には作動しませんが、衝撃が強いと、まれに作動する場合があります。

- 追突されたとき



- 横方向から衝突されたとき



- 横転や転覆をしたとき



SRSエアバッグシステム(前席シートベルト補助装置)

SRSエアバッグ警告灯の見かた

AIR BAG

SRSエアバッグ警告灯はメーターパネル内にあり、SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、SRSエアバッグ警告灯が約6秒間点滅したあと消灯します。

⚠ 警告

- SRSエアバッグ警告灯が次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - ・運転中に点灯したとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にしても点滅しないとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にした後、約6秒間たっても消灯しないとき

SRSエアバッグの廃棄や SRSエアバッグ車の廃車

作動していないSRSエアバッグを廃棄するときは、決められた手順でSRSエアバッグを作動させてから廃棄する必要があります。



⚠ 注意

- SRSエアバッグ部品を廃棄するときや、SRSエアバッグ車を廃車するときは、必ずスズキサービス工場にご相談ください。
正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけないときにふくらんでけがをすることがあります。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS車の取扱いについて

急ブレーキをかけたときや、雪道などの滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤがロック（車輪が回転しない）して、ハンドルを切っても旋回しなかったり、横滑りをする場合があります。

ABSは急制動や滑りやすい路面での制動時におこる車輪のロックを自動的に防止することにより、車の方向安定性や操舵性を確保しようとする装置です。

⚠注意

- ABSを過信しないでください。
ABSが作動した状態でも車の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。
ABSを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分にとって常に安全運転に心がけてください。
- ABSはタイヤのグリップ限界を超えたり、ハイドロプレーニング現象（ ）が起こった場合は効果を発揮できません。
雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象

■ 制動距離について

ABSは制動距離を短くするためのものではありません。

⚠注意

- 急ブレーキをかけたときや、滑りやすい路面でブレーキをかけたときの制動距離は、ABSのついていない車と同様の制動距離を必要とします。
- 次の場合などは、とくに速度を控えめにして、車間距離を十分とってください。
凹凸道や石だたみなどの悪路、じりり道、新雪路、道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき、道路上のマンホールなど鉄板上を通過するとき、タイヤチェーンを装着しているときなどではABSがついていない車に比べて、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。
- 急ブレーキ時には、ポンピングブレーキ（ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけた）をせずに、ブレーキペダルを踏み込んでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
- ABSは路面の状況により異なりますが、約10km/h以下では作動しません。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS車の取扱いについて

■ 振動や音について

ABS車はブレーキペダルを強く踏んだときに、ブレーキペダル、ハンドル、車体が小刻みに振動するのを感じることがありますが、これはABSの作動によるもので異常ではありません。ブレーキペダルをそのまま強く踏み続けてください。

🔊アドバイス

- エンジンをかけた直後やエンジンをかけてすぐに発進した直後に、一時的にモーター音などが聞こえます。これはシステムをチェックしている音で異常ではありません。

■ タイヤについて

⚠️警告

- ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のものを全輪に使用してください。また、著しく摩耗程度の異なるタイヤを使用しないでください。異なるタイヤを使用するとABSが正常に機能しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ABS警告灯



ABS警告灯はメーターパネル内にあり、ABSの電子制御システムに異常があると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、ABS警告灯が約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠️警告

- ABS警告灯が次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場での点検を受けてください。
 - 運転中に点灯したとき
 - エンジンスイッチを **ON** にしても点灯しないとき
 - エンジンスイッチを **ON** にした後、約2秒間たっても消灯しないとき

🔊アドバイス

- ABSの電子制御システムに異常があるとABSの機能は停止しますが、ABSのついていない通常のブレーキとして使用できます。

3. 運転する前に

各部の開閉

キー	68
ドア	69
パワーウィンドー	74
ボンネット	78
燃料補給口	80

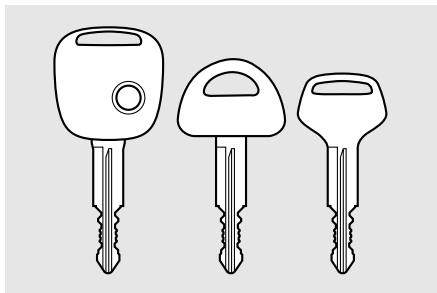
各部の調節

前席シート	81
後席シート	85
フルフラットシート	90
ルームミラー	91
ドアミラー	92
サイドアンダーミラー	94

各部の開閉

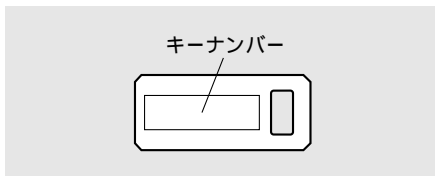
キー

- お車にはキーが2本ついてきます。
キーの組合せは、お車により異なります。
- キーは、エンジンの始動・停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使用します。
- キーを紛失したり、車内に閉じ込めたりしないように注意してください。



■ キーナンバープレート

お客さま以外のかたにキーナンバーをわかりにくくするため、キーナンバーをキーナンバープレートに打刻しました。



📌 アドバイス

- キーナンバープレートを車両以外の場所に、大切に保管してください。
万一キーを紛失したときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にキーナンバーを伝えてご相談ください。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために、キーナンバープレートをお車につけてお渡してください。

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーを **ACC** または **LOCK** にしたまま、運転席ドアを開けるとブザーが断続的に鳴ります。

キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

📌 アドバイス

- キーを抜くとブザーは止まります。

ドア

⚠注意

- ドアの開閉は大人が行い、ドアを閉じるときは、お子さまの身体をはさまないようにしてください。
- ドアを開けるときは、後ろからの車に注意して開けてください。風が強い日はとくに注意してください。
- シートベルトや荷物などをはさまないように、ドアを確実に閉めてください。半ドアの場合は、走行中にドアが開くおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、排気管の後ろでバックドアの開閉をしないでください。やけどなどのおそれがあります。
- バックドアを開けるときは完全に開けてください。開けかたが不完全な場合は、思わぬときにドアが閉じて、身体にあたるおそれがあります。
- バックドアを開けたまま走行しないでください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

🔑アドバイス

- 車から離れるときは、盗難や火災などの事故防止のため、エンジンを止めドアを施錠してください。
- 車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。

3. 運転する前に

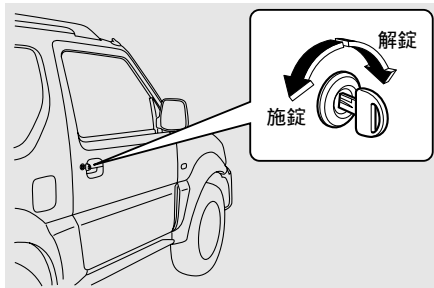
各部の開閉

ドア

■ 車外からの施錠・解錠

前席ドア

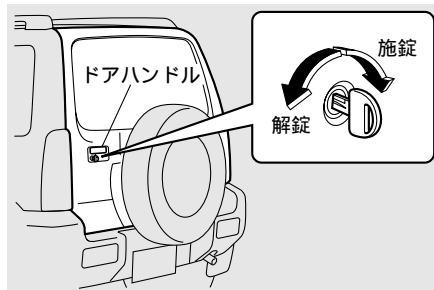
キーを差し込んで車の前方向にまわすと解錠、後ろ方向にまわすと施錠できます。



バックドア

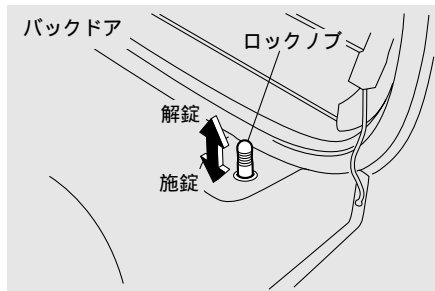
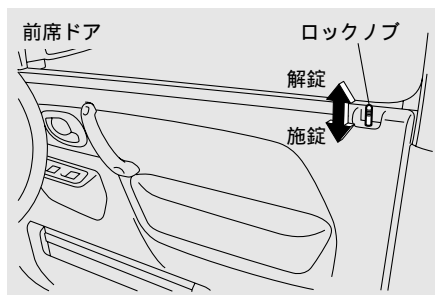
キーを差し込んで右にまわすと施錠、左にまわすと解錠できます。

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。



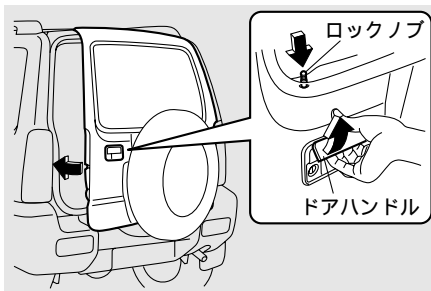
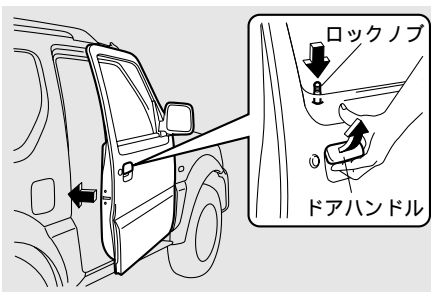
■ 車内からの施錠・解錠

ドアを閉めてロックノブを押し下げると施錠、引き上げると解錠できます。



■ キーを使わない施錠

ロックノブを押し下げ、ドアハンドルを引いたままドアを閉めると施錠できます。



🔑アドバイス

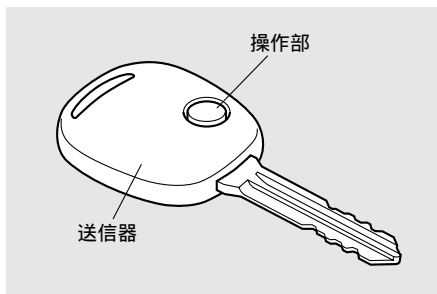
- キーを使わないで施錠をするときは、キーの閉じ込み防止のため、キーが手元にあることを確認してから施錠してください。

各部の開閉

ドア

■ キーレスエントリー

すべてのドアが閉まっているときに、キーを使わないでドアの施錠・解錠ができます。車から約2m以内のところで送信器の操作部を押すごとに、すべてのドアを同時に施錠・解錠することができます。



📌 アドバイス

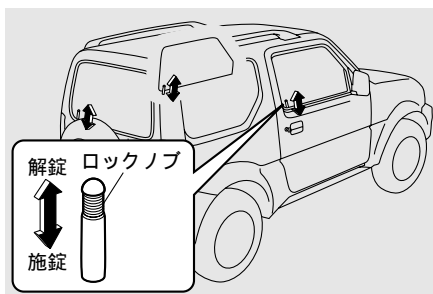
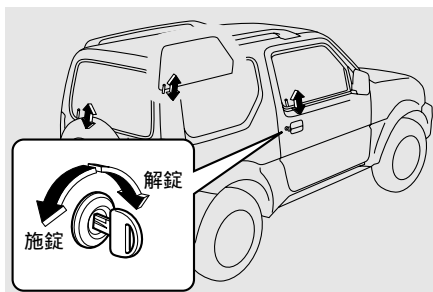
- キーレスエントリーの作動を知らせる機能があります。
 - 施錠時には非常点滅灯が1回点滅し、解錠時には非常点滅灯が2回点滅します。また、室内灯スイッチがDOOR位置にあるときは、解錠時には室内灯が約15秒間点灯しますが、キーをエンジンスイッチに差し込むと室内灯は消灯します。（室内灯については、145ページをお読みください。）
- キーレスエントリーの作動を知らせる機能を、室内灯のみに切り替えることができます。
 - 室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときは、施錠時には室内灯が2回点滅し、解錠時には室内灯が約15秒間点灯します。切り替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。
- キーレスエントリーの作動距離は、周囲の影響を受けて変わることがあります。また、強い電波などが発生している場所では、キーレスエントリーが作動しない場合があります。
- 各ドアのロックノブの状態にかかわらず、送信器の操作部を押すごとに、すべてのドアが施錠・解錠されます。
- 送信器の操作部を押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的にドアを施錠します。

アドバイス

- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、またはいずれかのドアが開いているときはキーレスエントリーは作動しません。
- 車から離れるときは、盗難および火災防止のため、エンジンを止めて施錠してください。
- 車から離れるときは、現金や貴重品を車内に放置しないでください。盗難などのおそれがあります。
- 施錠したときは、ドアハンドルを引いて施錠されていることを確認してください。
- 送信器は、インストルメントパネルの上などの高温になるような場所に置かないでください。
- 送信器は落下させたり、強い衝撃をあたえたり、水洗いなどをしないでください。
- 1台の車両で2個の送信器まで使用できます。
- 送信器の操作部を押してもドアの施錠・解錠ができないときは、キーを使って施錠・解錠をしてください。
- 送信器の操作部を押しても正しい距離で作動しないときは、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。
- 送信器の操作部を必要以上に押すと、電池の消耗が早くなります。
- 送信器のご購入、電池交換、暗証コードの登録については、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

■ パワードアロック

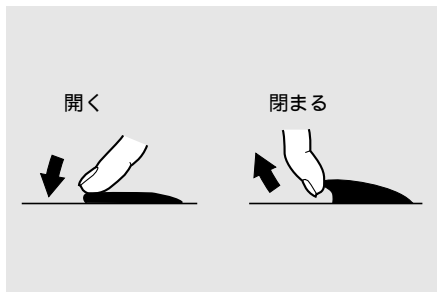
運転席ドアをキー操作またはロックノブ操作で施錠・解錠すると、助手席ドアとバックドアも同時に施錠・解錠します。



各部の開閉

パワーウィンドー

エンジンスイッチが **ON** のときに、前席ウィンドーの開閉ができます。



⚠ 警告

- パワーウィンドーは強い力で開閉するので、閉じるときは手や首をはさまないように注意してください。
- 車外より窓から手を入れて、パワーウィンドースイッチを操作しないでください。自動でウィンドーが閉じ始めたとき、手や腕などをはさむおそれがあります。

⚠ 警告

- お子さまにパワーウィンドーの操作をさせないでください。お子さまが誤ってパワーウィンドースイッチを操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウィンドーが開閉しないように、ウィンドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。
(ウィンドーロックスイッチについては76ページをお読みください。)



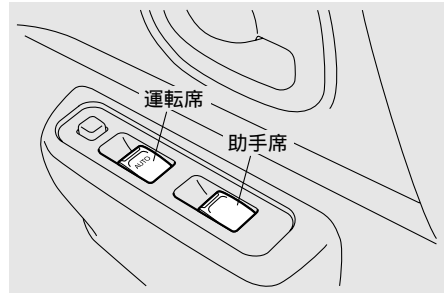
⚠ 注意

- ウィンドーガラスを開けるときは、手や腕などをガラスにふれた状態で操作しないでください。巻き込まれるおそれがあります。

💡 アドバイス

- バッテリー保護のため、開閉操作はエンジンがかかっているときに行ってください。

■ 運転席での開閉



運転席ウィンドーの開閉

- ウィンドースイッチを軽く操作すると、操作をしている間だけ開閉し、スイッチから手をはなすとその位置で止まります。
- ウィンドースイッチを強く操作すると、スイッチから手をはなしても、自動で全開または全閉します。途中で止めたいときは、操作した方向と逆の方向に軽く操作します。

助手席ウィンドーの開閉

- ウィンドースイッチを操作している間だけ開閉し、スイッチから手をはなすとその位置で止まります。

3. 運転する前に

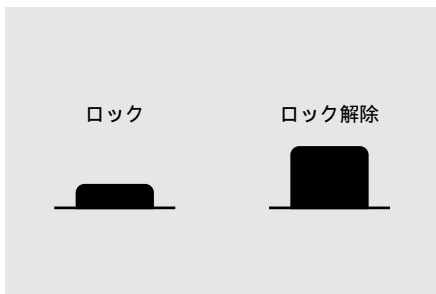
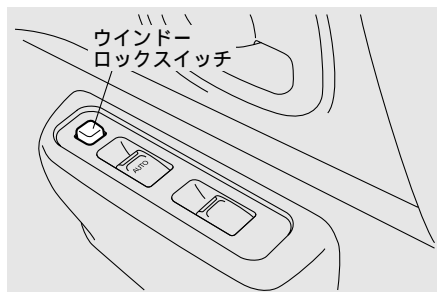
各部の開閉

パワーウィンドー

ウィンドーロックスイッチ

ウィンドーロックスイッチを押し込むと、助手席ウィンドーの開閉ができなくなります。

- ロックを解除するときは、スイッチをもう一度押します。



⚠ 警告

- お子さまにパワーウィンドーの操作をさせないでください。お子さまが誤ってパワーウィンドースイッチを操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウィンドーが開閉しないように、ウィンドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

🔧 アドバイス

- 運転席ウィンドーはウィンドーロックスイッチに関係なく開閉できます。

はさみ込み防止機構

運転席ウィンドーを閉めるときに、ウィンドーと窓枠の間に異物のはさみ込みを感知すると、ウィンドーの上昇を停止し、自動的に途中まで下降します。

はさみ込み防止機構は、次のようなときに作動します。

- 運転席のウィンドースイッチを操作して、運転席ウィンドーを自動で閉めているとき

⚠ 注意

- ウィンドーガラスを確実に閉めるため、閉まり切る直前の部分に、はさみ込みを感知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。
- バッテリーの充電が不足しているときは、はさみ込み防止機構が正常に作動しない場合があります。故意に指などをはさみ込まないでください。

🔧 アドバイス

- 故障などで、はさみ込み防止機構が作動してしまい運転席ウインドーを自動で閉めることができないことがあります。この場合、自動でウインドーが作動しないように軽くウインドースイッチをウインドーが閉まるまで引き上げ続けると閉めることができます。

- 運転席ウインドーを自動で閉めることができないときは、下記操作を行ってください。

エンジンスイッチを **ON** の位置にし、運転席ウインドースイッチを押し続け、ウインドーを完全に開けます。

運転席ウインドースイッチを引き上げ続け、ウインドーを完全に閉めます。

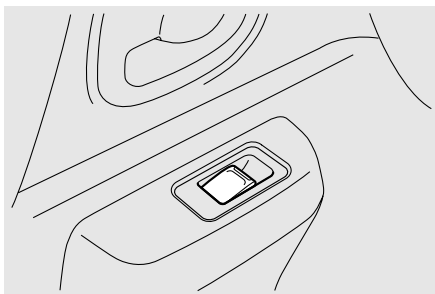
そのままスイッチを約2秒間引き上げ続けます。

上記操作を行っても自動で閉めることができない場合は、システムの異常が考えられますので、スズキサービス工場で点検を受けてください。

- 環境や走行条件により、異物をはさんだときと同じ衝撃や荷重がウインドーに加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ 助手席での開閉

- ウインドースイッチを操作している間だけ開閉し、スイッチから手をはなすとその位置で止まります。



⚠ 警告

- お子さまにパワーウインドーの操作をさせないでください。お子さまが誤ってパワーウインドースイッチを操作すると、重大な傷害につながるおそれがあります。お子さまを乗せているときは、ウインドーが開閉しないように、ウインドーロックスイッチを **ロック** 位置にしてください。

🔧 アドバイス

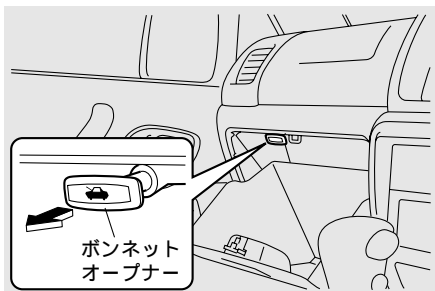
- 運転席のウインドーロックスイッチが **ロック** 位置のときは、助手席ウインドーの開閉はできません。

各部の開閉

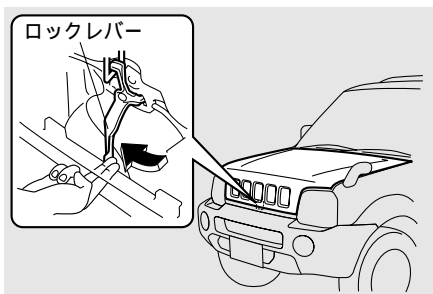
ボンネット

■ 開けかた

- 1 グローブボックス内のボンネットオープナーを引くと、ボンネットの先端が少し浮き上がります。



- 2 ボンネットのすき間に手を入れ、ロックレバーを左に動かしながら、ボンネットを持ち上げます。



⚠ 警告

- お子さまにボンネットの開閉はさせないでください。ボンネットは大変重く、開閉中にうっかり手をはなすと大きなけがにつながるおそれがあります。
また、エンジンルーム内は大変高温になっていることがあります。
- ボンネットを開けた状態のときは、お子さまを近づけないようにしてください。うっかりさわるとやけどをするおそれがあります。

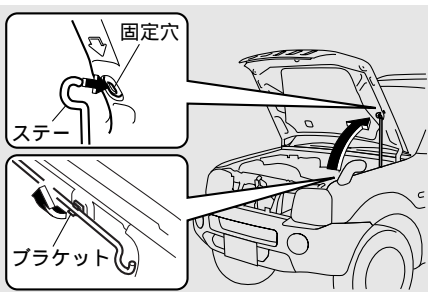
⚠ 注意

- エンジン作動中や停止後は、ロックレバーが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、ロックレバーを持つ前に必ず確認してください。

👉 アドバイス

- ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。ワイパーアームおよびボンネットが傷つくおそれがあります。

- 3 スターをブラケットから外し、固定穴に差し込んでボンネットを固定します。



⚠ 注意

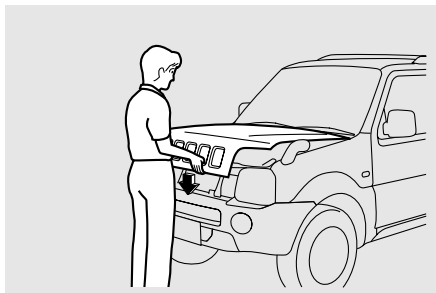
- エンジン作動中や停止直後は、スターが熱くなっていることがあります。やけどや思わぬ事故につながるおそれがありますので、スターを持つ前に必ず確認してください。
- スターは固定穴に確実に差し込んでください。スターが外れるとボンネットに身体がはさまれることがあります。
- ボンネットが風にあおられてスターが外れ、ボンネットに身体がはさまれることがあります。とくに風の強い日は注意してください。

📌 アドバイス

- ボンネットを開閉するときは、サイドアンダーミラーを格納しないでください。ボンネットおよびサイドアンダーミラーが破損するおそれがあります。

■ 閉めかた

- 1 ボンネットを片手でささえながら、スターを外してもとの位置に固定します。
- 2 ボンネットを 20 cm ぐらいの高さまで静かに下げて、手をはなします。



⚠ 注意

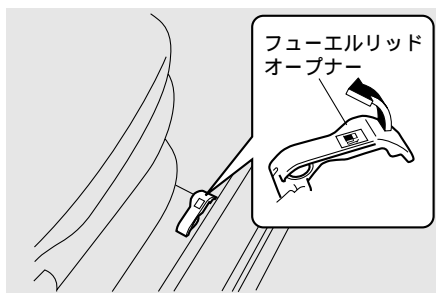
- ボンネットが完全に閉じていることを確認してください。完全に閉じていないと、走行中に開くおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないようにしてください。

各部の開閉

燃料補給口

■ フューエルリッド

- 開けるときは、運転席右下のフューエルリッドオープナーを引き上げます。
- 閉めるときは、フューエルリッドを手で押しつけます。

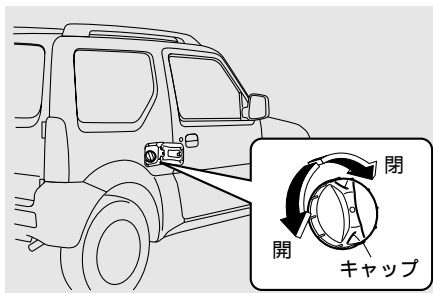


⚠ 警告

- ガソリンは引火性が高いため給油するときは、タバコの火などの火気は厳禁です。また、エンジンは必ず止めてください。

■ フューエルキャップ

- キャップを開けるときは、ゆっくり左にまわします。
- キャップを閉めるときは、右にまわし、カチッという音が2回以上するまで締めます。



⚠ 警告

- キャップを急激に開けないでください。
燃料タンク内の圧力が急激に抜けると、燃料が吹き出すことがあります。
- 走行中に燃料がこぼれ出ないように、キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
- 車に合わないフューエルキャップは使用しないでください。
燃料漏れを起こすおそれがあります。必ずスズキ純正フューエルキャップを使用してください。

各部の調節

前席シート

■ 正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次のことに注意してシートを調節してください。

- 背もたれと腰の間にすき間のないようにシートに深くすわります。
- ペダル類を踏み込んだときに、ひざが伸びきらないで余裕があるようにシートを前後に調節します。
- 背中を背もたれに軽くつけ、ハンドルを握ったときにひじが軽く曲がる程度に背もたれの角度を調節します。



⚠ 警告

- シートの前後位置や背もたれの角度の調節は走行前に行なってください。
走行中の調節はしないでください。
シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調節したあとは、前後にゆずって固定されていることを確認してください。十分に固定されていないと、走行中にシートが動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前席シートの下に物を置かないでください。
物がはさまってシートが固定されないおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

⚠ 注意

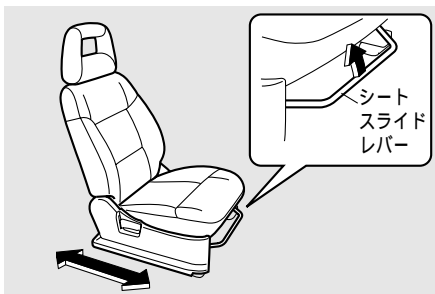
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。

各部の調節

前席シート

■ 前後位置の調節

シートスライドレバーを引き上げたまま、シートを前または後ろに動かします。



⚠ 警告

- シートスライドの調節は必ず走行前に行ない、調節後はシートを前後に軽くゆすって確実にシートが固定されたことを確認してください。シートが固定されていないと、走行中にシートが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 背もたれの角度調節

- 倒すときは、リクライニングレバーを引き上げたまま、背中で軽く押します。
- 起こすときは、背中を少し浮かせて、リクライニングレバーを引き上げます。



⚠ 警告

- 背もたれの調節は必ず走行前に行ない、調節後は背もたれを軽くゆすって確実に背もたれが固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。衝突のときなどに、シートベルトやSRSエアバッグシステムが本来の効果を発揮できなくなります。

⚠ 注意

- 前席シートからはなれて背もたれを起こすときは、背もたれが急に起きあがることがありますので手などをそえて操作してください。

■ ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

高さの調節

ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整します。

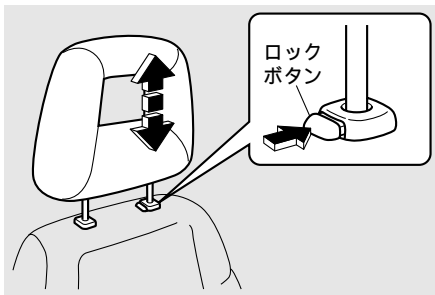
- 高くするときは、ヘッドレストをそのまま持ち上げます。
- 低くするときは、ロックボタンを押したままヘッドレストを下げます。

取外しかた

- 外すときは、ロックボタンを押したまま引き抜きます。

取付けかた

- ヘッドレストの前後の向きを確かめロックボタンを押したまま固定される位置まで差し込み、高さを調節します。



⚠ 警告

- ヘッドレストを外したまま、または固定されていない状態で走行しないでください。衝突のときなどに、ヘッドレストが本来の効果を発揮できなくなります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、ヘッドレストが本来の効果を発揮しないおそれがあります。また、ヘッドレストを前後逆に取り付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

各部の調節

前席シート

■ 後席シートへの乗り降り

助手席のリクライニングレバーをいっばいに引き上げると背もたれが前に倒れます。

助手席ウォークイン

- 乗車または降車をするときはリクライニングレバーをいっばいに引き上げるか、ウォークインペダルを押し下げて、背もたれを前に倒し、シートを車の前方向に動かします。
- 乗車または降車をおえたら、背もたれを起こし、シートが固定される位置まで車の後ろ方向に動かしておきます。



⚠ 注意

- シートをゆすって固定されているか確認してください。

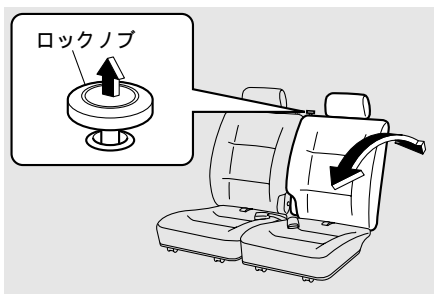
後席シート

■ 背もたれの角度調節

⚠️アドバイス

- 調節しようとするシートからおりて操作してください。シートにすわったままロックノブを引き上げると背もたれが急に最大角度まで倒れ込むことがあります。

- 1 ロックノブを引き上げたまま、背もたれを好みの角度の少し手前まで動かします。
- 2 ロックノブから手をはなし、固定される位置まで背もたれを動かします。



⚠️警告

- 背もたれの調節は必ず走行前に行ない、調節後は背もたれを軽くゆすって確実に背もたれが固定されたことを確認してください。背もたれが固定されていないと、走行中に背もたれが動き、けがなどをするおそれがあります。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突のときなどに、シートベルトが本来の効果を発揮できなくなります。

各部の調節

後席シート

■ ヘッドレストの高さ調節と取外し・取付け

高さの調節

ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整します。

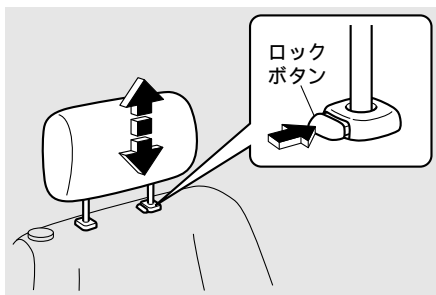
- 高くするとき、ヘッドレストをそのまま持ち上げます。
- 低くするとき、ロックボタンを押したままヘッドレストを下げます。

取外しかた

- 外すときは、ロックボタンを押したまま引き抜きます。

取付けかた

- ヘッドレストの前後の向きを確かめロックボタンを押したまま固定される位置まで差し込み、高さを調節します。



⚠ 警告

- ヘッドレストを外したまま、または固定されていない状態で走行しないでください。衝突のときなどに、ヘッドレストが本来の効果を発揮できなくなります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを前後逆に取り付けしないでください。いざというとき、ヘッドレストが本来の効果を発揮しないおそれがあります。また、ヘッドレストを前後逆に取付けると、ヘッドレストの高さ調節ができません。

■ シートの格納のしかた

後部の荷室を広く使うときに、左右のシートを個別に格納することができます。

⚠ 警告

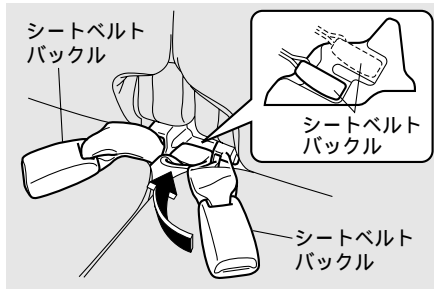
- 倒した背もたれの上や荷室に人を乗せないでください。急ブレーキのときなどに、投げ出されるおそれがあります。

⚠ 注意

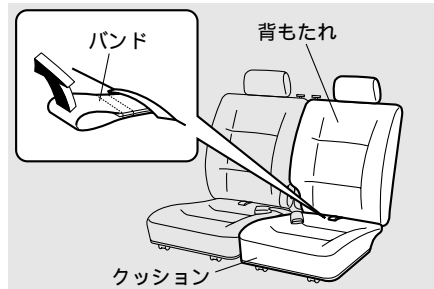
- シートを格納したりもとにもどすときに、手や足をはさんだり、シートを身体にあてないように操作してください。
- シートは正しく格納してください。背もたれだけを倒して荷物を積むと、急ブレーキのときなどに、荷物が投げ出され事故を起こすおそれがあります。

格納のしかた

- 1 格納するシートのシートベルトバックルを図のように格納します。



- 2 クッションの後部についているバンドを少し引き上げて、クッションを前方に起こします。



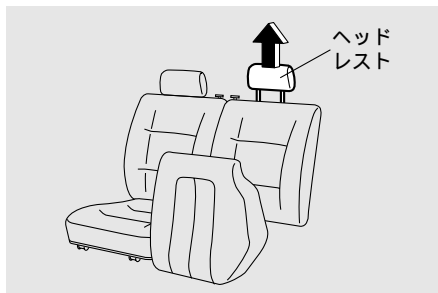
🔧 アドバイス

- バンドを引き上げにくいときは、背もたれを少し後ろ方向に倒してください。

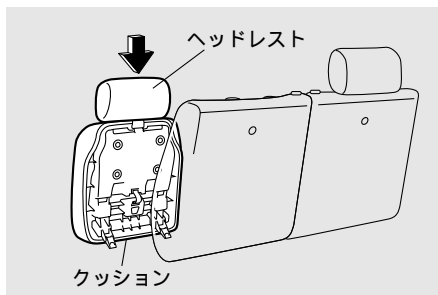
3. 運転する前に 各部の調節

後席シート

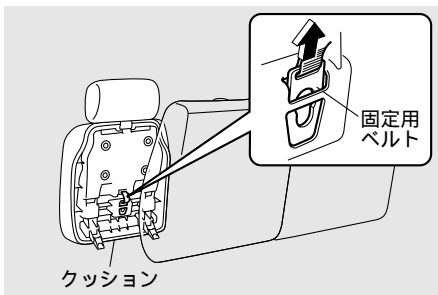
- 3 ヘッドレストを外します。



- 4 クッションの穴に、外したヘッドレストを後ろ向きに差し込みます。



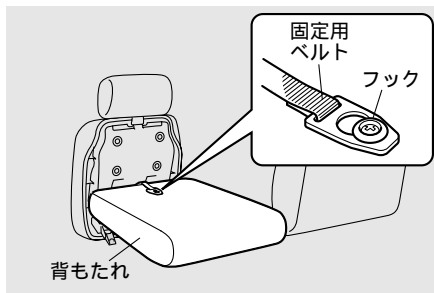
- 5 固定用ベルトをクッションの背面にある格納場所から取り外します。



⚠ 注意

- クッションを起こしたときは、必ず背もたれを倒してください。
背もたれを倒さず、クッションを起こしたままで使用すると、クッションが倒れてけがをするおそれがあります。

- 6 ロックノブを引き上げて背もたれを倒し、背面にあるフックに固定用ベルトを引っかけます。



📌 アドバイス

- 前席シートにつかえるときは、前席シートを前方に動かしてください。

もとにもどすときは
格納するときの逆の手順で行います。

⚠注意

- シートをゆすって固定されているか確認してください。

💡アドバイス

- クッションの下に、シートベルトバックルやバンドが入らないようにもどしてください。
- クッションの下に物が落ちていないか確認してからもどしてください。

■ ラゲッジフラットパネルの使いかた

荷室をフラットにしたいときに使用します。（後席シートの格納のしかたについては、87ページをお読みください。）

起こしかた

- 1 ラゲッジフラットパネルの、固定用フックを外します。



- 2 ラゲッジフラットパネルの脚部を、いっぱいまで起こします。

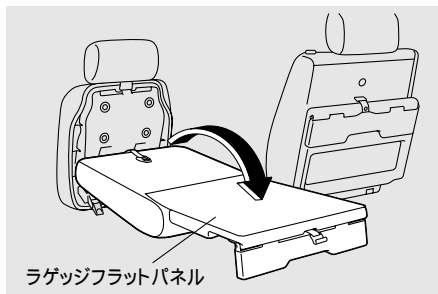


3. 運転する前に

各部の調節

後席シート

- 3 ラゲッジフラットパネルを起こします。



もとにもどすときは
起こすときの逆の手順で行います。

アドバイス

- ラゲッジフラットパネルは、後席シートを格納したときのみを使用してください。
背もたれを起こしてラゲッジフラットパネルを使用すると、ラゲッジフラットパネルおよびバックドアを破損するおそれがあります。
- ラゲッジフラットパネルは、無理に取り外さないでください。
無理に取り外すと破損するおそれがあります。

フルフラットシート

前席シートと後席シートの背もたれを後ろに倒して、室内に広い空間を作ることができます。

⚠ 警告

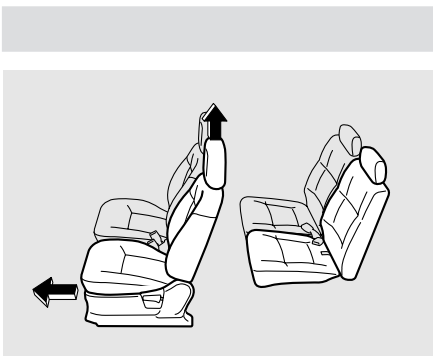
- フルフラットにしたシートに、人や荷物をのせて走行しないでください。
急ブレーキのときなどに、投げ出されたり、荷物が身体にあたるおそれがあります。

⚠ 注意

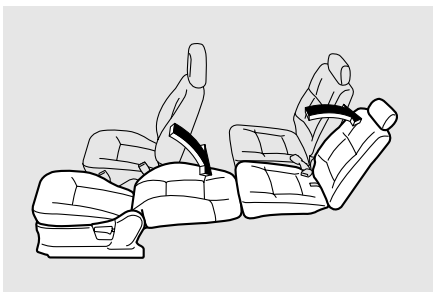
- フルフラットにしたときは、シートの上を歩き回らないでください。
シートから足を踏み外すとけがをするおそれがありますので、必ずシートの中央を踏んで、ゆっくり移動してください。
- フルフラットにしたときやもとにもどしたときは、シートをゆすって固定されているか確認してください。
- フルフラットにしたりもとにもどすときに、手や足をはさんだり、シートを身体にあてないように操作してください。
- 前席シートの背もたれを起こすときは、背もたれが急に起きあがる可能性がありますので、手などをそえて操作してください。

■ フルフラットにするときは

- 1 前席シートのヘッドレストを外し、シートを前方にいっぱいまで動かします。



- 2 前席シートの背もたれを後ろにいっぱいまで倒します。
後席シートの背もたれはお好みの角度に調節してください。



📌アドバイス

- フルフラットにしたときは、シートに強い衝撃をあたえないでください。シートが損傷することがあります。
- 後席シートはフラットにはなりません。

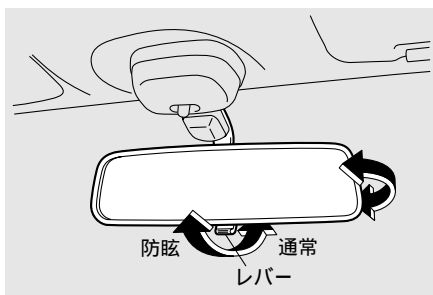
もとにもどすときは
フルフラットにするとときと逆の手順で行います。

ルームミラー

■ 防眩式ルームミラー

ミラー全体を動かして角度を調節します。通常はレバーを車の前方向に押した状態で使用し、角度の調節もこの位置で行います。

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを手前に引くとライトの反射が弱まります。



⚠️注意

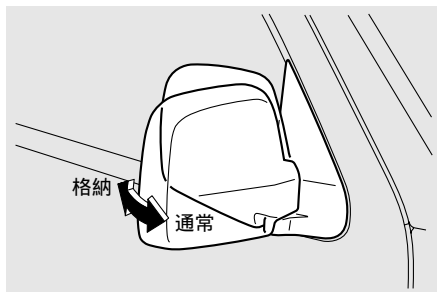
- ミラーの角度調節は走行前に行ってください。走行中の調節は運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあります。

各部の調節

ドアミラー

■ 格納

狭い場所での駐車の際に、ドアミラーを車の後ろ方向に倒して格納することができます。



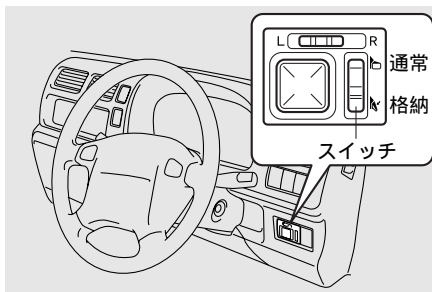
⚠ 注意

- ミラーを倒したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
- ミラーは車体より張り出しています。ミラーを車外の人や物にあてないようにしてください。

格納機能付き電動リモコンドアミラー

タイプ別装備

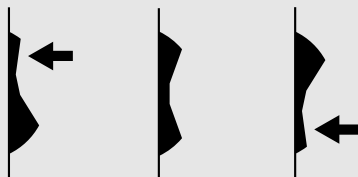
エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときにスイッチでミラーを操作できます。スイッチの格納側を押すと格納され、通常側を押すと通常的位置にもどります。



通常側

中立位置

格納側



⚠ 注意

- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方の確認ができず、事故を起こすおそれがあります。
- ミラーが動いているときは手を触れたりしないください。手をはさんでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

- スイッチで格納したミラーを通常側にもどすときは、手で操作しないでください。ミラーを手で通常側に操作すると、ミラーの固定が不完全なため走行中の振動および走行風などでミラーが動いて、後方の確認ができなくなるおそれがあります。
固定されていない場合は、スイッチの通常側を押して確実にミラーを固定してください。

🔧 アドバイス

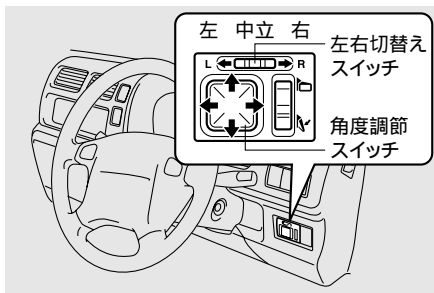
- エンジンスイッチが **ACC** または **ON** の位置にあるときは、手でミラーを操作しないでください。ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- スイッチでミラーを操作した後は必ずスイッチを中立の位置にもどしてください。スイッチの通常側または格納側を押したままの状態ではミラーを手で動かすと、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときにミラーが動き出すことがあります。
- スイッチの通常側を押したままの状態では、ミラーが通常的位置より車の前方向に倒れていると、エンジンスイッチを **ACC** または **ON** にしたときにミラーはさらに車の前方向に倒れてしまいます。ミラーをもとの状態にもどすときは、一度格納操作をしてください。

■ 角度の調節

電動式ドアミラー

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに調節することができます。

- 1 左右切替えスイッチを調節する側へ動かします。
- 2 角度調節スイッチを押して、上下左右にミラーを動かして調節します。



⚠ 注意

- ミラーの角度の調節は走行前に行なってください。走行中の調節は事故を起こすおそれがあります。

🔧 アドバイス

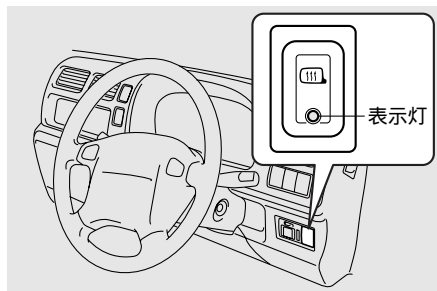
- 角度調節スイッチでミラーを調節した後は、左右切替えスイッチを中立の位置にもどしてください。

各部の調節

ドアミラー

■ ヒーター付きドアミラー

エンジンスイッチが **ON** のときに、ドアミラーについたくもりを取ることができます。スイッチを押すと作動し、同時にスイッチの下の表示灯が点灯します。もう一度押すとスイッチが切れます。

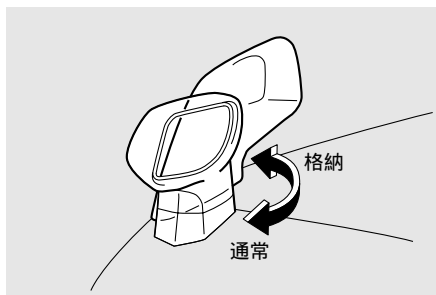


⚠️ アドバイス

- バッテリー保護のために、エンジンがかかっているときに使用し、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。

サイドアンダーミラー

停車時およびごく低速時に車両左側助手席付近を確認する場合に使用します。狭い場所での駐車のために、サイドアンダーミラーを手で回して格納することができます。



⚠️ アドバイス

- サイドアンダーミラーを格納した場合は、ボンネットを開閉しないでください。サイドアンダーミラーおよびボンネットが破損するおそれがあります。
- 後方の確認はドアミラーまたはルームミラーで行なってください。
- サイドアンダーミラーを格納したまま走行しないでください。
- ミラーだけにたよらず車からおりて自分の目で直接確かめるなど、周囲の安全をよく確認してから車を発進させてください。
- サイドアンダーミラーの鏡面は固定式です。鏡面の角度調節はできません。

4. 運転するときは

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーターの見かた	96
表示灯、警告灯の見かた	100

スイッチの使いかた

ライトスイッチ	106
方向指示器スイッチ	107
非常点滅灯スイッチ	107
ワイパー/ウォッシャースイッチ	108
リヤデフォグガースイッチ	110
フォグランプスイッチ	110
ホーンスイッチ	110

運転装置の使いかた

エンジンをかける前に	111
エンジンスイッチの各位置のはたらき	112
オートマチック車のキーを抜くとき	113
キー抜き忘れ警告ブザー	113
エンジンのかけかた	114
パーキングブレーキ	116
チェンジレバーの操作	117
セレクトレバーの操作	118
オートマチック車の運転のしかた	121
2WD⇄4WDの切替え操作	130
経済運転をしましょう	133

メーター、表示灯、警告灯の見かた

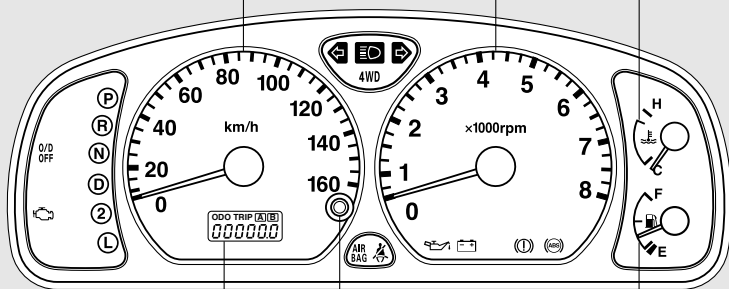
メーターの見かた

図は代表例ですので、タイプによりこのイラストと異なることがあります。

スピードメーター

タコメーター

水温計



オドメーター/トリップメーター

距離表示切替えボタン

燃料計

■ スピードメーター（速度計）

走行速度をkm/hで示します。

■ オドメーター（積算距離計）、トリップメーター（区間距離計）

エンジンスイッチが **ON** のときに、オドメーター（ODO）、またはトリップメーター（TRIP）を表示します。

トリップメーター（TRIP）は、次の例のように2種類の区間距離が表示できます。

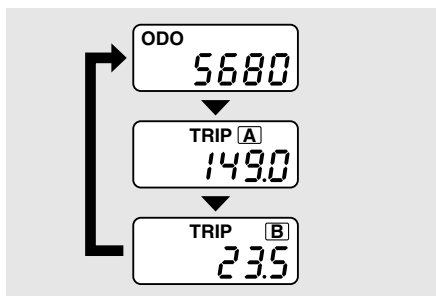
A：燃料給油後の走行距離

B：自宅からの走行距離

距離表示切替えボタンを押すたびに表示が切り替わります。

ⓘ アドバイス

- 表示はボタンをはなしたときに切り替わります。



⚠ 注意

- 距離表示切替えボタンの操作は停車中に行なってください。走行中の操作は、ボタン操作に気を取られて思わぬ事故につながるおそれがあります。

オドメーター（ODO）

走行した総距離をkm単位で示します。

トリップメーター（TRIP）

2種類の区間距離をkm単位で示します。

（右端の数字は100 m単位を示します。）

0にもどすときは、もどしたい方を表示し距離表示切替えボタンを約2秒間押します。

ⓘ アドバイス

- 表示はボタンを押しているときに0.0に変わります。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーターの見かた

■ タコメーター(エンジン回転計)

1 分間あたりのエンジン回転速度 (回転数) を示します。

⚠️ アドバイス

- エンジン保護のため、指針がレッドゾーン〔エンジンの許容回転速度 (回転数) を超えていることを示す赤色表示範囲〕に入らないように運転してください。
- 高速走行中に低速ギヤに操作するときは、エンジン回転を上げ過ぎないように操作してください。

■ 水温計

エンジンスイッチが **ON** のときに、エンジン冷却水の温度を示します。

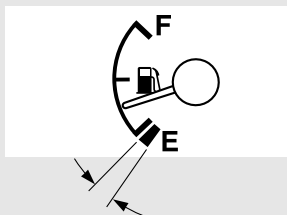
⚠️ アドバイス

- 指針が **H** 側に近づいたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に車を止め、処置をしてください。
→ 194 ページ
(オーバーヒートしたとき)

■ 燃料計

エンジンスイッチに関係なく、燃料の残量の目安を示します。

燃料タンク容量	40 L
---------	------



レッドゾーン (燃料切れ範囲)

⚠ 注意

- 指針がレッドゾーン (燃料切れを示す赤色表示範囲) に入った場合は、エンストすることがあります。指針がレッドゾーンに入る前に燃料を補給してください。

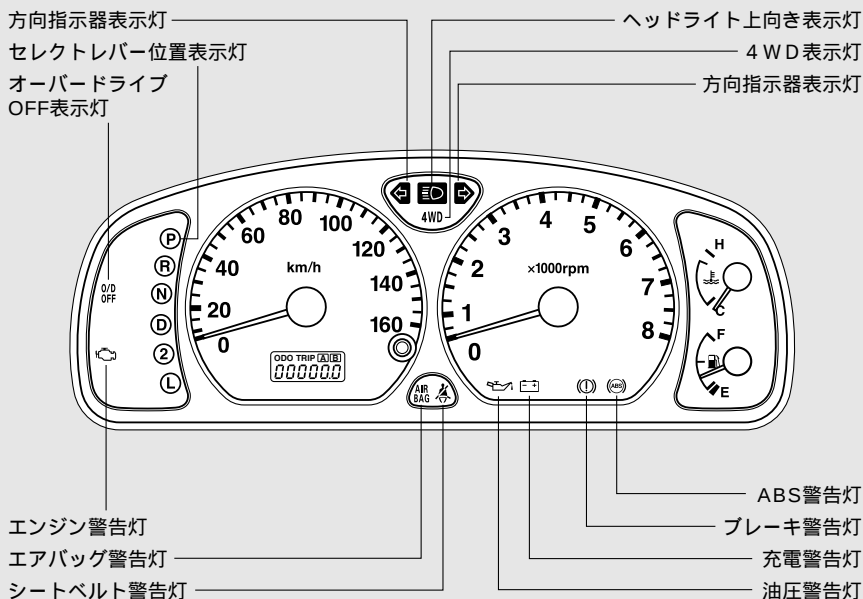
📌 アドバイス

- 燃料補給後、エンジンスイッチを **ON** の位置にしてから、指針が正しい量を示すまでに少し時間がかかります。
- 坂道やカーブなどではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

表示灯、警告灯の見かた

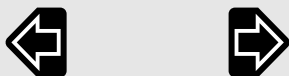
図は代表例ですので、タイプによりこのイラストと異なることがあります。



⚠️アドバイス

- 表示灯や警告灯が正常に点灯しないときは、電球切れなどが考えられます。このようなときは、スズキサービス工場で点検を受けてください。

■ 方向指示器表示灯



方向指示器 / 非常点滅灯を作動させると点滅します。

⚠️アドバイス

- 点滅が異常に速くなったときは、方向指示器の電球が切れていることが考えられます。方向指示器が点滅するか確認してください。

■ ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯



ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

■ セレクトレバー位置表示灯

オートマチック車



セレクトレバーの使用している位置を示します。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

表示灯、警告灯の見かた

■ オーバードライブOFF表示灯

オートマチック車

O/D
OFF

オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFのときに点灯します。

■ 4WD表示灯

4WD

トランスファーレバーが〔4H〕、〔4L〕に入っているときに点灯します。

ⓘ アドバイス

- 〔2H〕→〔4H〕に操作したときと、〔4H〕、〔4L〕にしたままエンジンをかけたときに4WD表示灯が点滅することがあります。4WD表示灯が1分以上点滅を続ける場合は、4WDに切り替わっていないため、速度を落とすか、または車を安全な場所に停車して操作をやり直してください。
- 操作をやり直しても4WD表示灯が1分以上点滅を続けるときは4WD装置の故障が考えられます。このような場合は、トランスファーレバーを〔2H〕に切り替え、高速走行を避けてスズキサービス工場に行き、点検を受けてください。

■ ブレーキ警告灯



次のようなときに点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき
- パーキングブレーキレバーをかけたままのとき
- ブレーキの配管に異常があるとき

⚠ 警告

- パーキングブレーキレバーを完全にもどしても消灯しないときや、走行中に点灯したときは、ただちに車を安全な場所に止め、スズキサービス工場にご連絡ください。この場合、ブレーキのききが悪くなっていることがあります。ブレーキのききが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。

■ シートベルト警告灯



エンジンスイッチが **ON** のときに運転者がシートベルトを着用していないと、着用するまで点灯し続けます。

■ エンジン警告灯



エンジンの電子制御システムに異常があると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠️ アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、高速走行を避けてスズキサービス工場に行き、点検を受けてください。

■ 充電警告灯



エンジン回転中、充電システムに異常があると点灯します。正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

⚠️ アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、ベルト切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、バッテリー保護のためエンジンを止めて、スズキサービス工場にご連絡ください。

■ 油圧警告灯



エンジン回転中に、エンジンの内部を潤滑するエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに点灯し、エンジンがかかると消灯します。

エンジンオイルの量はオイルレベルゲージで点検してください。

(点検方法は「メンテナンスノート」を参照してください。)

⚠️ アドバイス

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めて、スズキサービス工場にご連絡ください。
- 油圧警告灯が点灯したまま走行を続けしないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

表示灯、警告灯の見かた

■ SRSエアバッグ警告灯

**AIR
BAG**

エンジンスイッチが **ON** のときに、SRSエアバッグ、シートベルトプリテンショナーの電子制御システムに異常があると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約6秒間点滅したあと消灯します。

⚠ 警告

- SRSエアバッグ警告灯が次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - ・運転中に点灯したとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にしても点滅しないとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にした後、約6秒間たっても消灯しないとき

■ ABS警告灯

(ABS)

エンジンスイッチが **ON** のときに、ABSの電子制御システムに異常があると点灯します。

システムが正常な場合はエンジンスイッチを **ON** にしたときに、約2秒間点灯したあと消灯します。

⚠ 警告

- ABS警告灯が次のような場合は、システムの異常が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。
 - ・運転中に点灯したとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にしても点灯しないとき
 - ・エンジンスイッチを **ON** にした後、約2秒間たっても消灯しないとき

👉 アドバイス

- ABSの電子制御システムに異常があるとABSの機能は停止しますが、ABSのついていない通常のブレーキとして使用できます。

■ 警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを **ON** にしたとき、下記の警告灯が点灯または点滅するのが正常です。

点灯または点滅しないときはスズキサービス工場へご連絡ください。

エンジン警告灯



油圧警告灯



充電警告灯



SRSエアバッグ警告灯

**AIR
BAG**

ABS警告灯



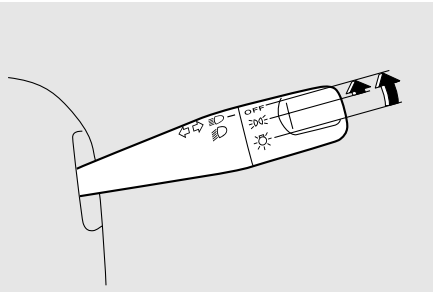
4. 運転するときは

スイッチの使いかた

ライトスイッチ

■ ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチに関係なく使用でき、ライトスイッチをまわすと次のように点灯・消灯します。



ライト スイッチ の位置	ヘッドライト (前照灯)	車幅灯、尾灯 番号灯 計器照明灯
OFF	消 灯	消 灯
ON (up)	消 灯	点 灯
ON (down)	点 灯	点 灯

⚠️アドバイス

- エンジンが止まっているときに、ライトを点灯させたまま放置しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

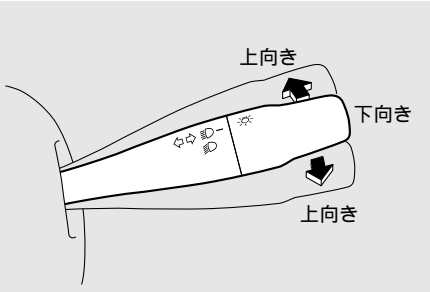
■ ライト消し忘れ警告ブザー

ライトを点灯したままでキーを抜き、運転席ドアを開けると、ブザーが連続的に鳴ります。ライトの消し忘れを防止するためのブザーです。

■ ライトの上向き、下向きの切替え

ヘッドライトを上向きに切り替えると、遠くまで照らすことができます。

- ライトスイッチが  の位置で、レバーを車の前方向に押すと上向きになり、もとの位置にもどすと下向きになります。
- ライトスイッチの位置に関係なく、レバーを手前に引くと、引いている間、上向きのヘッドライトが点灯します。
- ヘッドライトを上向きにすると、メーターパネル内のヘッドライト上向き表示灯が点灯します。



⚠️アドバイス

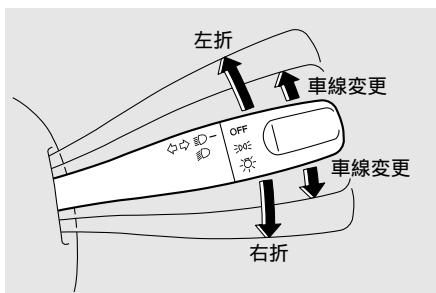
- 対向車や先行車があるときや市街地走行のときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

方向指示器スイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

■ 右折・左折をするとき

- レバーを下または上に倒します。同時に方向指示器とメーターパネル内の方向指示器表示灯が点滅します。
- ハンドルをもとにもどすとレバーは自動的にもどり、方向指示器や表示灯は消灯します。



ⓘ アドバイス

- ハンドルを切る角度が小さいときは、自動でレバーがもどらないことがあります。このようなときは、レバーを手でもどしてください。

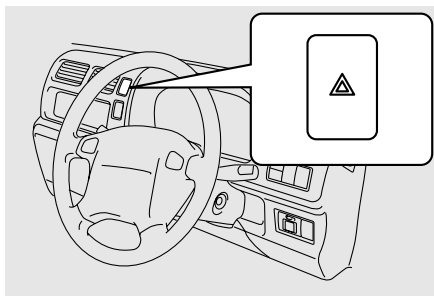
■ 車線変更をするとき

- レバーを上または下に軽く押さえます。押さえている間だけ、方向指示器と表示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ

エンジンスイッチに関係なく使用でき、故障などでやむをえず路上駐車するときや非常時に使用します。

- スイッチを押すと、すべての方向指示器とメーターパネル内の方向指示器表示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



ⓘ アドバイス

- エンジンが止まっているときに、非常点滅灯を長時間点滅させたままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

スイッチの使いかた

ワイパー / ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用できます。

⚠ 注意

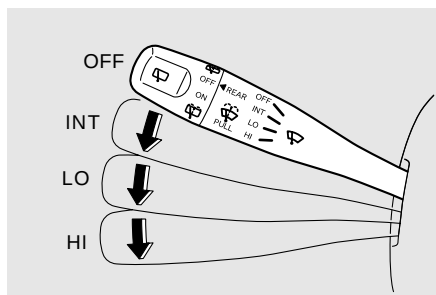
- ウィンドーが乾いているときは、ウィンドーをウォッシャー液で濡らしてからワイパーを動かしてください。
空拭きするとガラス面やワイパーブレード（ゴム部）に傷がつき、視界を悪くすることがあります。
 - 寒冷時はガラス面に吹きつけられたウォッシャー液の凍結で、視界が悪くなることがあります。
このようなときは、ガラス面をデフロスターで暖めておいてから、ウォッシャー液を噴射させてください。
- 136ページ（デフロスター）

💡 アドバイス

- 凍結などでワイパーブレードがガラスにはりついているときは、ワイパーを作動させないでください。
ワイパーブレードに傷がつくことがあります。
- ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを切ってください。ウォッシャーポンプが故障する原因となります。

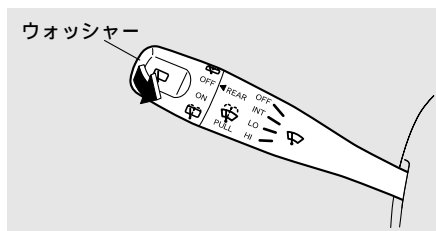
■ フロントワイパースイッチ

OFF（停止）..... 停止
INT（間欠）..... 3～5秒ごとに動く
LO（低速）..... ゆっくり動く
HI（高速）..... 速く動く



■ フロントウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴出しワイパーが数回動きます。

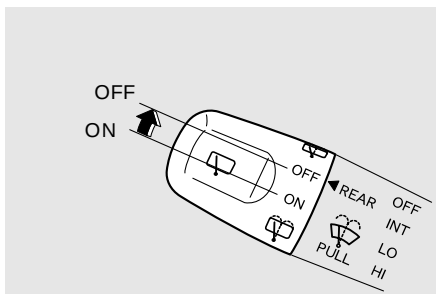


■ リヤワイパースイッチ

ツマミをまわして操作します。

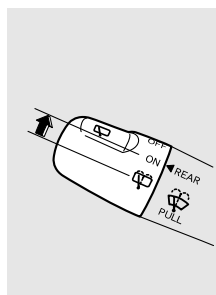
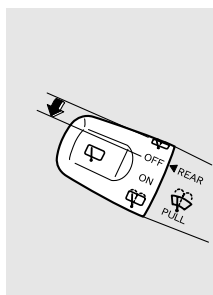
OFF 停止

ON 作動



■ リヤウォッシャースイッチ

- OFFの上にある $\square$ （ウォッシャー）を図の $\downarrow$ 方向にツマミをまわしている間ウォッシャー液が噴出し、リヤワイパーも連動して動きます。
- ONの下にある $\square$ （ウォッシャー）を図の $\uparrow$ 方向にツマミをまわしている間ウォッシャー液が噴出します。

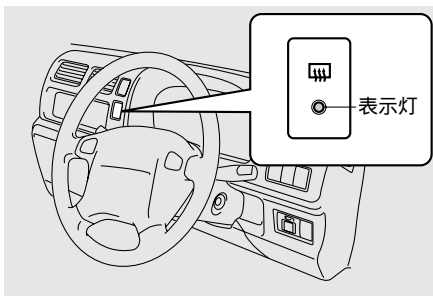


スイッチの使いかた

リヤデフォグースイッチ

エンジンスイッチが **ON** のときに使用でき、バックウインドーガラスの内側のくもりを取るときに使用します。

- スイッチを押すとバックウインドーガラスが暖められ、同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。
もう一度押すとスイッチが切れます。



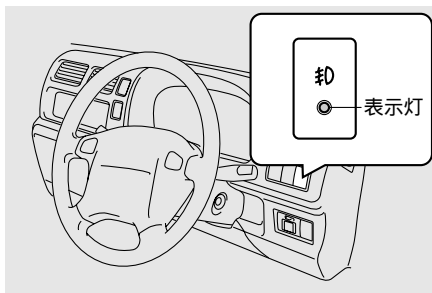
⚠️ アドバイス

- 消費電力が大きいのでバッテリー保護のため、くもりが取れたらすみやかにスイッチを切ってください。長時間使用するとバッテリーあがりの原因となります。また、雪を溶かしたり、雨水を乾燥することには使用しないでください。
- バックウインドーの室内側のガラス面を拭くときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿って拭いてください。

フォグランプスイッチ

ヘッドライトや車幅灯を点灯しているときに使用でき、雨や霧などで視界が悪いときに使用します。

- スイッチを押すとフォグランプが点灯し、同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。



⚠️ アドバイス

- 消費電力が大きいのでバッテリー保護のため、視界が良くなったらすみやかにスイッチを切ってください。長時間使用するとバッテリーあがりの原因となります。

ホーンスイッチ

エンジンスイッチに関係なく使用でき、ホーンマークがついているスイッチを押すとホーンが鳴ります。



運転装置の使いかた

エンジンをかける前に

① 点検はすみしましたか？

→ メンテナンスノート（日常点検）



② パーキングブレーキは完全にかかっていますか？

→ 116ページ（パーキングブレーキ）



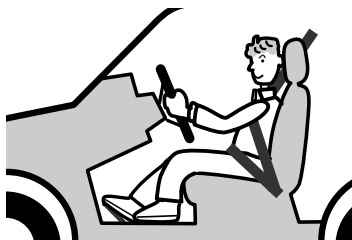
③ マニュアル車 のチェンジレバーは N になっていますか？

オートマチック車 のセレクトレバーは **P** になっていますか？

→ 114ページ（エンジンのかけかた）

④ 運転しやすい姿勢ですわっていますか？

→ 81ページ（正しい運転姿勢）



⑤ シートベルトを着用しましたか？
同乗者も着用していますか？

→ 40ページ（シートベルトの着用）



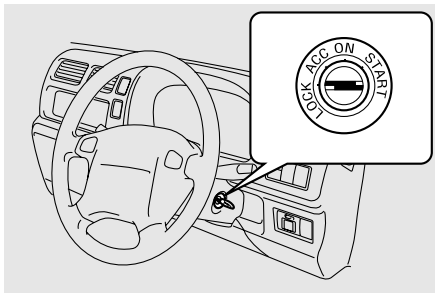
⑥ エンジンスイッチを **ON** にして、各警告灯の点灯とガソリン残量を確認しましたか？

→ 100ページ（警告灯）

→ 99ページ（燃料計）

運転装置の使いかた

エンジンスイッチの各位置のはたらき



LOCK (ロック)

キーを抜き差しするときの位置です。
キーを抜くとハンドルは自動的にロック
されます。

ACC (アクセサリー)

エンジンをかけずにラジオなどのアクセ
サリーを使用するときの位置です。

ON (オン)

エンジンが回転中の位置です。

START (スタート)

エンジンをかけるときは位置です。
始動したらキーから手をはなしてくださ
い。
キーは自動的に **ON** にもどります。

⚠ 警告

走行中はエンジンを止めないでくだ
さい。

- ブレーキ倍力装置が働かないため、
ブレーキペダルを踏むとき強い力
が必要になります。
- パワーステアリング装置が働かな
いため、ハンドルが重くなります。
- マニュアル車の場合は、エンジン
スイッチを **LOCK** にしていてキ
ーが万一抜けると、ハンドルがロ
ックされてハンドル操作ができな
くなります。

👉 アドバイス

- エンジンをかけるときにキーが
LOCK から **ACC** にまわらない
ときは、ハンドルを左右に軽くま
わしながらキーをまわしてくださ
い。
- エンジンを止めているときは、キ
ーを **ON** にしたままにしないで
ください。バッテリーあがりの原
因となります。
- エンジンを止めたまま **ACC** の状
態で長時間ラジオなどを聞くと、
バッテリーあがりの原因となりま
す。

オートマチック車のキーを抜くとき

誤操作防止のため、セレクトレバーが **P** がないときはキーを抜くことができません。

⚠️ アドバイス

- 駐車時にキーを抜くときは、セレクトレバーが **P** にあることを確認してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

キーを **ACC** または **LOCK** にしたまま、運転席ドアを開けるとブザーが断続的に鳴ります。キーの抜き忘れを防止するためのブザーです。

⚠️ アドバイス

- キーを抜くとブザーは止まります。

運転装置の使いかた

エンジンのかけかた

マニュアル車

■ エンジンをかける前に

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーが N にあることを確認します。

■ エンジンのかけかた

- ① 運転席にすわり、右足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- ② 左足でクラッチペダルをいっぱいまで踏みます。
- ③ アクセルペダルを踏まずに、キーを [START] までまわします。
- ④ エンジンがかかったら、すみやかにキーから手をはなします。
- ⑤ 寒い日やエンジンをかけない日が続いたときは、エンジンを保護するため暖機運転をします。

■ クラッチスタートシステム

誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターモーターがまわらず、エンジンを始動できないようになっていきます。

⚠ 注意

- エンジンをかけるときは、必ず運転席に正しい姿勢ですわってかけてください。

オートマチック車

■ エンジンをかける前に

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが [P] にあることを確認します。（ [N] でも始動できますが、安全のため [P] で行なってください。）

■ エンジンのかけかた

- ① 運転席にすわり、右足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- ② アクセルペダルを踏まずに、キーを [START] までまわします。
- ③ エンジンがかかったら、すみやかにキーから手をはなします。
- ④ 寒い日やエンジンをかけない日が続いたときは、エンジンを保護するため暖機運転をします。

警告

- 換気の悪い車庫や空気の流れの悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

注意

- エンジンをかけるときは、必ず運転席に正しい姿勢ですわってかけてください。
- 窓越しのエンジン始動はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- マニュアル車は、誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとスターターモーターがまわらず、エンジンを始動できないようになっていきます。
- ヘッドライトやエアコンなどのスイッチを切った方が、エンジンはかかりやすくなります。
- バッテリー保護のため、キーを **START** にまわした状態を8秒以上続けないでください。
エンジンがかからないときは、キーを一度 **ACC** にもどし、10秒以上待ってから再びかけてください。
- 始動直後はエンジンのアイドル回転が少し上がりますが、自動的に適正な回転速度（回転数）に下がります。
- エンジンをかけた直後は、空ぶかしや急加速をしないでください。エンジンが暖まっていないので、エンジン故障の原因となります。
- 暖機運転は水温計の指針が動き出す程度までで十分です。
- 排気音やにおいがいつもと違うときは、排気系統や燃料系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

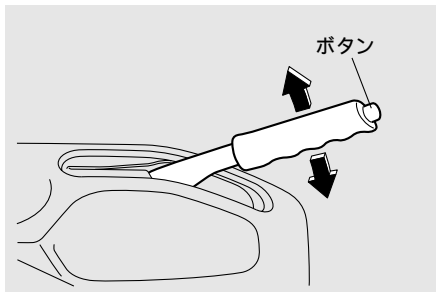
パーキングブレーキ

駐車するときは、パーキングブレーキをかけて後輪にブレーキをきかせておきます。

- 駐車するときは、右足でブレーキペダルを踏みながらボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっばいに引き上げます。

- もどすときは、右足でブレーキペダルを踏みレバーを少し引き上げながらレバー先端のボタンを押し込み、そのまま下まで完全におろします。

ただし、急な上り坂で発進するときは、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み、車が動きだす感触を確認しながらパーキングブレーキレバーをもどしてください。



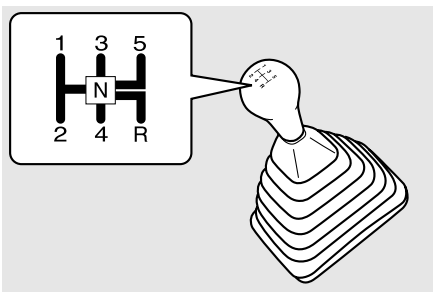
⚠ 注意

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ装置が過熱して、ブレーキがきかなくなるおそれがあります。
- パーキングブレーキをもどしたときは、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。万が一ブレーキをきかせたまま走行した場合、ブレーキ装置が過熱して、ブレーキがきかなくなるおそれがあります。

チェンジレバーの操作

マニュアル車

チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっぱい踏み、確実に操作します。



⚠️アドバイス

- 誤操作防止のため、5速から R（リバース）に直接入れることはできません。一度 N（ニュートラル）に入れてから R へ操作してください。

■ 各チェンジレバー位置での速度範囲

下表の速度範囲内でチェンジレバー操作をしてください。

チェンジ レバーの位置	速度範囲 (km/h)		
	2WD	4WD	
	[2H]	[4H]	[4L]
1 速	0 ~ 35	0 ~ 15	
2 速	15 ~ 70	10 ~ 30	
3 速	25 ~ 95	15 ~ 40	
4 速	35 ~	20 ~ 60	
5 速	45 ~	25 ~ 70	

⚠️アドバイス

- 指定範囲の上限を超えた速度で走行しないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。

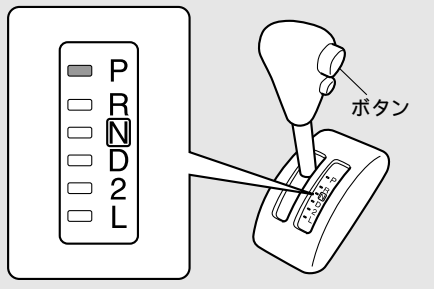
運転装置の使いかた

セレクトレバーの操作

オートマチック車

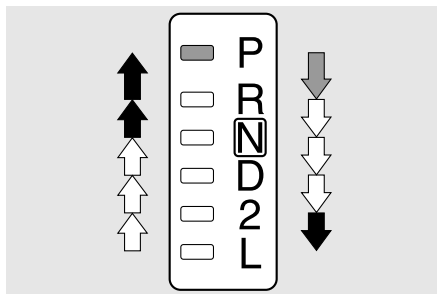
● 24ページの「オートマチック車を運転するときは」もあわせてお読みください。

■ セレクトレバーの各位置のはたらき



P パーキング	駐車するとき、エンジンを始動するとき、キーを抜くときの位置。 この位置のときは、駆動輪（後輪）がロックされます。
R リバース	車を後退させるときの位置。 この位置のときは、室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが R に入っていることを知らせます。
N ニュートラル	エンジンの動力が伝わらない状態の位置。 この位置でもエンジンを始動できますが、誤操作防止のため、通常は P の位置で始動してください。
D ドライブ	通常の走行をするときの位置。 この位置のときは、車の速度とアクセルペダルの踏み込み量により、ローからトップまでギヤが自動的に切り替わります。
2 セカンド	エンジンブレーキが必要なときなどに使う位置。 この位置のときは、ギヤはローとセカンドの間で自動的に切り替わります。下り坂を走行するときなどに使用します。
L ロー	強力なエンジンブレーキが必要なときなどに使う位置。 この位置のときは、ギヤは常時ローギヤに固定されます。急な下り坂を走行するときなどに使用します。

■ セレクトレバーの動かし方



ブレーキペダルを踏み、ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。



ボタンを押さずにセレクトレバーを動かします。



ボタンを押した状態でセレクトレバーを動かします。

ⓘ アドバイス

- 上下の操作は、セレクトレバーボタンを押さない習慣をつけてください。
常にボタンを押して操作していると、間違って **P** **R** **L** へ入れてしまうおそれがあります。

運転装置の使いかた

セレクトレバーの操作

オートマチック車

■ シフトロック

誤操作防止のため、エンジンスイッチが **ON** のときはブレーキペダルを踏んでいないと、セレクトレバーを **P** から他の位置へ動かすことができません。また、エンジンスイッチが **LOCK** のときは、ブレーキペダルを踏んでも、踏まなくてもセレクトレバーを **P** から他の位置へ動かすことができません。これをシフトロックといいます。

⌄アドバイス

- 発進するときはブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを操作してください。
 - セレクトレバーボタンを押してからブレーキペダルを踏まないでください。
- シフトロックが解除されないため、セレクトレバーを **P** から他の位置へ操作できません。

■ 各セレクトレバー位置での速度範囲

下表の速度範囲内でセレクトレバー操作をしてください。

セレクト レバーの位置	速度範囲 (km/h)		
	2WD	4WD	
	[2H]	[4H]	[4L]
L	0 ~ 40	0 ~ 25	
2	0 ~ 70	0 ~ 45	
D	0 ~	0 ~ 80	

⌄アドバイス

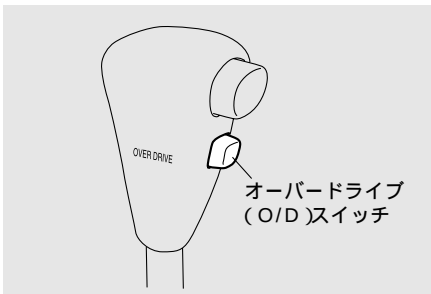
- 指定範囲の上限を超えた速度で走行しないでください。エンジンの回転が上がり過ぎて、エンジンが故障する原因となります。

オートマチック車の運転のしかた

■ オーバードライブ（O/D）スイッチ

スイッチをONにしておくと、**[D]** 位置で走行中4速ギヤ（オーバードライブギヤ）にはいり、燃費性能と静粛性を高めます。

- スwitchを押すごとに、ONとOFFに切り替わります。
- OFFのとき、オーバードライブOFF表示灯が点灯します。



	スイッチの状態	表示灯
通常走行モード (ON)		消灯
坂道走行モード (OFF)		

スイッチがONのとき

通常走行に適した変速をします。

セレクトレバーが **[D]** のときに、1速から4速までの間の自動変速になります。燃費性能と静粛性の高い走行ができます。

⚠️ アドバイス

- AT油温が低い場合は、4速ギヤに入らない制御をしています。

スイッチがOFFのとき

坂道走行に適しています。

セレクトレバーが **[D]** のときに、1速から3速までの間の自動変速になります。

- 下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。
- 上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。

オーバードライブOFF表示灯

**O/D
OFF**

オーバードライブOFF表示灯は、メーターパネル内にあり、オーバードライブ（O/D）スイッチがOFFのときに点灯します。

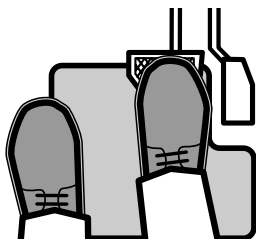
運転装置の使いかた

オートマチック車の運転のしかた

運転席にすわって

24ページの「オートマチック車を運転するときは」もあわせてお読みください。

- 1 ペダルが確実に踏み、ハンドル操作が楽に行えるようにシートを調節します。
- 2 アクセルペダルとブレーキペダルの位置を右足で確認します。



⚠ 警告

- アクセルペダルとブレーキペダルを踏み間違えないでください。車が思わぬ動きをして事故を起こすおそれがあります。

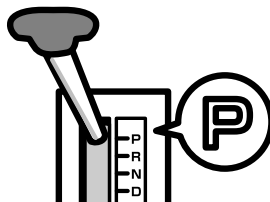
ℹ アドバイス

- ペダルの踏み間違いを防ぐために、アクセルペダルとブレーキペダルを実際に足で踏んで位置を確認してください。
- 左足では適切なブレーキ操作ができませんので、ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけてください。

エンジンの始動

エンジンのかけかたの詳細は114ページの「エンジンのかけかた」をお読みください。

- 1 パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- 2 セレクトレバーが **P** にあることを確認します。



ℹ アドバイス

- セレクトレバーが **N** の位置でもエンジンをかけることができますが、通常は駆動輪（後輪）が固定される **P** でエンジンをかけてください。
N での始動は、踏切や交差点でエンストしたときなどの非常用です。

- 3 ブレーキペダルを右足で踏みます。
- 4 エンジンを始動します。

発

進

■ 通常の発進

- 1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだままにします。

⚠注意

- セレクトレバーを **[P]** **[N]** 以外に入れると、クリープ現象でアクセルペダルを踏まなくても車はゆっくり動き出そうとしますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時に、クリープ現象が強くなる場合がありますので、とくにしっかりブレーキペダルを踏んでいてください。

- 2 前進時は **[D]**、後退時は **[R]** にセレクトレバーを入れ、レバーの位置を目で確かめます。



🔊アドバイス

- セレクトレバーボタンを押してからブレーキペダルを踏まないでください。
シフトロックが解除されないため、セレクトレバーを **[P]** から他の位置へ操作できないことがあります。

運転装置の使いかた

オートマチック車の運転のしかた

- 3 パーキングブレーキをもどします。
ブレーキ警告灯が消灯したことを確認します。
- 4 ブレーキペダルから足を徐々にはなし、アクセルペダルをゆっくり踏んで車を発進させます。

⚠ 注意

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
車が急発進をして事故を起こすおそれがあります。
- 発進時の速度の調節は、**マニュアル車**ではアクセル操作とクラッチ操作とで行いますが**オートマチック車**はアクセル操作だけです。アクセル操作はゆっくり慎重に行なってください。

■ 急な上り坂での発進

- 1、2は「通常の発進」と同じ操作です。
- 3 ブレーキペダルから足を徐々にはなし、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
- 4 車が動きだす感触を確認しながら、パーキングブレーキをもどして発進します。



走 行

■ 通常走行

セレクトレバーを **[D]** に入れて発進すると、走行速度とアクセルペダルの踏み込み量により、ローからトップまでギヤが自動的に切り替わります。

⚠注意

- 走行中は、セレクトレバーを **[N]** にしないでください。エンジンプレーキがまったくきかないため、思いがけない事故の原因となります。
- 高速走行中は、セレクトレバーを **[2]** や **[L]** に入れないでください。急激なエンジンプレーキがかかるとタイヤがスリップしたり、エンジンの回転が上がり過ぎて故障の原因となります。

■ 急加速走行

追い越しなどで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンして自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転が上がって力強い加速が得られます。

⚠注意

- 通常の加速をするときは、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。
急激に踏み込むと、キックダウンして思わぬ急加速をするおそれがあります。

運転装置の使いかた

オートマチック車の運転のしかた

■ 上り坂走行

上り坂を **[D]** で走行しているときに、スピードを保つためにアクセルペダルを踏み込んでいくと、キックダウンしてエンジンの回転が急に上がることがあります。このようなときは、坂の勾配に応じて、あらかじめ **[2]** に入れておくと、エンジン回転速度（回転数）の変化が少ない、なめらかな走行ができます。急な上り坂で1速と2速の変速を繰り返すようなときには **[L]** に入れます。

■ 下り坂走行

下り坂を **[D]** のままで走行すると、エンジンブレーキのききが弱くて速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときは、セレクトレバーを **[2]** に入れてエンジンブレーキを併用します。急な下り坂で、強力なエンジンブレーキが必要なときには、セレクトレバーを **[L]** に入れます。

⚠ 警告

- 急な下り坂や長い下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。
下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ装置が過熱してブレーキがきかなくなるおそれがあります。

📌 アドバイス

- **[D]** で走行しているときに、オーバードライブ（O/D）スイッチをOFFにすると、上り坂ではエンジン回転速度（回転数）の変化が少ないなめらかな走行ができ、下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

一時停止

- 1 走行しているときのセレクトレバー位置のままで車を停止させ、ブレーキペダルをしっかり踏んだままにします。
- 2 急な坂道での一時停止など、必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 3 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを **[N]** に入れます。
- 4 再発進するときは、思い違いのないようにセレクトレバーの位置を目で確かめます。

⚠注意

- 一時停止しているときに、空ぶかしをしないでください。
思い違いで、セレクトレバーが **[P]** **[N]** 以外に入っていると、思わぬ急発進をするおそれがあります。
- エアコンを作動させて一時停止しているときは、ブレーキペダルをとくにしっかり踏んでいてください。
エンジンのアイドリング回転が少し上がり、クリープ現象が強くなることがあります。

ℳアドバイス

- 上り坂などで、アクセルをふかしながら車を停止させないでください。
伝導装置内のオイルが過熱して、伝導装置が損傷する原因となります。

運転装置の使いかた

オートマチック車の運転のしかた

駐 車

- 1 車を完全に止めます。
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけます。
- 3 セレクトレバーを **P** に入れエンジンを止めて、ブレーキペダルから足をはずします。

⚠ 注意

- 駐車するときは、セレクトレバーを必ず **P** に入れてからエンジンを止めてください。
P 以外の位置ではシフトロックが作動せず、誤操作などで思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーが **P** の位置になっていることを目で確かめます。



- 4 エンジンキーを抜きます。

⚠ 注意

- エンジンをかけたまま車から離れないでください。
万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると、クリーブ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み込み、思わぬ急発進をするおそれがあります。
- キーは必ず抜いてください。

👉 アドバイス

- キーを抜くときは、セレクトレバーが **P** にあることを確認してください。
誤操作防止のため、セレクトレバーが **P** にはないときはキーインターロックが解除されず、キーを抜くことができません。
- キーは、エンジンスイッチが **LOCK** 以外の位置では抜くことはできません。

後 退

■ 正しい運転姿勢

車を後退させるときは身体をひねった運転姿勢になり、ペダルが踏みにくくなります。ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める姿勢で運転操作をしてください。

■ 前進や後退を繰り返すとき

車庫入れなどで前進や後退を繰り返すときは、その都度ブレーキペダルをしっかり踏んで車を完全に止めてから、次の前進あるいは後退の操作を行なってください。

📌アドバイス

- 前進と後退を繰り返すときなどは、セレクトレバーを **[R]** に入れていることを忘れてしまうことがあります。
車を後退させたあとは、すぐに **[R]** から **[N]** に入れる習慣をつけましょう。

■ **[R]** (リバース) ポジション警告ブザー

セレクトレバーを **[R]** に入れると室内で警告ブザーが鳴り、運転者にセレクトレバーが **[R]** に入っていることを知らせます。

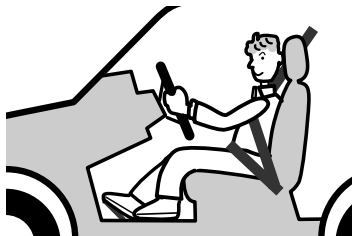
📌アドバイス

- この警告ブザーは運転者用です。
車外の人に車の後退を知らせるためのものではありません。

こんなことにも気をつけて

■ 車を少し移動させるとき

車を少し移動させるときでも、ブレーキペダルやアクセルペダルが確実に踏める正しい運転姿勢をとってください。



■ 車を停止させるとき

車が動いているときにセレクトレバーを **[P]** に入れないでください。
伝導装置が故障する原因となります。

運転装置の使いかた

2WD⇄4WDの切替え操作

- 27ページの「4WD車を運転するときは」もあわせてお読みください。

■ トランスファーレバー

トランスファーレバーを操作することにより、2WD、4WDに切り替えることができます。

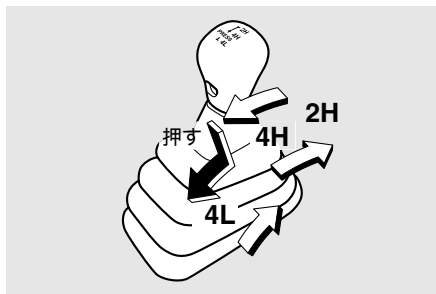


トランスファーレバーの各位置のはたらき
〔2H〕（2WD）
一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置です。

〔4H〕（ハイレンジ4WD）
悪路、砂地、積雪路などのタイヤがスリップしやすい路面を走行するときの位置です。

〔4L〕（ローレンジ4WD）
急な坂路、砂地、ぬかるみなど特に大きな駆動力を必要とするときの位置です。

トランスファーレバーの操作
ハンドルが直進状態のときに操作します。



↑ ↓ トランスファーレバーを押さずに動かします。

↓ トランスファーレバーを押し下げながら動かします。

〔2H〕⇔〔4H〕

停車中でも走行中でも操作できますが、走行中に操作するときは、車速100km/h以下のときにアクセルペダルから足を離した状態で、トランスファーレバーを操作します。

オートマチック車は、停車中の場合、セレクトレバーを **[N]** または **[P]** に操作してからトランスファーレバーを操作します。

〔4H〕⇔〔4L〕

停車中にのみ操作し、オートマチック車の場合はセレクトレバーを **[N]** にしてから、トランスファーレバーを操作します。

〔4L〕に入れるときはトランスファーレバーを押し下げながら操作し、〔4H〕に入れるときはトランスファーレバーを押し下げずにそのまま操作します。

⚠注意

- 走行中は〔4H〕⇔〔4L〕の操作をしないでください。
- 旋回走行中または、雪道などで後輪を空転させたままトランスファーレバーを操作しないでください。

📢アドバイス

- 停車中に〔4H〕⇔〔4L〕の操作をする場合に、操作が重くて入りにくいときは、車を少し前進または後退させてから、操作をしてください。
- 停車中に〔2H〕⇔〔4H〕の操作をする場合に、操作が重くて入りにくいときは、低速走行しながら操作をしてください。
- 走行中に〔2H〕→〔4H〕の操作をする場合に、トランスファーレバーの操作が重くて入りにくいときや、ギヤ鳴りが発生するときは、速度を落とすか、停車して操作をやり直してください。
- 走行中に〔4H〕→〔2H〕の操作をする場合に、トランスファーレバーの操作が重いことがあります。その場合は車を直進状態にして少し走行してから操作してください。
- 低温時、走行後しばらくはトランスファーレバーの操作が重くなったり、ギヤ鳴りが発生することがあります。
- 〔2H〕で連続走行しているときは、エアロッキングハブ装置が働いて前輪の駆動装置が回転しないため、燃費と静粛性が向上します。

運転装置の使いかた

2WD⇄4WDの切替え操作

■ 4WD表示灯

4WD

4WD表示灯はメーターパネル内にあり、トランスファーレバーが〔4H〕、〔4L〕に入っているときに点灯します。

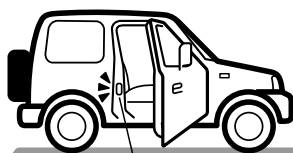
⚠️アドバイス

- 〔2H〕→〔4H〕に操作したときと、〔4H〕、〔4L〕にしたままエンジンをかけたときに4WD表示灯が点滅することがあります。4WD表示灯が1分以上点滅を続ける場合は、4WDに切り替わっていないため、速度を落とすか、または車を安全な場所に停車して操作をやり直してください。
- 操作をやり直しても4WD表示灯が1分以上点滅を続ける場合は4WD装置の故障が考えられます。このような場合は、トランスファーレバーを〔2H〕に切り替え、高速走行を避けてスズキサービス工場に行き、点検を受けてください。

経済運転をしましょう

■ タイヤの空気圧を適正に

- タイヤの空気圧が低いとガソリンを多く消費します。適正な空気圧にしてください。
- この車の指定空気圧は、運転席ドアの開口部に貼付してある空気圧ラベルで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。



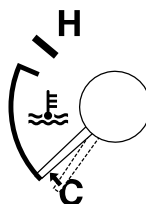
空気圧ラベル

■ 無用な荷物は車からおろしましょう

無用な荷物を積むとガソリンを多く消費します。無用な荷物は車からおろしましょう。

■ 暖機運転は適度に

暖機運転は、水温計の指針が動き出す程度までで十分です。



運転装置の使いかた

経済運転をしましょう

- 急発進、急加速、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない



- むやみに空ぶかしをしない
空ぶかしは燃料を浪費するだけで、何の効果也没有ません。



- 走行中は車速に応じたギヤで
低速ギヤを使って高いエンジン回転速度（回転数）で走行すると燃費が悪くなります。走行速度に応じた正しいギヤをお使いください。

5. 装備品

エアコン、ヒーター

エアコン、ヒーターの吹出し口	136
各スイッチ、レバーの使いかた	138
エアコンの上手な使いかた	142

オーディオ

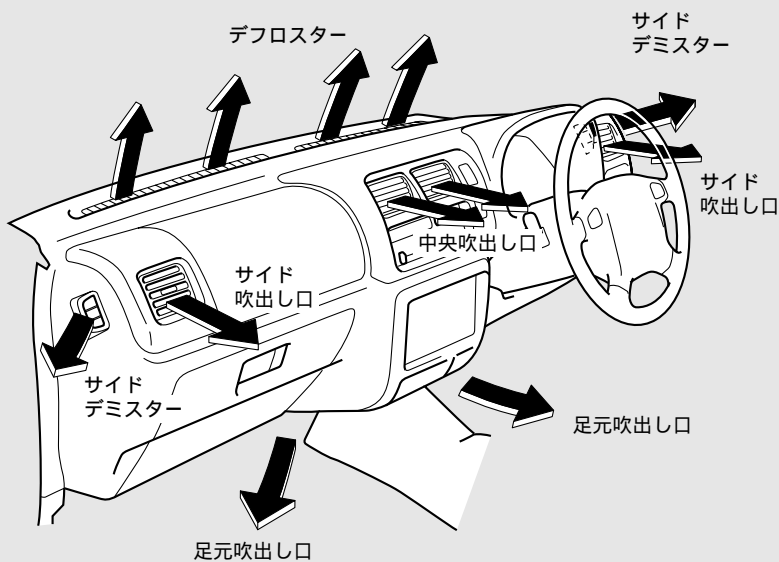
オーディオの上手な使いかた	143
アンテナ	144

室内装備

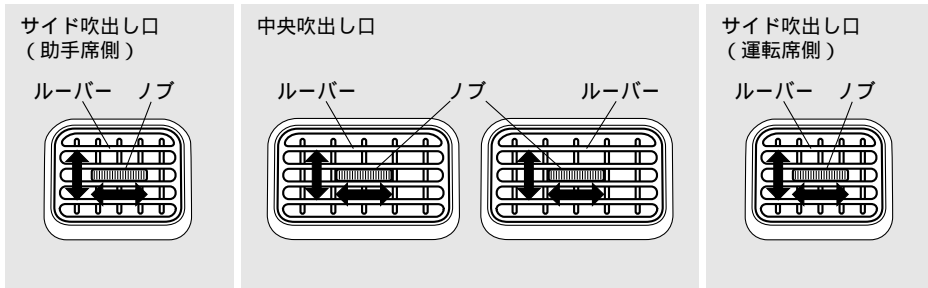
室内灯	145
グローブボックス	146
サンバイザー	147
シガーライター	148
灰皿	149
フロアコンソールボックス	149
フットレスト	150
フロアコンソールトレイ	150
シートアンダートレー（助手席）	150
リヤクォータートレイ（後席両側）	151
荷室サイドボックス	151

エアコン、ヒーター

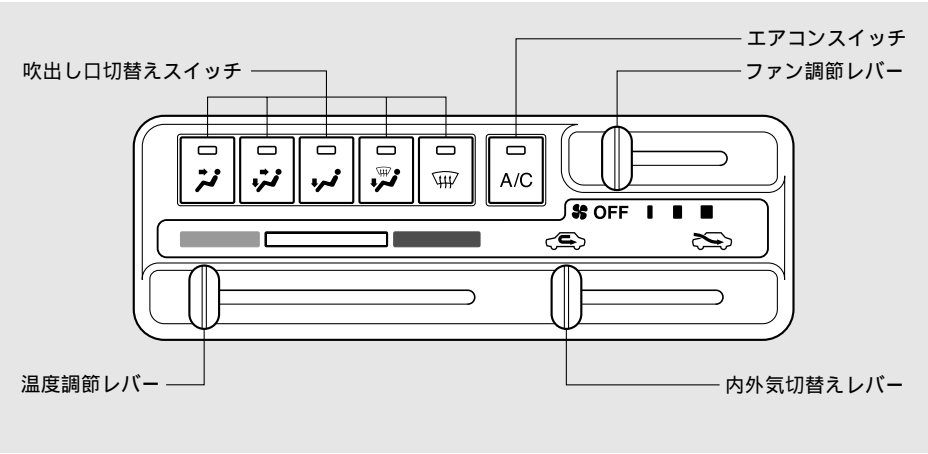
エアコン、ヒーターの吹出し口



中央吹出し口、サイド吹出し口は、ノブを上下左右に動かして風の向きを調節できます。



エアコン、ヒーター

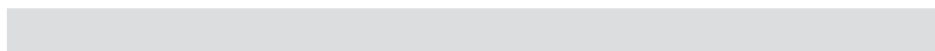


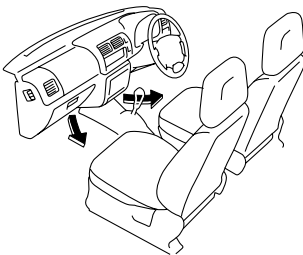
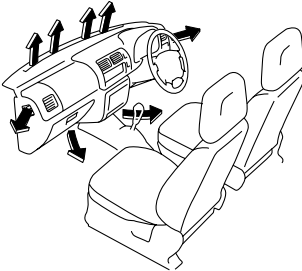
各スイッチ、レバーの使いかた

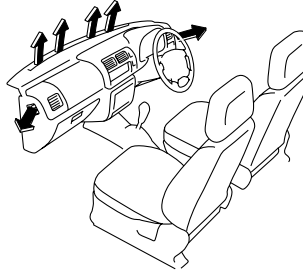
■ 吹出し口切替えスイッチ

使用目的にあわせて、吹出し口切替えスイッチを押します。
押したスイッチの表示灯が点灯します。

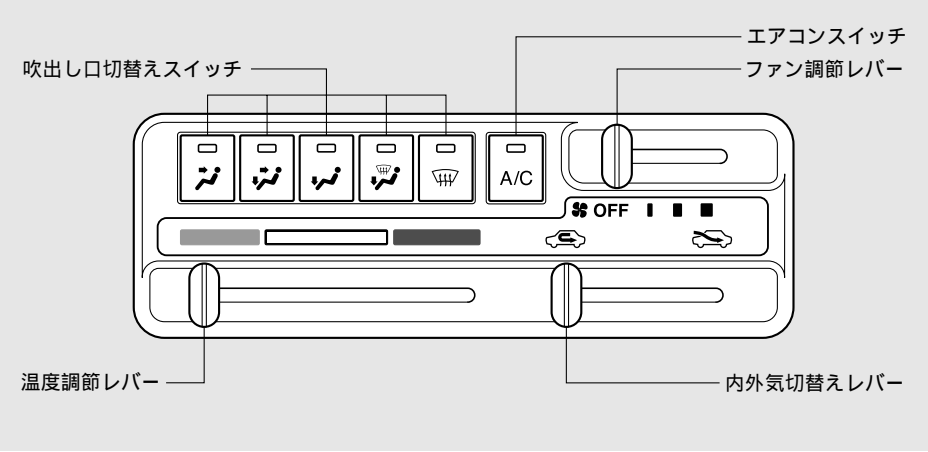
使 用 目 的	上半身に送風したいとき	上半身、足元に送風したいとき
ス イ ッ チ		
吹 出 し 口		



使 用 目 的	足元に送風したいとき	足元への送風と窓ガラスのくもりを取りたいとき
ス イ ッ チ		
吹 出 し 口		

使 用 目 的	窓ガラスのくもりを取りたいとき
ス イ ッ チ	
吹 出 し 口	

エアコン、ヒーター



各スイッチ、レバーの使いかた

■ 内外気切替えレバー

外気導入を内気循環に切り替えるときは、内外気切替えレバーを左に操作します。

位 置	使 用 目 的
 (外 気 導 入)	● 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
 (内 気 循 環)	● 外気をしゃ断している状態です。トンネル内や渋滞時など外気が汚れているときや、早く冷暖房したいときにお使いください。

♪アドバイス

- 長時間、内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。

■ 温度調節レバー

温度調節レバーを右に操作すると温度は高くなり、左に操作すると温度は低くなります。

頭寒足熱暖房

吹出し口切替えスイッチの位置が  のときに、温度調節レバーを中間の位置に操作すると、頭寒足熱暖房になります。

- 足元に温かい風が吹き出し、上半身には比較的低い温度の風を吹き出します。
- エアコンを作動させると、さらに温度差のある効果的な頭寒足熱暖房ができます。

■ ファン調節（風量）レバー

ファン調節レバーを左右に操作します。

レバー位置	OFF	■ ■ ■
風量	停止	弱 ← → 強

⌚ アドバイス

- 停車や渋滞が長引くときは、バッテリー保護のため、風量を弱くしてください。

■ エアコンスイッチ

エンジンをかけ、ファン調節レバーを入れてから、エアコンスイッチを押します。同時にエアコンスイッチ内の表示灯が点灯します。

止めるときは、スイッチをもう一度押します。

除湿暖房

暖房しているときにエアコンスイッチを押すと、除湿された温風が吹き出して、こちよい暖房になります。

⌚ アドバイス

- エアコンの冷却器を通る空気の色度が0 近くまで下がると、エアコンは装置保護のため作動を停止します。
このため外気温が0 近くまで下がっているとき外気導入にすると、エアコンは作動しなくなります。
- エアコンスイッチを押すと、しばらくの間白い霧が吹き出すことがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生するもので、異常ではありません。

エアコン、ヒーター

エアコンの上手な使いかた

■ 長期間使用しないときは
月に1回程度エアコンを作動させ、オイルをエアコン装置の各部に循環させてください。構造部品の油ぎれを防ぐことにより性能をたもち寿命をのばします。

■ 炎天下に駐車したときは
長時間炎天下に駐車すると、室内が大変高温になることがあるため、ドアや窓を開け室内の熱気と外気を入れ替えながら、冷房をしてください。

■ エアコンガスを充てんするときは
エアコンガスは、冷媒HFC134a (R134a)を入れてください。

アドバイス

- エアコンガスを充てんするときは、スズキサービス工場にご相談ください。
- 地球環境を守るため、大気放ししないよう、修理・廃車時の処理はスズキサービス工場にご相談ください。

■ エアフィルターを交換するときは

エアコンを快適に使用するためにエアフィルターを取り付けています。定期的にエアフィルターの清掃、交換をおすすめします。

地 域	清掃時期	交換時期
寒冷地、粉じんの多い地域	5,000 kmごと、または6か月ごと	車検ごと
上記以外の地域	10,000 kmごと、または12か月ごと	車検ごと

アドバイス

- エアフィルターの清掃、交換をするときは、スズキサービス工場にご相談ください。

オーディオ

オーディオの上手な使いかた

安全運転をさまたげないように、適度な音量でお聞きます。

△注意

- 走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように、十分注意して行なってください。

ℳアドバイス

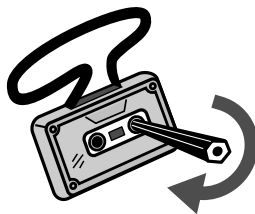
- オーディオを聞いているときに車内または車の近くでデジタル携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- オーディオが不法電波の影響を受けると、正常に作動しないことがあります。
- エンジンを停止したまま長時間オーディオを使うと、バッテリーあがりの原因となります。

■ ラジオ

ラジオの受信はアンテナの位置が刻々と変わるため、受ける電波の強さが変わったり、ビルの谷間や歩道橋などの影響を受けて、良好な受信状態を保てないことがあります。

■ カセットテープ

- 90分を超えるテープは使用しないでください。
テープが非常に薄いため、テープが伸びたり切れたりして、カセットデッキに巻き込まれることがあります。
- カセットテープのたるみを取ってから使用してください。たるんでいる部分がカセットデッキに巻き込まれることがあります。

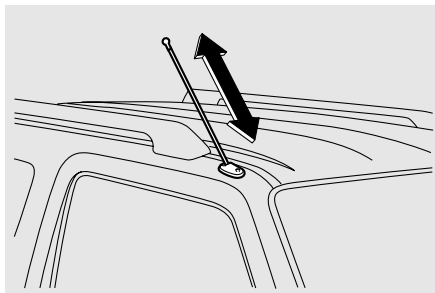


- ラベルがはがれかけていたり、変形したカセットテープを使用しないでください。
取り出せなくなったり、回転不良になることがあります。
- カセットテープは直射日光を避け、ケースに入れて保管してください。
汚れたり変形すると使用できなくなります。
- カセットデッキのヘッドの汚れを1か月に1回を目安に、市販のクリーニングテープで取り除いてください。
ヘッドが汚れていると、音が歪んだり高音が出にくくなり、故障の原因となります。

オーディオ

アンテナ

- ラジオを聞くときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしておきます。
- 自動洗車するときや屋根の低いカーポートに駐車するときなどは、アンテナを収納してください。アンテナを曲げてしまうと収納ができなくなります。



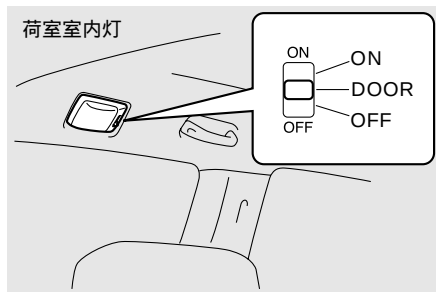
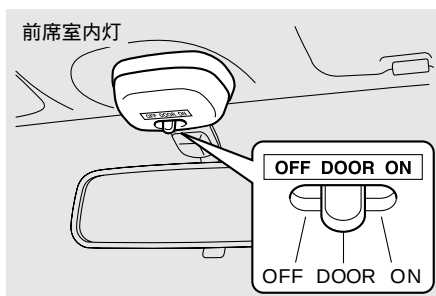
室内装備

室内灯

ON ドアの開閉に関係なく点灯します。

DOOR ... バックドアを含む各ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。

OFF ドアの開閉に関係なく消灯します。



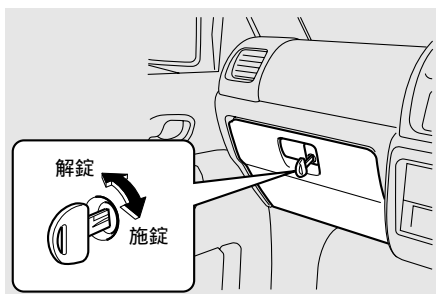
⚠️ アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。
バッテリーあがりを起こすおそれがあります。
- キーレスエントリーの作動をしらせる機能として、室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときは、解錠時には室内灯が約15秒間点灯します。キーをエンジンスイッチに差し込むと室内灯は消灯します。また、キーレスエントリーの作動をしらせる機能を室内灯のみに切り替えた場合、室内灯スイッチが DOOR 位置にあるときは、施錠時には室内灯が2回点滅し、解錠時には室内灯が約15秒間点灯します。切り替えについては、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

室内装備

グローブボックス

レバーを手前に引いてふたを開けます。
施錠するときは、キーを差し込んで右に
まわしたまま抜きます。



⚠ 注意

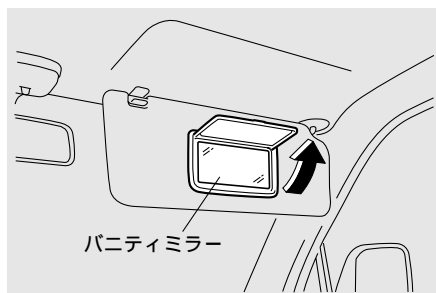
- グローブボックスのふたを開けたまま走行しないでください。
急ブレーキのときなどに、身体が
ふたにあたったり、中の物が飛び
出すおそれがあります。

サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。横からの日差しがまぶしいときは、フックから外して横にまわします。

バニティミラー

運転席サンバイザーの裏側にあるミラーカバーを開けると、バニティミラーがあります。また、ミラーカバーの表側にはチケットホルダーがあります。

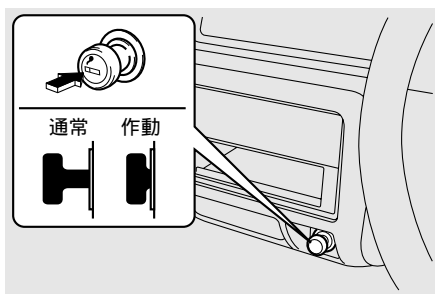


室内装備

シガーライター

エンジンスイッチが **ACC** または **ON** のときに使用できます。

- 押し込んで手をはなします。ヒーター部が赤熱すると自動的にもとの位置までもどります。
- 使用後はヒーター部に付着した灰を灰皿で落としてから、すみやかにもとにもどしてください。



⚠ 注意

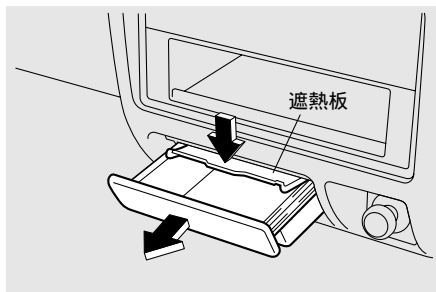
- シガーライターの金属部分には触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- シガーライターは停車中に使用してください。走行中に使用すると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

📌 アドバイス

- シガーライターを押し込み続けしないでください。過熱して故障などの原因となります。
- 押し込んで30秒以上たってももどらないときは、故障していることが考えられます。手で引き出して、スズキサービス工場で点検を受けてください。
- 他車のシガーライターを差し込まないでください。故障する原因となります。
- 差し込み口を電源（12 V 100 W 以下）として使用するときは、事故防止のため、スズキ純正品以外の電気製品を使用しないでください。
- エンジンが止まった状態で長時間電源として使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっている状態でも、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

灰 皿

清掃するときは、遮熱板を下に押さえながら引き抜きます。

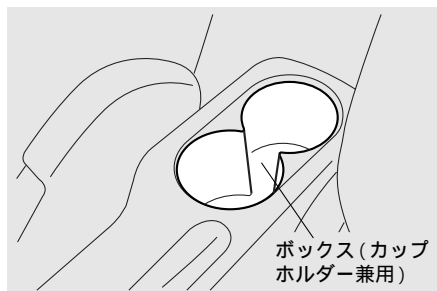


⚠ 注意

- タバコやマッチは確実に火を消してから灰皿に入れてください。
- 使用したあとの灰皿は必ず閉めておいてください。
- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、紙などの燃えやすい物を入れないでください。

フロアコンソールボックス

- ボックスとして使用するときには、手回り品や小物などの収納にお使いください。
- カップホルダーとして使用するときには、缶ジュースやカップを置くことができます。



⚠ 注意

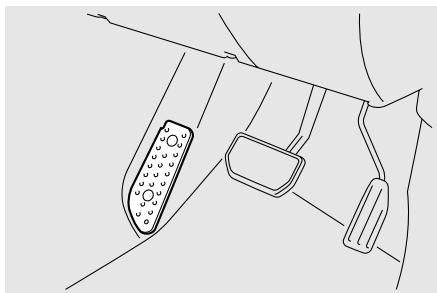
- カップホルダーとして使用したときは、飲み物をこぼさないよう、急発進・急ブレーキに注意してください。飲み物が熱いときにこぼれるとやけどをするおそれがあります。

室内装備

フットレスト

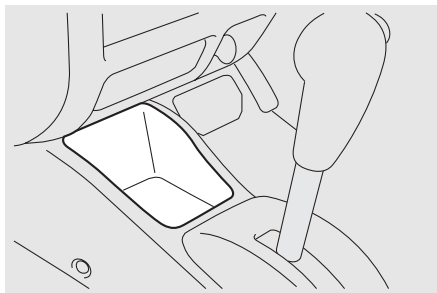
オートマチック車

長距離走行などのときに、左足のささえとして使用します。



フロアコンソールトレイ

手回り品や小物などの収納にご使用ください。



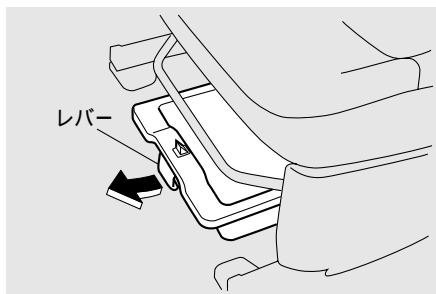
⚠ 警告

- 走行中にくらり落ちるような物を入れないでください。
ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると確実なペダル操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。

シートアンダートレー(助手席)

クッションの下に靴などを収納するトレイがあります。

収納するときは、レバーを手前に引いてトレイを引き出します。

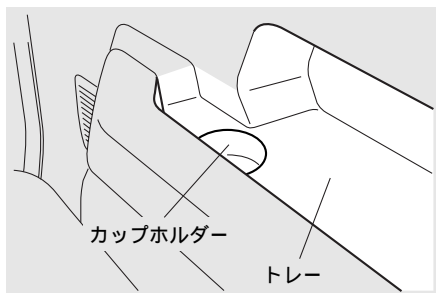


⚠ アドバイス

- 収納したあとは、トレイが確実にロックされていることを確認してください。

リヤクォータートレイ(後席両側)

- トレーは、手回り品や小物などの収納にご使用ください。
- カップホルダーは、缶ジュースやカップを置くときに使用します。

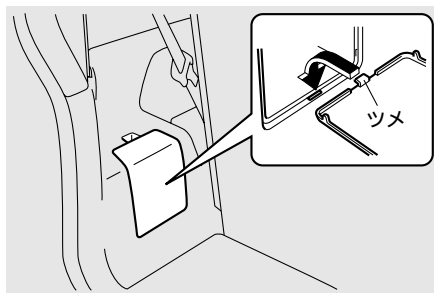


⚠ 注意

- 飲み物をこぼさないよう、急発進・急ブレーキに注意してください。飲み物が熱いときにこぼれるとやけどをするおそれがあります。

荷室サイドボックス

荷室サイドボックスは荷室後部の左右にあり、閉めるときはふたのツメを溝にはめてしめます。



[illegible]

6. お車との上手なつきあいかた

お手入れ

外装のお手入れ	154
内装のお手入れ	158
タイヤの交換	159

寒冷時の取扱い

冬期に入る前の準備	161
出発の前に	163
雪道を走行するとき	165
駐車するとき	166
タイヤチェーンのつけかた	168

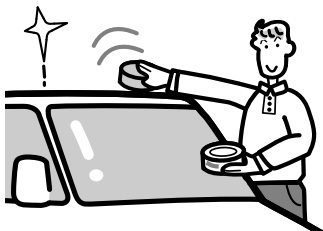
お手入れ

外装のお手入れ

■ 塗装面を美しく保つために

お車をいつまでも美しく保つためには普段のお手入れが必要です。

- 駐車、保管は風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 次のようなときは必ず洗車してください。
 - 海岸地帯や凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき
 - 鳥のふん、虫の死がい、鉄粉、ばい煙、コーラタールなどが付着したり、酸性雨の可能性のある雨に降られたりしたとき
 - ほこりや泥でひどく汚れたとき
- ワックスがけは、月に1回程度または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
- 飛び石による傷や引っかき傷などの塗装面の傷はサビの原因となります。見つけたら早めに補修してください。



♪アドバイス

- 塗装面の傷を補修するときは、スズキサービス工場にご相談ください。
不適切な塗料を使用すると塗装がはがれる原因となります。

■ 洗車のしかた

⚠注意

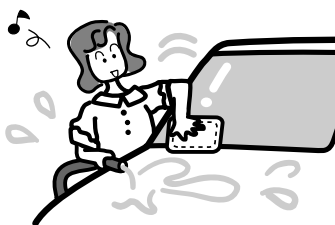
- 洗車をしたあとはブレーキのききが悪くなることがありますので、きき具合を確かめてください。
ブレーキのききが悪いときは低速で走行し、前後の車に十分注意しながら、ききが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキをかけたときの熱でブレーキ装置のしめりを乾かしてください。
- 下回り、足回りを洗うときは、手などにけがをしないように注意してください。

♪アドバイス

- エンジンルームに水などをかけないでください。エンジンの始動不良など電気系統の故障の原因となります。

手洗い洗車をするときは

- 1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。
- 2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って中性洗剤を落とします。
- 3 柔らかい布で水をよく拭き取り、はん点が塗装面に残らないようにします。



自動洗車機を使うときは

- ドアミラーやアンテナを格納してから洗車をします。
- アルミホイール部分を自動洗車機で洗車しないでください。
アルミホイールは傷がつきやすく、傷がつくとホイールがさびる原因となります。

⚠ 注意

- ルーフエンドスポイラー装備車は、自動洗車機での洗車を避けてください。スポイラーが洗車機にひっかり破損するおそれがあります。

💡 アドバイス

- 自動洗車機のブラシで塗装面に傷がついて、塗装面の光沢が失われたり、塗装の劣化を早めることがあります。

コイン洗車機を使うときは

- 洗車ノズルを車体から40cm以上離して洗車してください。

💡 アドバイス

- コイン洗車機で洗車するときに、ドアガラスやドアまわりなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

お手入れ

外装のお手入れ

■ ワックスのかけかた

- 月に1回程度または水のはじきが悪くなったときに行なってください。
- 洗車して残った水をよく拭き取ってから、車体の表面が熱くないとき（表面の温度が体温以下のとき）に行なってください。
- ワックスの容器に書かれている取扱説明に従って、ワックスがけをしてください。
- ワックスはスズキ純正ワックスのご使用をおすすめします。



⚠️ アドバイス

- コンパウンド（みがき粉）入りのワックスを使用すると、塗装面に細かい傷がつくことがあります。

■ フロントウインドーガラスの手入れ

- 油膜などが付着してワイパーの拭き残しが出たときは、ガラスクリーナーを使用して汚れを取ってください。

■ 樹脂塗装部品の手入れ

- バンパーなどの樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着したときは、すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。付着したままにしておくと、しみや塗装はがれの原因となります。
- 泥などの汚れを落とすときは、十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って洗います。

🔧 アドバイス

- 塗装面の補修をするときは、スズキサービス工場にご相談ください。不適切な塗料を使用すると塗装はがれる原因となります。

■ アルミホイールの手入れ

- 1 十分に水をかけながら、スポンジやセーム皮のような柔らかいものを使って汚れを洗い落とします。
- 2 汚れがひどいところは中性洗剤を使って洗い、さらに真水で洗って中性洗剤を落とします。
- 3 表面を美しく保つために、車体と同じワックスでワックスをかけます。

🔧 アドバイス

- 海水や道路の凍結防止剤が付着したときは、すみやかに洗い落としてください。付着したままにしておくとサビの原因となります。
- 汚れを落とすときに、砂入りの石けん、硬いブラシ、自動洗車機は使用しないでください。アルミホイールは傷がつきやすく、傷がつくとホイールがさびる原因となります。

お手入れ

内装のお手入れ

■ 布地、ビニールレザーなどの手入れ

- 1 中性洗剤の水溶液を柔らかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れを取ります。
- 2 真水を含ませた柔らかい布で拭いて、残っている洗剤分を取ります。
- 3 残っている水分を拭き取り、直射日光を避けて乾燥させます。

⌒アドバイス

- 汚れを取るときに漂白剤、有機溶剤、染料を使用しないでください。しみ、変色、強度低下などの原因となります。

■ 熱線入りバックウインドーガラスの手入れ

- 室内側のガラス面を拭くときは、熱線や端子を傷つけないように、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿って拭いてください。

■ 樹脂部品の手入れ

- ほこりなどの汚れは、真水で洗った布をよく絞って拭き取り、直射日光を避けて乾燥させます。
- 液体芳香剤やジュースなど液体類が付着したときは、すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。こぼしたままにしておくと、しみ、変色、ひび割れの原因となります。

⌒アドバイス

- 液体芳香剤はこぼさないように容器を固定するか、固形タイプのものでご使用ください。
- 樹脂部品の手入れをするときは、ベンジン・シンナーなどの有機溶剤や酸性・アルカリ性の洗剤は使用しないでください。また、各種クリーナー類にはこれらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。

タイヤの交換

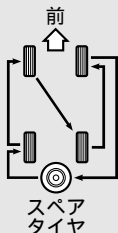
■ タイヤのローテーション

タイヤがかたよって摩耗するのを防いで寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとに図のようにタイヤのローテーションを行なってください。

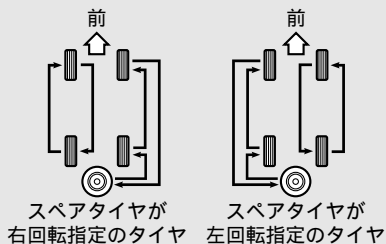
回転方向指定のあるタイヤは、タイヤの側面に回転方向を示すマークがあります。

スペアタイヤをローテーションに入れるとき

回転方向指定のないタイヤ

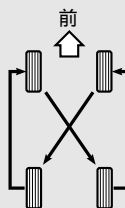


回転方向指定のあるタイヤ

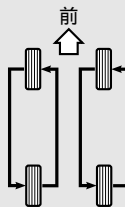


スペアタイヤをローテーションに入れないとき

回転方向指定のないタイヤ



回転方向指定のあるタイヤ



ⓘ アドバイス

- タイヤのローテーションを行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。
- 回転方向指定のあるタイヤを逆向きに装着して通常の走行（パンク時は除く）に使用しないでください。

車の走行に悪い影響をおよぼすおそれがあります。

お手入れ

タイヤの交換

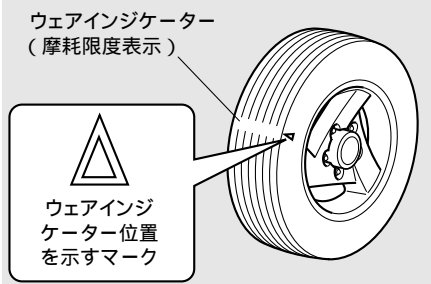
■ タイヤを交換するときは

- 4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のものを装着してください。また、著しく摩耗程度異なるタイヤを装着しないでください。車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となります。（冬用タイヤも同様です。）

例えば、ABS（アンチロックブレーキシステム）の場合、正確な車両速度が検出できなくなる場合があります、ABSが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、パートタイム4WD車のシステムでは、その性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響をあたえるおそれがあります。

- 取り付けるタイヤの空気圧を点検してください。この車の指定空気圧は、運転席ドア開口部に貼付してある空気圧ラベルで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。
- 走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検を受けてください。
- 取り付けるタイヤの摩耗量を点検してください。

ウェアインジケーター（溝の深さが1.6mm浅い部分）が現れ、溝が消えていたら他のタイヤと交換してください。

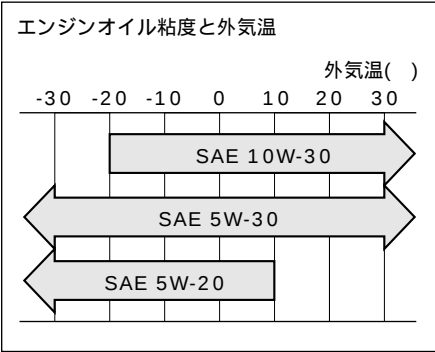


寒冷時の取扱い

冬期に入る前の準備

■ エンジンオイル

下記表に基づき、外気温に応じた粘度のものをご使用ください。



■ バッテリー

バッテリー液の液量や比重を確認してください。気温が低くなるとバッテリーの性能が下がり、放電気味のときはエンジンがかかりにくくなります。

■ ウィンドーウォッシャー液

凍結しないように、ウィンドーウォッシャー液の配合を気温に応じた割合にしてください。

使用地域・季節	薄める割合	凍結温度
通 常	原液 1 に 水 2	約－10
寒冷地の冬期	原液 1 に 水 1	約－20
極寒冷地の冬期	原液のまま	約－30

寒冷時の取扱い

冬期に入る前の準備

■ 冷却水

凍結しないように、不凍液（クーラント）の配合を気温に応じた割合にしてください。

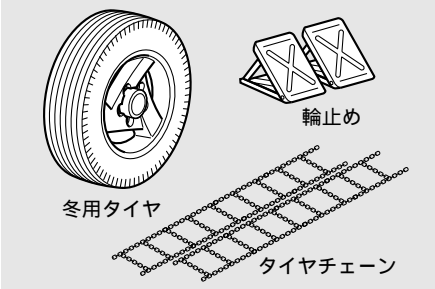
使用地域	不凍液濃度	凍結温度
通 常	30%	約－15
寒冷地	50%	約－35

■ 降雪地用ワイパー

降雪地用ワイパーは、金属部分を包むゴムの弾力で雪の付着を少なくするものです。
必要に応じて準備し交換してください。

■ 冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止め

冬用タイヤ、タイヤチェーン、輪止めは、雪道や凍結路を走行するために必要ですので準備しておいてください。



出発の前に

■ 屋根に積もった雪

車の屋根の上に積もった雪は出発の前に取り除いてください。走行時に雪がガラス面に落下して視界をさまたげるおそれがあります。



■ ワイパーの凍結

凍結しているときはぬるま湯をかけて氷を溶かします。ワイパーが離れたあとは、再凍結しないように水分を拭き取ってください。

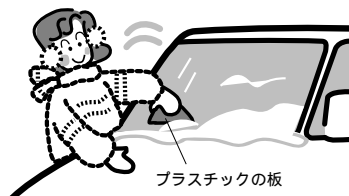


寒冷時の取扱い

出発の前に

■ ガラス面の雪や霜

ガラス面の雪や霜を落としてください。
プラスチックの板を使うと、ガラス面を
傷つけずに落とすことができます。



■ ドアの凍結

凍結しているときはぬるま湯をドアキー
の穴を避けてかけ、ドアが開いたあとは
水分を拭き取ってください。
無理に開けようとすると、ドアまわりの
ゴムがはがれたり破損するおそれがあり
ます。

■ 靴に付着した雪

靴についた雪は乗車するときによく落と
してください。

雪がついた靴のまま乗車すると、ペダル
を操作するときに滑ったり、車内の湿気
が多くなってガラスがくもりやすくなっ
たりします。

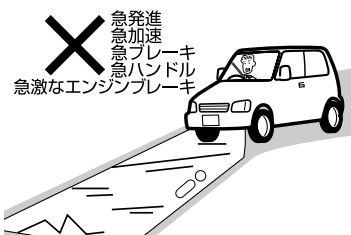


雪道を走行するとき

■ 雪道や凍結路はゆっくり走行

雪道や凍結路は路面が滑りやすく、スリップして車が方向性を失うと事故を起こすおそれがあります。

- 速度は控えめにし、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキなど「急」のつく運転はしないでください。



■ 冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着

雪道や凍結路では、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着して走行してください。

📌アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例に従ってください。
- 冬用タイヤを装着するときは、この車に指定のタイヤサイズで、4輪とも同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）の冬用タイヤを装着してください。

■ ブレーキのきき具合を確認

ブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結して、ブレーキのききが悪くなることがあります。

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキのききを確認してください。

📌アドバイス

- ブレーキのききが悪いときは低速で走行し、前後の車に十分注意しながら、ききが回復するまで繰り返しブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキをかけたときの熱でブレーキ装置のしめりを乾かしてください。

■ フェンダー裏側に付着する雪を点検

フェンダーの裏側に付着した雪が走行とともに大きくなり、タイヤと接触してハンドルの切れが悪くなる場合があります。

- ときどき車を止めてフェンダーの裏側を点検し、雪の塊が付着しているときは、周囲の部品に傷をつけないように取り除いてください。



寒冷時の取扱い

駐車するとき

■ パーキングブレーキ

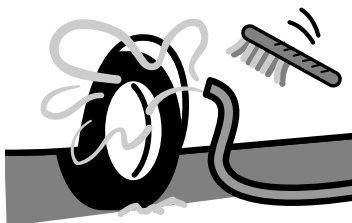
パーキングブレーキが凍結すると解除できなくなります。

長時間駐車するときは、パーキングブレーキをかけずに、**オートマチック車** はセレクトレバーを **P** に入れ、

マニュアル車 はチェンジレバーを R または 1 速に入れて、輪止め（市販品）をして駐車します。

■ 凍結防止剤を散布してある雪道を走行したあとは

凍結防止剤を散布してある雪道を走行したあとは凍結防止剤を洗い落とし、洗車後は水分を拭き取っておいてください。車体や下まわりの部品に凍結防止剤が付着したままにしておくとサビの原因となります。



◆ アドバイス

- ドアキーの穴に水がかからないように洗車してください。キー穴が凍結するとドアの解錠ができなくなります。
- ドアまわりのゴム部の水分は、ドアが凍結しないように特によく拭き取ってください。

■ 屋外駐車をするときは

- 軒下や樹木の下の駐車は避けてください。

積雪や落雪で車の屋根がへこむことがあります。

- 車の前部を風下に向けて駐車してください。

車の前部を風のあたる向きに駐車すると、エンジンが冷え過ぎてかかりにくくなります。

- 駐車するときはワイパーアームを立てておいてください。

ワイパーアームが雪の重みで変形したり、ブレード部（ゴムの部分）がガラスに凍結することがあります。



■ 排気管のまわりが雪などでおおわれたときは

- 排気管のまわりが雪などでおおわれたときは取り除いてください。



⚠ 警告

- 排気管のまわりが雪などでおおわれたまま、エンジンを回転させないでください。排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

寒冷時の取扱い

タイヤチェーンのつけかた

■ タイヤチェーン

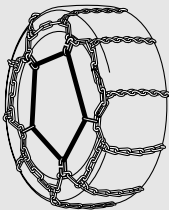
タイヤチェーンはスズキ販売店またはスズキ代理店でお求めいただけます。

タイヤサイズ	指定タイヤチェーン		
	形 式	スズキ品番	JIS表示
205/70R15 95Q	スチール製 くさり形	99000-99072-005	45102A

上記以外のタイヤチェーンについては、アクセサリカタログに記載しているタイヤチェーンをご使用ください。

詳しくはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

指定のタイヤチェーンを装着してください。



指定タイヤチェーン
(くさり形)

⚠ 注意

- 指定のタイヤチェーンを装着してください。指定品以外のタイヤチェーンを装着すると走行中にブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。

■ タイヤチェーンを装着する前に後輪に装着

タイヤチェーンは後輪に装着します。4WD走行するときもタイヤチェーンは後輪に装着してください。

ジャッキアップに適した安全な場所で装着

- 1 他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を止めます。
- 2 エンジンを止め、パーキングブレーキを確実にかけ、非常点滅灯を点滅させて他車に注意をうながします。必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

📌アドバイス

- アルミホイールは、タイヤチェーンを装着して走行するときに、アルミホイールに傷がつくおそれがあります。

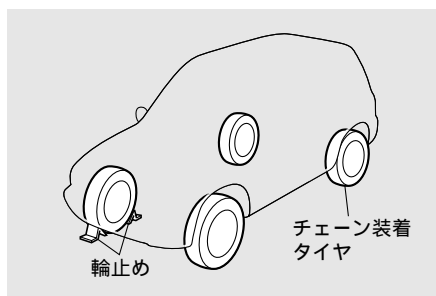
■ タイヤチェーンのつけかた

タイヤチェーン（スチール製くさり形）の標準的な装着方法は次の通りです。

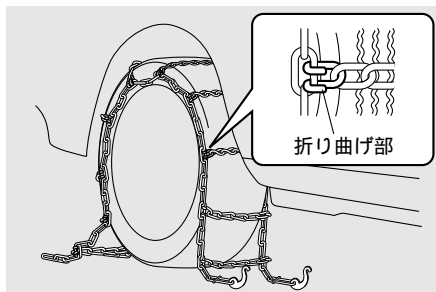
📌アドバイス

- 購入したチェーンが長過ぎることがあります。購入時に装着して余る部分を切っておくと、装着が楽に行えます。

- 1 チェーンを装着する車輪と対角線の位置にある車輪の前後に輪止め（市販品）をします。



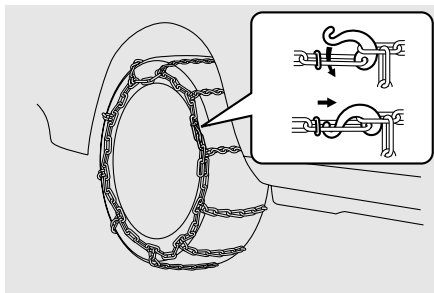
- 2 チェーンを装着する車輪をジャッキアップします。ジャッキアップのしかたは177ページをお読みください。
- 3 チェーンを地面に広げ、ねじれがあれば直します。
- 4 クロスチェーンの折り曲げ部が外側を向くようにして、タイヤに巻きつけます。



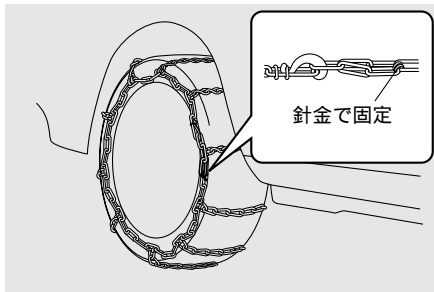
寒冷時の取扱い

タイヤチェーンのつけかた

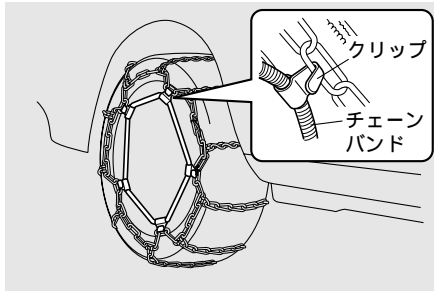
- 5 チェーンの両端をいっぱい引っ張り、先に内側のフックを連結し、次に外側のフックを連結します。



- 6 余ったチェーンは、車体にあたるのを防ぐため、針金でしばって固定します。



- 7 チェーンバンドを、クリップのツメを外向きにして等間隔にかけて、チェーンをいっぱいに張ります。



- 8 反対側の車輪も同様に装着します。ジャッキと輪止めを格納します。500m程度走行して車を止め、チェーンのゆるみ、かたより、外れがないかを点検します。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着して走行するときは、タイヤチェーンに無理な力がかからないように、30 km/h以下の速度で走行してください。
- 雪のない舗装路はタイヤチェーンを外し、2WDで走行してください。
 - タイヤチェーンを装着したまま4WDで走行すると駆動装置が損傷するおそれがあります。
 - タイヤチェーンを装着したまま走行すると、路面が損傷したり、タイヤチェーンの摩耗が早まります。
- 走行中にいつもと違う音がするときは、ただちに停車して点検をしてください。
タイヤチェーンが切れたり一部が外れて車体にあたると、ブレーキ配管や車体を損傷するおそれがあります。

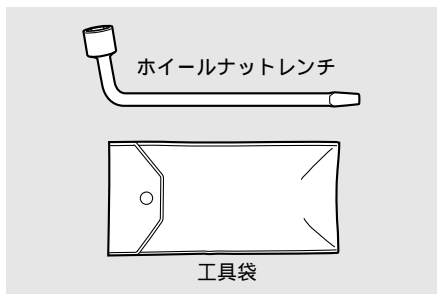
7. 万一のとき

工具、ジャッキ、スペアタイヤ	172
パンクしたとき	175
故障したとき	181
けん引してもらおうとき	184
バッテリーがあがったとき	187
ヒューズを交換するとき	190
ランプの電球を交換するとき	193
オーバーヒートしたとき	194
事故が起きたとき	196

工具、ジャッキ、スペアタイヤ

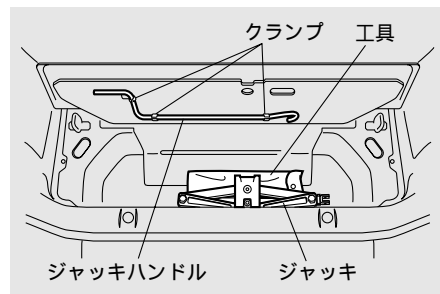
工具

工具は、後部荷室に格納されています。



ジャッキ、ジャッキ ハンドルの格納場所

ジャッキ、ジャッキハンドルは、後部荷室に格納されています。



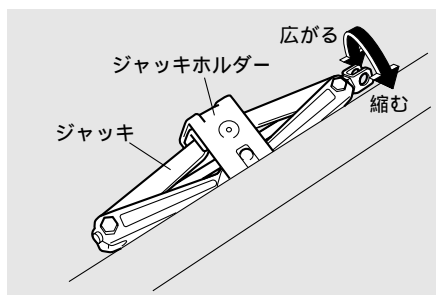
- ジャッキハンドルは、フロアボードの裏側にあるクランプに取り付けてあります。

⚠️アドバイス

- 工具、ジャッキ、ジャッキハンドルを使用したあとは、所定の位置に格納し、しっかり固定してください。

ジャッキの取り出しかた

- フロアマット、フロアボードを外し、ジャッキを縮めて取り出します。
- 格納するときは、ジャッキホルダーにおさめてからジャッキを広げ、しっかり固定します。



⚠️アドバイス

- ジャッキを格納するときに、ホイールナットレンチなどで無理にジャッキを広げないでください。ジャッキホルダーが変形するおそれがあります。

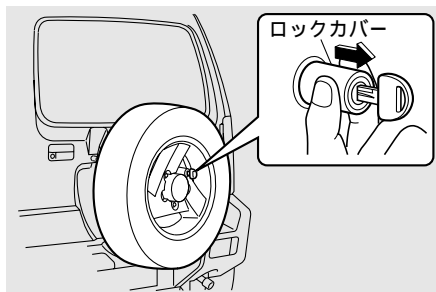
スペアタイヤ

アドバイス

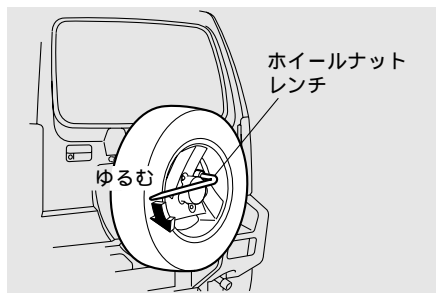
- スペアタイヤの空気圧と摩耗量を定期的に点検してください。

外しかた

- 1 ロックカバーのキー溝にエンジンキーをいっばいに差し込んだまま、ロックカバーを引いて外します。



- 2 ホイールナットレンチでホイールナットを左にまわして外します。



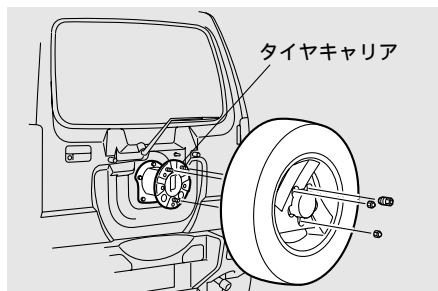
- 3 タイヤを両手でしっかり持って外します。

工具、ジャッキ、スペアタイヤ

スペアタイヤ

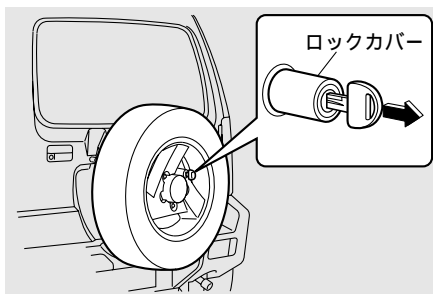
取り付けかた

- 1** タイヤを両手でしっかり持ち、ホイールの穴をボルトに合わせながら、タイヤをタイヤキャリアに取り付けます。



- 2** ホイールナットレンチを使ってロックナット、ホイールナットを均一に、しっかり締め付けます。

- 3** キー溝にエンジンキーを差し込んだまま、ロックカバーをボルトに取り付けます。
- 4** ロックカバーをもう一方の手で押さえて、エンジンキーを抜き取ります。ロックカバーを引いて、ロックが確実にされていることを確認します。

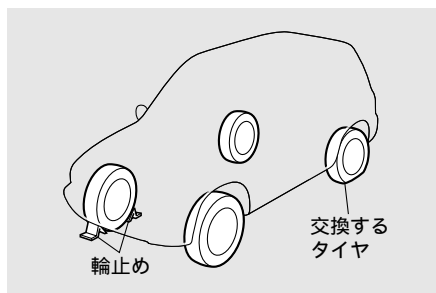


パンクしたとき

タイヤ交換の準備

- 1 他車の通行のじゃまにならず、安全に作業ができ、地面が硬くて平らな場所に車を移動してエンジンを止めます。
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、**オートマチック車** はセレクトレバーを **P** に入れ、**マニュアル車** はチェンジレバーを R または1速に入れてから、非常点滅灯を点滅させて他車に注意をうながします。
必要に応じて、停止表示板（別売り）を置きます。

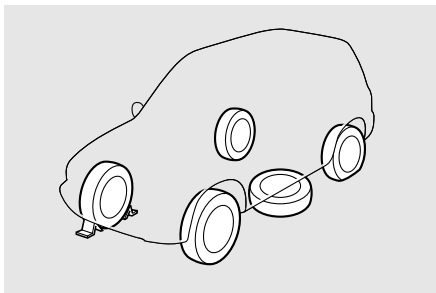
- 3 交換するタイヤと対角線上の位置にあるタイヤの前後に輪止め（市販品）を置きます。



パンクしたとき

タイヤ交換の準備

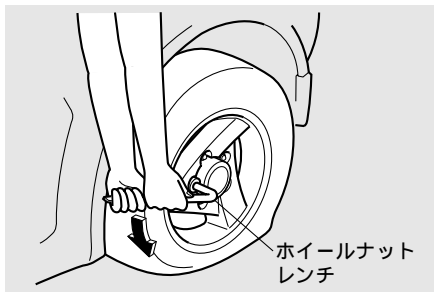
- 4 工具、ジャッキ、ジャッキハンドルを取り出し、スペアタイヤを取り外します。
同乗者がいるときや重い荷物をのせているときは車からおろします。



アドバイス

- 取り外したスペアタイヤは、ジャッキが外れたとき足などをはさまないために、交換するタイヤの近くの車体の下に置いてください。
- スペアタイヤを地面に置くときは、ホイール面の傷つき防止のため、ホイール面を上にして置いてください。

- 5 ホイールナットレンチでホイールナット（5個）を左にまわして、手でナットが軽くまわるくらいまでゆるめます。



ジャッキアップ

⚠ 警告

- 万一、ジャッキが外れると、身体がはさまれたり、車が思わぬ動きをするおそれがあります。ジャッキアップするときは次のことをお守りください。
- 地面が硬くて平らな場所以外では、ジャッキアップしないでください。
- ジャッキは、タイヤ交換以外には使用しないでください。
- ジャッキはこの車に付属のものを使用し、他の車のものを使用しないでください。また、この車のジャッキを他の車に使用しないでください。
- ジャッキは必ず指定されている位置にかけ、必要以上に車を持ち上げないでください。
- ジャッキで車を持ち上げているときに、車の下にもぐったり、エンジンをかけたり、車をゆすったりしないでください。
- ジャッキアップするときに、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。

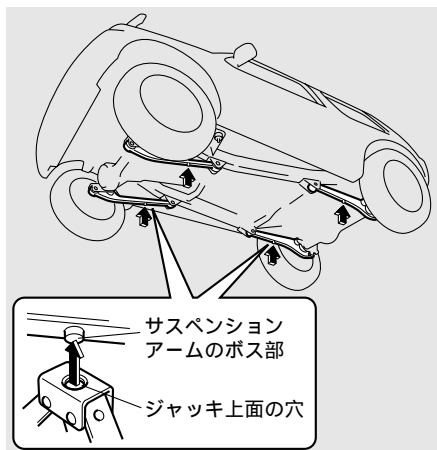
⚠ 注意

- ジャッキアップをする前にエンジンを必ず止めてから、パーキングブレーキを確実にかけ、**オートマチック車** はセレクトレバーを **P** に入れ、**マニュアル車** はチェンジレバーを R または1速に入れてください。

パンクしたとき

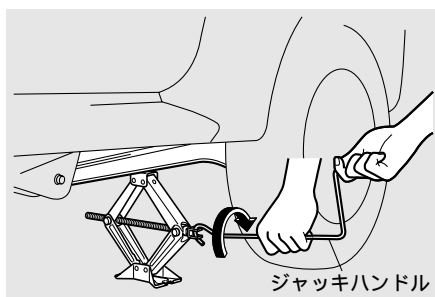
ジャッキアップ

- 1 ジャッキハンドル取付け部を手でまわし、ジャッキ上面の穴を図中に矢印で示してあるサスペンションアームのボス部にはめ込みます。



- 2 ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。

- 3 ジャッキハンドルをまわして、タイヤが地面から少し離れるまで、車体を静かに持ち上げます。



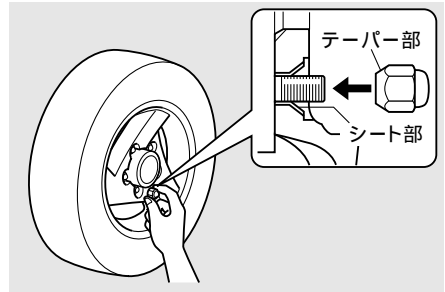
タイヤの取付け・取外し

- 1 ホイールナットを外してタイヤを交換し、外したタイヤはスペアタイヤのときと同じように車体の下に置きます。

⚠注意

- ホイールの取付け面を汚したときや汚れがあるときは拭き取ってください。
汚れがあると、走行中にホイールナットがゆるむことがあります。
- ナットやボルトにオイルやグリスを付着させないでください。
必要以上に締め過ぎて、ボルトが折れるおそれがあります。

- 2 ホイールナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く接触するまで、手で右にまわして仮り締めします。

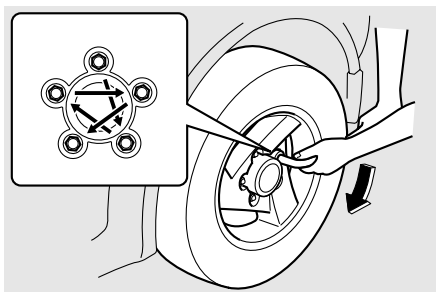


- 上図のアルミホイールのデザインはお車のタイプにより異なります。

パンクしたとき

タイヤの取付け・取外し

- 3 タイヤが地面に接触するまでジャッキを下げます。
- 4 ホイールナットレンチで、ホイールナットを下図の順序で2～3回に分けて締め付けます。
締め付けトルク：80～120N・m
(従来単位：8～12kgf・m)



⚠注意

- ホイールナットレンチの柄の先端にかかる力は300N (従来単位：31kgf) を目安にしてください。ホイールナットレンチを足で踏んだりパイプを使って締めると、ボルトが折れるおそれがあります。

タイヤを交換したあとは

- 工具、ジャッキ、パンクしたタイヤは、所定の位置に確実に格納してください。

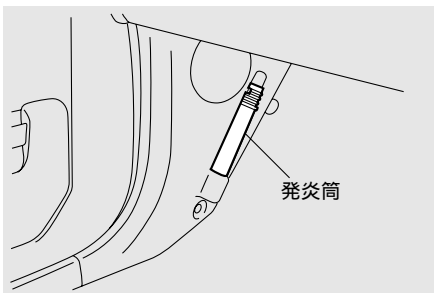
⚠注意

- タイヤを取り付けてしばらく走行後、ホイールナットのゆるみがないか確認してください。
- タイヤを交換したあとの走行で、車体の振動などの異常を感じたときは、タイヤやホイールなどが正常でないことが考えられます。このようなときは、スズキサービス工場にご連絡ください。
- アルミホイール車は1,000 km 程度走行したあとに、再びホイールナットを締め付けて、ゆるみがないことを点検してください。

故障したとき

発炎筒

- 発炎筒は、助手席足元の左側面にあるブラケットに取り付けてあります。
- 点火すると約5分間発炎します。踏切や高速道路などの危険な場所で故障したときに、非常用信号として使用します。
- 使用方法是発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでおいてください。
- 発炎筒に表示されている有効期限が切れる前に、新品と交換してください。発炎筒のお求めはスズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。



⚠ 警告

- お子さまにはさわらせないでください。やけどや火災などの思いがけない事故を起こすおそれがあります。
- ブラケットに保管してください。
- 点火するときに筒先を顔や身体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。
- ガソリンなどの燃えやすい物の近くでは、使用しないでください。引火して火災になるおそれがあります。
- トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなります。トンネル内での合図は非常点滅灯をご使用ください。

故障したとき

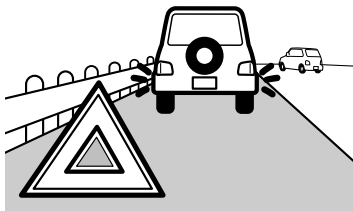
道路で故障したときは

■ 一般道路

車を路肩に止めて非常点滅灯を点滅させ、必要に応じて、停止表示板（別売り）や発炎筒を使用して他車に注意をうながします。

■ 高速道路

車を路側帯に止めて非常点滅灯を点滅させ、停止表示板（別売り）を車の後ろに置きます。必要に応じて発炎筒を使用します。



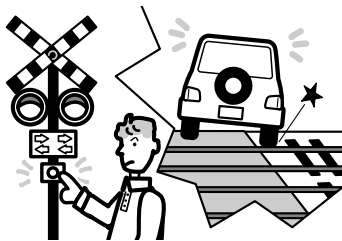
故障したときの連絡先は

故障したときは、お買い上げのスズキ販売店またはスズキ代理店にご連絡ください。

スズキ代理店の所在地や電話番号は、別添の「スズキ4輪車サービスネットワーク」をごらんください。

踏切内で動けなくなったときは

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。



踏切の非常ボタンがわからず緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図してください。



エンストした車を少し移動させるときは

踏切や交差点などで、エンストして始動できなくなったときは、付近の人に押しってもらって、車を安全な場所まで移動させてください。

このとき、**オートマチック車** はセレクトレバーを **N** に入れ、**マニュアル車** はチェンジレバーを **N** に入れます。



アドバイス

- **マニュアル車**、**オートマチック車**ともエンジンスイッチを **START** の位置で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

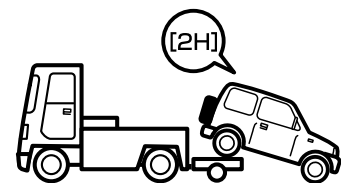
けん引してもらうとき

けん引について

専門業者に依頼してレッカー車でけん引してもらうときは、4輪または後輪を持ち上げてください。

また、故障車を移動するには、けん引以外に車両運搬車を利用する方法もあります。

エンジンがまわって発進操作をしているのに車が動かなかったり、いつもと違う音がするときは、駆動装置の故障が考えられますので、けん引の前にまずスズキサービス工場にご連絡ください。



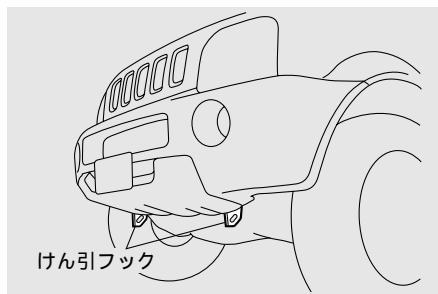
⚠注意

- 後輪だけを持ち上げてけん引するときは、トランスファーレバーを〔2H〕にしてください。
→ 130ページ（トランスファーレバー）
- トランスファーレバーを〔4H〕または〔4L〕から〔2H〕に入れるときは、必ずエンジンをかけておき、オートマチック車はセレクトレバーを **[N]** または **[P]** に入れてから操作し、メーターパネル内の4WD表示灯の消灯を確認してください。
- 4WD車を移動させるときに、4WDのままで、前輪だけまたは後輪だけを持ち上げてけん引すると、持ち上げられた車輪が回転して、思いがけない事故を起こすおそれがあります。

ロープけん引

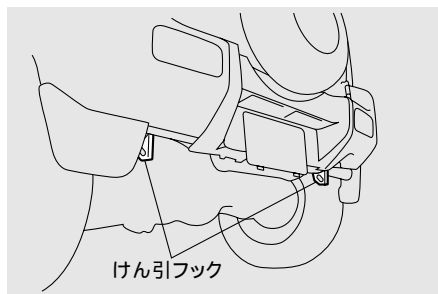
- ロープをかける位置は
ロープはけん引フックにかけます。

フロント側



リヤ側

この車を一時的に後ろに移動させるとき
や他車をけん引するときは、後ろのけん
引フックにロープをかけます。



アドバイス

- この車で自車よりも重い車をけん
引しないでください。

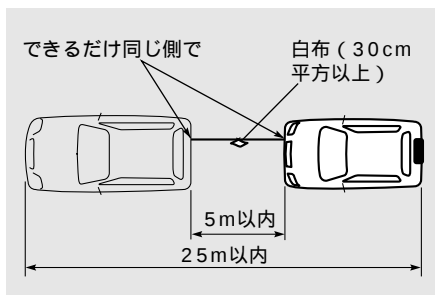
- ロープでけん引してもらうと
きは

- 1 けん引フックにロープをかけます。

アドバイス

- けん引中にロープがバンパーを傷
つけるおそれがあるときは、あら
かじめバンパーを外しておいてく
ださい。
- 車にロープをかけるときは、でき
るだけ同じ側にかけてください。

- 2 ロープの中間に白い布（30cm平方以
上）をつけます。



けん引してもらうとき

ロープけん引

3 ブレーキ倍力装置や、パワーステアリング装置を働かせるため、エンジンはできるだけかけておいてください。エンジンがかかるときは、エンジンをかけたままにしておき、トランスファーレバーを〔2H〕に入れます。

→ 130ページ（トランスファーレバー）

4 エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを〔ACC〕にして、トランスファーレバーを〔2H〕に入れます。

5 オートマチック車はセレクトレバーを〔N〕に入れ、マニュアル車はチェンジレバーをNに入れます。

6 けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯をよく見て運転します。

アドバイス

- オートマチック車を、やむをえずロープでけん引してもらうときは、伝導装置の保護のため、速度30km/h以下、走行距離30km以内でけん引してもらってください。

警告

エンジンが停止した車の運転は

- 走行中にキーを抜いたり、エンジンスイッチを〔LOCK〕の位置にしないでください。ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなります。
- ブレーキ倍力装置が働かないため、いつもより強めにブレーキペダルを踏んでください。
- パワーステアリング装置が働かないため、通常より大きな力をかけて操作してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、レッカー車を依頼し、ロープでけん引しないでください。

エンジンブレーキがまったくきかないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキ装置が過熱して、ブレーキがきかなくなるおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりとは

次のようなときは、バッテリーあがりです。

- エンジンスイッチを [START] の位置にしてもスターターがまわらないか、まわっても回転が弱くてエンジンがかからない。
- いつもに比べて、ヘッドライトが極端に暗かったりホーンの音が小さい。

バッテリーあがりのときは

ブースターケーブルと12 Vバッテリーを使用しているバッテリー正常車があれば、エンジンを始動することができます。

- 1 1本目のブースターケーブルを → の順序で接続し、2本目のブースターケーブルを → の順序で接続します。

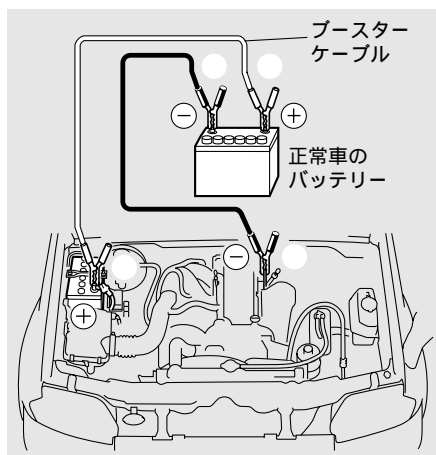
バッテリーあがり車の ⊕ 端子

バッテリー正常車の ⊕ 端子

バッテリー正常車の ⊖ 端子

バッテリーあがり車のエンジン本体

(エンジンハンガーフックなどに接続します)



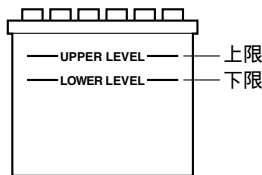
バッテリーがあがったとき

バッテリーあがりのときは

- 2 バッテリー正常車のエンジンを始動させ、エンジンの回転を少し高めに保ちます。
- 3 バッテリーあがり車のエンジンを始動させます。
- 4 取り付けたときと逆の順序でブースターケーブルを外します。
- 5 お近くのスズキ販売店またはガソリンスタンドでバッテリーを完全充電します。

⚠ 警告

- バッテリーからは水素ガスが出ています。水素ガスは火気や火花に引火すると爆発のおそれがありますので、充電などするときは次のことをお守りください。
- バッテリーを充電するときや、始動補助でブースターケーブルをつなぐときは、必ずバッテリー液面を確認してください。バッテリー液面が下限（LOWER LEVEL）以下で充電などすると、バッテリーの劣化を早めたり発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を上限（UPPER LEVEL）まで補給してから、充電などを行なってください。



- 充電は火気のない風通しのよいところで、すべてのバッテリーキャップを外して行なってください。
- の接続のときに、バッテリーあがり車の ⊖ 端子につながらないでください。発生した火花が水素ガスに引火し、爆発するおそれがあります。バッテリーから離れたエンジン本体に接続してください。
- 乾いた布でバッテリーを拭かないでください。

⚠ 警告

- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分が侵されます。万一、付着したときはすぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

- ブースターケーブルはしっかり接続してください。エンジン始動時の振動でクリップが外れると、ブースターケーブルがVベルトに巻き込まれることがあります。
- ブースターケーブルの ⊕ 端子は、接続時、取り外し時および始動中にバッテリー ⊕ 端子以外の部分（⊖ 端子、ボデー、ブラケットなど）と接触しショートさせないように注意してください。
- オートマチック車 は押しがけできません。
また、マニュアル車 も安全のため、押しがけをしないでください。

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジン进行停止したままライトをつけたり、長時間ラジオなどを聞かないようにしましょう。
- エンジンがかかっても渋滞などで長時間アイドリング状態で停車している場合は、電装品の使用を極力避けてください。
- バッテリー液が減っていると充電能力が低下して、寿命が短くなります。
ときどき点検してバッテリー液が減っているときは補充をしてください。
→ メンテナンスノート（日常点検）

ヒューズを交換するとき

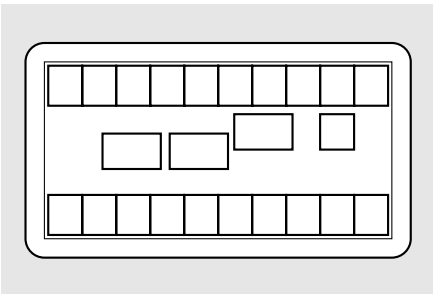
ヒューズが切れたとき

電気系統の装置が作動しないときや、電球切れでないのにランプが点灯しないときは、ヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズボックス

ヒューズボックスは運転席足元とエンジンルーム内にあります。

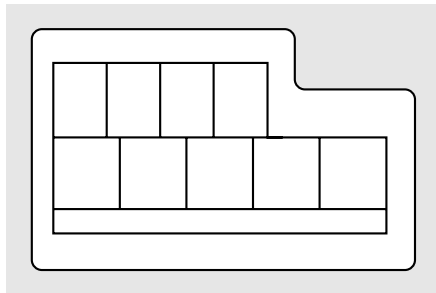
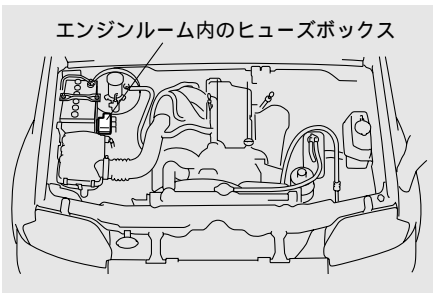
■ 運転席足元のヒューズボックス



	CIGAR	15A	シガーライター
	ABS	10A	ABS
	BACK	10A	後退灯
	METER	10A	メーター
	IG	15A	始動装置
	AIR BAG	15A	エアバッグ
	4WD	10A	4WD
	WIPER WASHER	15A	ワイパー ウォッシャー
	POWER WINDOW	30A	パワー ウインドー

	FOG	15A	フォグランプ
	HORN HAZARD	15A	ホーン 非常点滅灯
	RADIO DOME	15A	ラジオ 室内灯
	TAIL	10A	尾灯
	STOP	15A	制動灯
	DOOR LOCK	15A	ドアロック
	SEAT HEATER	15A	シート ヒーター
	REAR DEFG	15A	リヤ デフォッガー
	HEATER	20A	ヒーター

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



	15A	エアコン
	15A	燃料噴射
	15A	ヘッドライト（右）
	15A	ヘッドライト（左）

	60A	照明回路
	60A	点火装置
	50A	ABS
	80A	すべての電気回路

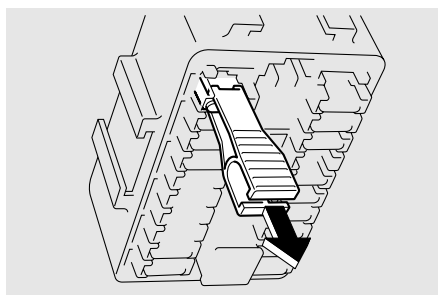
ヒューズを交換するとき

ヒューズの点検と交換

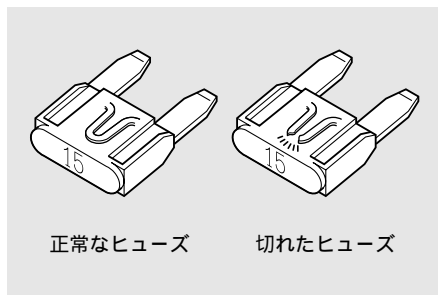
ヒューズ、ヒューズ抜きについては、スズキ販売店またはスズキ代理店でご購入ください。

点検のしかた

- 1 エンジンスイッチを **LOCK** にします。
- 2 ヒューズボックスのカバーを外します。
- 3 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表で確認し、ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか点検します。



- 4 切れているときは同じ容量のヒューズと交換します。



⚠ 注意

- ヒューズは同じサイズで同じ容量のものと交換してください。サイズの違うヒューズ、容量の大きいヒューズ、針金、銀紙などと交換すると、配線などが焼損する原因となります。

🔧 アドバイス

- 交換したヒューズがすぐに切れるときは、電気系統の故障が考えられます。スズキサービス工場で点検を受けてください。

ランプの電球を交換するとき

電球の点検

ランプや方向指示器を点灯または点滅させて、電球切れの点検をしてください。

💡アドバイス

- ブレーキランプは他の人に見てもらうか、壁などを利用して点検してください。
- メーターパネル内の方向指示表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示器の電球切れが考えられます。
- ヘッドライト・ブレーキランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的にくもることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

電球を交換するときは

電球が切れているときは、同じワット数で同じ口金形状の電球と交換します。各ランプに使用している電球のワット数は、サービスデータ（199ページ）をご覧ください。

⚠️注意

- ハロゲンランプの電球を扱うときは、破損させないようにとくに慎重に扱ってください。
電球の内部に高圧ガスが封入されていますので、割れてガラスが飛散するときにけがをするおそれがあります。

💡アドバイス

- ヘッドライトの電球は、油脂類が付着していない、きれいな手袋をはめて扱ってください。
ヘッドライトの電球は使用時に高温になるため、素手で扱うと油などが付着して電球の寿命が短くなります。

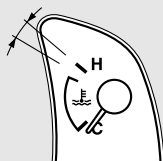
オーバーヒートしたとき

オーバーヒートとは

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の指針がオーバーヒート範囲に入ったとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

オーバーヒート範囲



⚠ 警告

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。
蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

- 1 車を安全な場所に止めます。
- 2 エンジンをかけたままでボンネットを開けてエンジンルーム内の風通しをよくします。

⚠ 警告

- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているときは、ボンネットを開けないでください。
蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。

- 3 冷却ファンの作動を確認し、水温計の指針が下がるのを待ってエンジンを止めます。

👉 アドバイス

- 冷却ファンが作動していないときや、水温計の指針が下がらないときは、ただちにエンジンを止め、スズキサービス工場にご連絡ください。

- 4 エンジンが十分冷えてから、冷却水の水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

警告

- ラジエーターキャップを外すときは、エンジンの温度が十分に下がってから外してください。エンジンが熱いときは冷却水に圧力がかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。



- 5 冷却水の水量が不足しているときは補給します。

アドバイス

- 冷却水がなく水だけを補給したときはできるだけ早くスズキサービス工場で不凍液（クーラント）濃度の点検を受けてください。
- 水漏れなどの異常があるときはスズキサービス工場にご連絡ください。

事故が起きたとき

処置のしかた

- 1 事故の続発を防ぐため、他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。
- 2 負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。
- 3 事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。
- 4 相手方、事故の状況をメモします。
- 5 ご購入された販売店や保険会社へ連絡します。

アドバイス

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

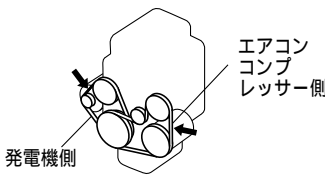
サービステータ

項 目		デ ー タ	
燃 料	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	タンク容量	40 L	
エンジンオイル	グレード	スズキエクスターオイル 5W-20(SJ)、10W-30(SH/CD)、5W-30(SG/CD)	
		外気温に応じたオイルのご使用方法については、冬期に入る前の準備(161ページ)のエンジンオイルの表をご参照ください。	
	規定量	オイル交換時	3.8 L
		オイル、オイルフィルター同時交換時	4.0 L
トランスミッションオイル	グレード	MT車	スズキ4輪ギヤオイル 75W-90(GL-4)
		AT車	スズキATF(2384K)
	規定量	MT車	1.3 L
		AT車	3.7 L
トランスファーオイル	グレード	スズキ4輪ギヤオイル 75W-90 (GL-4)	
	規定量	0.8 L	
デファレンシャルオイル	グレード	スズキ4輪スーパーギヤオイル 80W-90 (GL-5)	
	規定量	フロント	1.35 L
		リヤ	1.5 L
冷却水	グレード	スズキクーラント	
	規定量	5.2 L	
ウォッシャー液	グレード	スズキウインドーウォッシャーフルード	
	タンク容量	2 L	
ブレーキ液	グレード	スズキブレーキフルード (DOT-3)(JIS・BF-3)	
パワーステアリングオイル	グレード	スズキATオイル (5D06)	

油脂類などの交換時期は、メンテナンスノートをごらんください。

指定外のATF、ブレーキ液、パワーステアリングオイルは絶対に入れないでください。

サービスデータ

項 目		デ ー タ		
スパーク プラグ	タイプ (電極のすき間)	NGK : IFR5E11 (1.0 ~ 1.1 mm)		
バッテリー	タイプ	55B24R-MF		
アイドリング	回転速度	MT車	700 ± 50 rpm	
回転速度(回転数)	(回転数)	AT車	750 ± 50 rpm	
ブレーキ ペダル	遊び	1 ~ 8 mm		
	床面とのすき間	65 mm以上〔 踏み込み力 300 N(従来単位:31kgf)〕		
クラッチ ペダル	遊び	10 ~ 20 mm		
	床面とのすき間	54 mm以上 (クラッチが切れたとき)		
パーキングブレーキ	引きしろ	6 ~ 8 ノッチ〔 操作力 200 N(従来単位:20 kgf)〕		
Vベルト	たわみ量 〔 100N(従来 単位:10kgf) で押したとき 〕	発電機側	新品時	3 ~ 4 mm
			再張時	4.5 ~ 5.5 mm
		エアコン コンプレッサー側	新品時	7 ~ 9 mm
			再張時	9 ~ 11 mm
				
ハンドル	遊び	0 ~ 30 mm (ホイール外周)		
タイヤ	ローテーション時期	5,000 km走行ごと		

■ 電球の容量

名 称	容 量	名 称	容 量
ヘッドライト	60/55 W	制動灯 / 尾灯 (車体取付け)	21/5 W
フォグランプ	55 W	制動灯 (リヤバンパー取付け)	21 W
車幅灯	5 W	後退灯	10 W
方向指示器 (前面)	21 W	番号灯	5 W
方向指示器 (側面)	5 W	前席室内灯	8 W
方向指示器 (後面)	18 W	荷室室内灯	5 W

■ タイヤの空気圧

() 内は従来単位

タイヤサイズ	前 輪	後 輪
205/70R15 95Q	160 kPa (1.6 kgf/cm ²)	180 kPa (1.8 kgf/cm ²)

■ ホイールのサイズ

タイヤ	適合ホイール		
	リムサイズ	オフセット	取付ピッチ円直径 (PCD)
205/70R15 95Q	15 × 5 1/2JJ	5 mm	139.7 mm

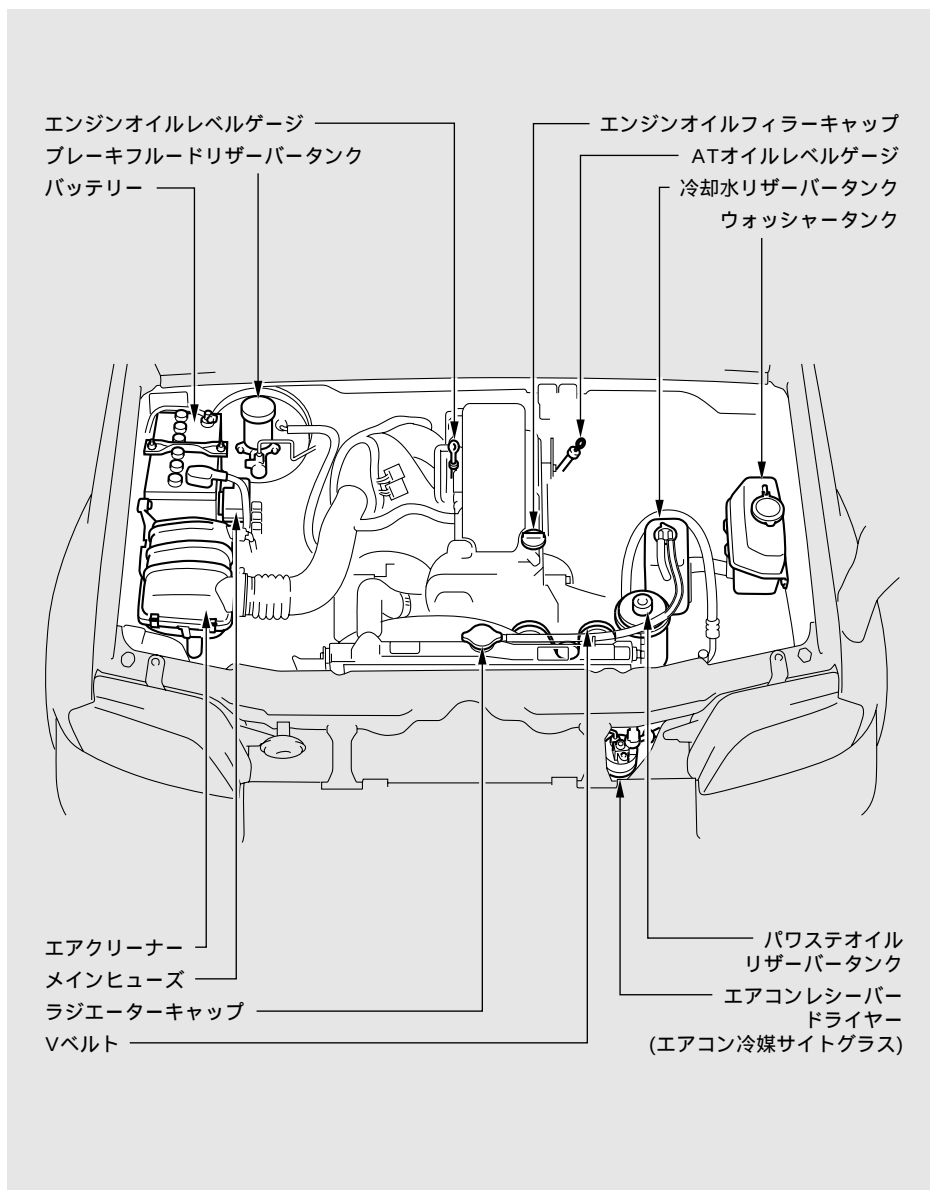
■ タイヤチェーン

タイヤサイズ	指定タイヤチェーン		
	形 式	スズキ品番	JIS表示
205/70R15 95Q	スチール製 くさり形	99000-99072-005	45102A

サービスデータ

■ エンジンルームをのぞいて

太字は日常点検が必要な部品の一部です。詳しくはメンテナンスノートをごらんください。



ア

Rポジション警告ブザー	25、129
アルミホイール	
タイヤ交換	175
タイヤチェーン	168
手入れ	157
アンテナ	144

ウ

ウインドー	
ウインドーロックスイッチ	76
フロントウインドーガラスの手入れ ...	156
バックウインドーガラスの手入れ ...	158
パワーウインドー	74
ウェアインジケーター	160
ウォークインペダル	84
ウォッシャー液	197
ウォッシャースイッチ	108

エ

エアコン、ヒーター	136
ABS(アンチロックブレーキシステム)	
警告灯	66、104
装置	65
SRSエアバッグシステム	31、53
エンジンオイル ...	33、103、161、197
エンジン回転計(タコメーター) ...	98
エンジンキー	68
エンジン警告灯	103
エンジンスイッチ	112
エンジンのかけかた	114
エンジンフード(ボンネット)	78
エンジンブレーキ	18
エンジンルームをのぞいて	200
エンジンをかける前に	111
エンスト	183

オ

オイル(エンジンオイル) ...	33、103、161、197
オーディオ	143
オートマチック車(運転)	121
オートマチック車(セレクトレバー) ...	118
オーバードライブ(O/D)スイッチ	
OFF表示灯	102、121
下り坂走行	126
装置	121
オーバーヒート	194
お子さまを乗せるとき	13
オドメーター(積算距離計)	97

カ

外気導入(エアコン)	140
外装のお手入れ	154
格納機能付きドアミラー	92
各部の開閉	68
各部の調節	81
カセットテープ(取扱い)	143
ガソリン(燃料)	11、197
仮眠するときは	22
寒冷時の取扱い	161

キ

キー(エンジンキー)	68
キーインターロック	25、128
キースイッチ(エンジンスイッチ) ...	112
キー抜き忘れ警告ブザー ...	68、113
キーナンバー	68
キーレスエントリー	72
キックダウン	24、126
給油	11、197

ク

空気圧	199
区間距離計(トリップメーター) ...	97
くもり取り(デフロスター)	136
くもり取り(リヤデフォッガー) ...	110
クラッチスタートシステム	114
クリーブ現象	24、123、128
車のお手入れ	154
グローブボックス	146

ケ

警告灯の見かた	100
警告ブザー	
Rポジション警告ブザー ...	25、129
キー抜き忘れ警告ブザー ...	68、113
ライト消し忘れ警告ブザー ...	106
経済運転	133
携帯電話	36
けん引	184

コ

工具	172
後席シート	85
後席シートへの乗り降り	84
故障したとき	181

サ

サービステータ	197
サイドアンダーミラー	94
サンバイザー	147

シ

シート	81
シートアンダートレー	150
シートスライドレバー	82
シートベルト	40
シートベルト警告灯	102
シガーライター	148
事故が起きたとき	196
室内装備	145
室内灯	145
シフトロック	24、120
ジャッキ(格納場所)	172
ジャッキアップ(パンクしたとき) ...	177
ジャッキアップ(タイヤチェーン) ...	169

集中ドアロック(パワードアロック) ...	73
充電警告灯	103
樹脂塗装部品の手入れ	157
出発の前に	8
ジュニアシート	14、32、47、57
助手席ウォークイン	84

ス

水温計	98
スイッチの使いかた	106
スタック(立ち往生)	21
スピードメーター(速度計)	97
スペアタイヤ	173

セ

積算距離計(オドメーター)	97
セレクトレバー	
位置表示灯	101
操作	118
洗車のしかた	154
前照灯(ヘッドライト)	106
前席シート	81

ソ

走行中の注意	17
速度計(スピードメーター)	97
速度範囲(オートマチック車) ...	120
速度範囲(マニュアル車)	117

タ

タイトコーナーブレーキング現象 ... 28

タイヤ

- 空気圧 199
- 交換したあとは 180
- 交換するときは 160
- 交換の準備 175
- チェーン 168、199
- ホイールサイズ 199
- ローテーション 159

タコメーター(エンジン回転計) ... 98

立ち往生(スタック) 21

暖機運転 114、133

チ

チェーン(タイヤチェーン) ... 168、199

チェンジレバー 117

チケットホルダー(サンバイザー) ... 147

チャイルドシート 14、32、47、57

チャイルドシート固定機構(シートベルト) ... 46

駐車するときは 22、166

テ

停止表示板 37、182

デフロスター(エアコン) 136

電球

- 電球切れの点検(警告灯) 105
- 電球の交換(ランプ類) 193
- ワット数(ランプ類) 199

点検 8、111

ト

ドア 69

ドアミラー 92

凍結防止剤 154、166

凍結路 165

渡河走行 30

トランスファーレバーの操作 ... 130

トリップメーター(区間距離計) ... 97

ナ

内気循環(エアコン)	140
内装のお手入れ	158

ニ

荷室サイドボックス	151
日常点検	8、111

ネ

燃料	11、197
燃料計	99
燃料タンク容量	197
燃料補給口	80

ハ

パーキングブレーキ	
寒冷時の取扱い	166
操作	116
ブレーキ警告灯	102
パートタイム4WD	27
灰皿	149
ハイドロプレーニング現象	19
はさみ込み防止機構	76
発炎筒	181
バックミラー(ルームミラー)	91
バッテリーあがり	187
バニティミラー(サンバイザー) ...	147
パワーウィンドー	74
パワードアロック	73
パンク(タイヤ交換)	175

ヒ

ヒーター(エアコン)	136
ヒーター付きドアミラー	94
非常点滅灯スイッチ	107
必読	7
ヒューズ	190
表示灯の見かた	100
日よけ(サンバイザー)	147

フ

ブースターケーブル	187
フォグランプスイッチ	110
フットレスト	150
フューエルキャップ	80
フューエルリッド	80
フルフラットシート	90
ブレーキ	
ブレーキ液	197
ブレーキ警告灯	102
ブレーキ倍力装置 ...	17、112、186
ブレーキペダル	198
フロアコンソールトレイ	150
フロアコンソールボックス	149
フロントシート	81

ヘ

ヘッドライト(前照灯)	106
ヘッドライト上向き表示灯	101
ヘッドレスト	
後席	86
前席	83
ベビーシート	14、32、47、57

ホ

ホイールサイズ	199
防眩式ルームミラー	91
方向指示器スイッチ	107
方向指示器表示灯	101
ホーンスイッチ	110
ボンネット	78

マ

マニュアル車(チェンジレバー)	117
万一のとき	171

ミ

ミラー	
サイドアンダーミラー	94
ドアミラー	92
ルームミラー	91

メ

メーターの見かた	96
----------------	----

ユ

油圧警告灯	103
雪道を走行するとき	165

ヨ

横風が強いときは	19
4WD車の運転	27
4WD表示灯	102、132

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー	106
ライトスイッチ	106
ラゲッジフラットパネルの使いかた ...	90
ラゲッジルームランプ(荷室室内灯) ...	145
ラジエーターキャップ ... 35、195、200	
ランプ	
前席室内灯	145
荷室室内灯	145
電球切れの点検(警告灯)	105
電球の交換(ランプ類)	193
フォグランプ	110
ヘッドライト	106
ワット数(ランプ類)	199

リ

リクライニングレバー	82
リバース(R)ポジション警告ブザー ...	25、129
リヤクォーターブレー	151
リヤシート	85
リヤデフォグガースイッチ	110
リヤワイパー/ウォッシャースイッチ ...	109

ル

ルーフレール	12
ルームミラー	91
ルームランプ(室内灯)	145

レ

冷却水(ラジエーター液)	
オーバーヒート	194
寒冷時の取扱い	161
規定水量	197

ワ

ワイパー	
寒冷時の取扱い	162、163、167
ワイパースイッチ	108
ワックスのかけかた	156

[illegible]

お車についてのご相談、ご意見は

お車のことやアフターサービスなどについてのご相談やご意見がございましたら、お買い上げいただきましたスズキ販売店かスズキ代理店にご相談ください。

スズキ代理店にご相談やご意見をいただくときは、別添の「スズキ4輪車サービスネットワーク」に記載してありますお近くの代理店にお気軽にご相談ください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認ください。

車名、車両型式、車台番号、エンジン型式

車体色（番号）、仕様記号

ご購入年月日

走行距離

ご相談内容

お客様のご住所、お名前、お電話番号

スズキ株式会社の窓口は...

〒432-8611 浜松市高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室

フリーダイヤル ☎ 0120-402253

ダイヤルイン ☎ 053-440-2253

受付時間 / 月曜～金曜（除く祝日）

9:00～12:00, 13:00～17:00